

日の出町  
地域福祉に関するアンケート調査  
報告書

令和7年3月

日の出町



# 目次

第1章 調査の概要	1
1. 調査実施の目的	3
2. 調査方法と回収状況	3
3. 調査項目	3
4. 調査結果を見る上での注意事項	4
第2章 調査結果の詳細	5
1. 基本属性	7
（1）性別	7
（2）年齢	7
（3）世帯構成	8
（4）世帯内の状況	8
（5）家族に障がいのある方や介護が必要な方の有無	9
（6）居住年数	9
（7）居住地区	10
（8）現在の健康状態	10
（9）現在の経済状態	11
（10）幸福度	11
（11）就労状況	13
（12）居住意向	13
2. 近所づきあいや地域での暮らしについて	14
（1）現在の近所付き合いの程度	14
（2）望ましい近所付き合いの程度	16
（3）地域の人との付き合いや関わりの必要性	18
（4）住んでいる地域の課題	20
（5）日常生活が不自由になった際、手助けを頼みたい相手	22
（6）日常生活が不自由になった際、地域の人に求めること	24
（7）地域の人が安心して暮らすために、回答者自身ができること	25
（8）孤立感	26
（9）外出する際の移動手段	28
3. 地域での活動について	30
（1）自治会への加入	30
（2）加入していない理由	32
（3）福祉に関するボランティア活動への関心	34
（4）福祉に関するボランティア活動への参加	36
（5）参加しない理由	40

(6) 福祉に関するボランティア活動への参加意向	42
(7) 防災に対する取り組みや緊急時の対応	44
(8) 避難行動要支援者名簿登録制度の認知度	49
(9) 地域の助け合いの推進に必要だと思う活動	51
4. 福祉について	53
(1) 福祉に関する用語や町で行われている事業等の認知度	53
(2) 成年後見制度の利用意向	54
(3) インターネットの使用	56
(4) 使用している機種	57
(5) インターネットの利用目的	58
(6) インターネットによる行政手続きの利用意向	59
(7) 福祉に関する情報の入手経路	60
(8) まちの住みやすさへの考え	62
(9) 住みにくいと思う理由	64
(10) 高齢者がいきいきと暮らせるようにするため、より充実すべきこと	65
(11) 障がい者がいきいきと暮らせるようにするため、より充実すべきこと	67
(12) 子育てをしやすい環境づくりのため、より充実すべきこと	69
(13) 災害時や緊急時に備えるため、より充実すべきこと	71
5. 今後について	73
(1) 地域の中で起こる困りごとや心配なことの解決法	73
(2) 地域における助け合いを活発にするために必要と思われること	75
(3) 地域福祉推進のために町が優先的に取り組むべきだと考える施策	77
6. 自由回答	79
(1) 地域福祉の充実に向けたご意見	79

# 第1章 調査の概要



## 1. 調査実施の目的

日の出町地域福祉計画（第2期）の策定に向け、住民の生活実態や健康状態、福祉施策に対する考え方等を把握し、計画策定の基礎資料を得ることを目的として実施。

## 2. 調査方法と回収状況

調査地域：日の出町全域

調査対象者：町内在住の18歳以上の施設入所者等を除く方の中から、無作為に1,500名を抽出

調査方法：郵送配布、郵送回収・Web回答によるアンケート調査

調査期間：令和7年1月21日（火）～2月10日（月）

<回収状況>

調査名	配布数	有効回収数	有効回収率
地域福祉に関するアンケート調査	1,500件	673件	44.9%

有効回収率（年代別）

	有効回収率（%）	
	郵送	Web
全体	78.5	21.5
18歳～29歳	46.5	53.5
30歳～39歳	50.0	50.0
40歳～49歳	52.8	47.2
50歳～59歳	67.0	33.0
60歳～64歳	75.0	25.0
65歳～69歳	85.2	14.8
70歳～74歳	97.3	2.7
75歳～79歳	94.9	5.1
80歳～84歳	94.9	5.1
85歳～89歳	97.3	2.7
90歳以上	92.9	7.1

## 3. 調査項目

調査名	調査項目
地域福祉に関するアンケート調査	1. 近所づきあいや地域での暮らしについて 2. 地域での活動について 3. 福祉について 4. 今後について 5. あなたのことについて

#### 4. 調査結果を見る上での注意事項

- ・本文、表、グラフなどに使われる「n」は、各設問に対する回答者数である。
- ・百分率（％）の計算は、小数第2位を四捨五入し、小数第1位まで表示した。従って、単数回答（1つだけ選ぶ問）においても、四捨五入の影響で、％を足し合わせて100%にならない場合がある。
- ・複数回答（2つ以上選んでよい問）においては、％の合計が100%を超える場合がある。
- ・本文、表、グラフは、表示の都合上、調査票の選択肢等の文言を一部簡略化している場合がある。
- ・回答者数が30未満の場合、比率が上下しやすいため、傾向を見るにとどめ、本文中では触れていない場合がある。
- ・クロス集計の図表では、分析の軸（表側、性別・年齢別など）に無回答を表示していない。そのため回答者のnの合計が全体のnと合わない場合がある。
- ・年齢別のクロス集計は次のような区分で整理した。

選択肢	分析軸
18歳～29歳	18歳～39歳
30歳～39歳	
40歳～49歳	40歳～59歳
50歳～59歳	
60歳～64歳	60歳～74歳
65歳～69歳	
70歳～74歳	
75歳～79歳	75歳以上
80歳～84歳	
85歳～89歳	
90歳以上	

## 第2章 調査結果の詳細

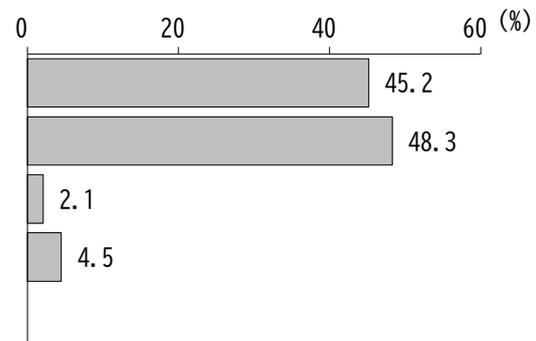


## 1. 基本属性

## (1) 性別

問29 あなたの性別をお教えてください。(○は1つ)

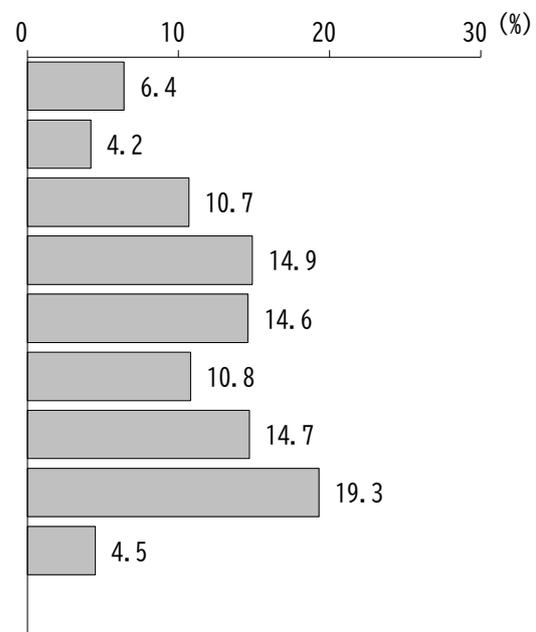
	基数	構成比
男性	304	45.2%
女性	325	48.3%
回答しない	14	2.1%
無回答	30	4.5%
全 体	673	100.0%



## (2) 年齢

問30 あなたの年齢をお教えてください。(○は1つ)

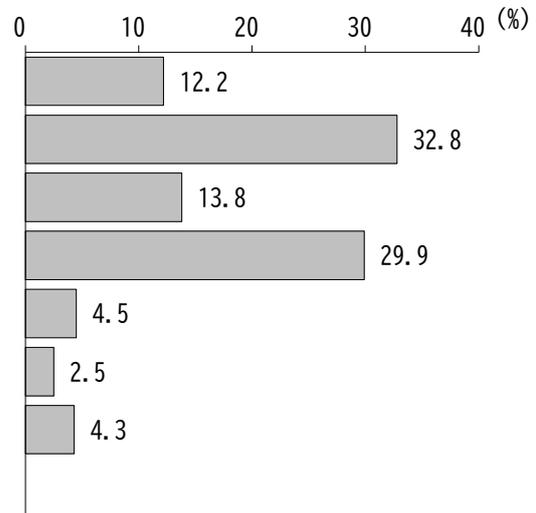
	基数	構成比
18歳～29歳	43	6.4%
30歳～39歳	28	4.2%
40歳～49歳	72	10.7%
50歳～59歳	100	14.9%
60歳～69歳	98	14.6%
70歳～74歳	73	10.8%
75歳～79歳	99	14.7%
80歳以上	130	19.3%
無回答	30	4.5%
全 体	673	100.0%



(3) 世帯構成

問31 あなたの世帯構成をお教えてください。(○は1つ)

	基数	構成比
ひとり暮らし	82	12.2%
夫婦ふたり暮らし	221	32.8%
親と同居(二世帯)	93	13.8%
子どもと同居(二世帯)	201	29.9%
子どもと親、子どもと孫などの三世帯同居	30	4.5%
その他の世帯	17	2.5%
無回答	29	4.3%
全体	673	100.0%



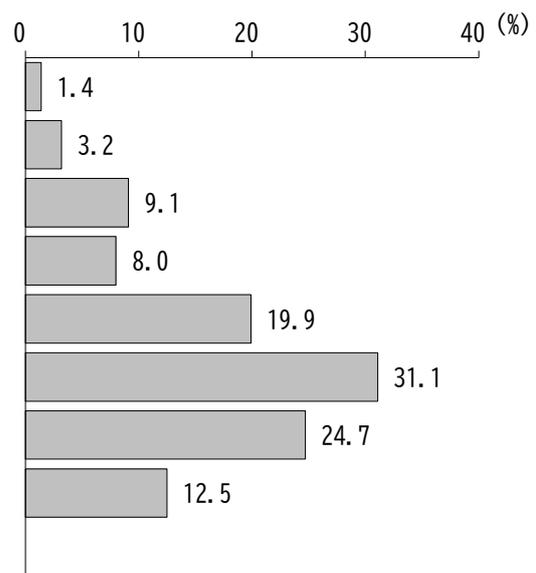
(4) 世帯内の状況

《問31で2～6(「ひとり暮らし」以外)とお答えの方におたずねします》

問31-1 あなたを除いて、世帯に次の方はいらっしゃいますか。

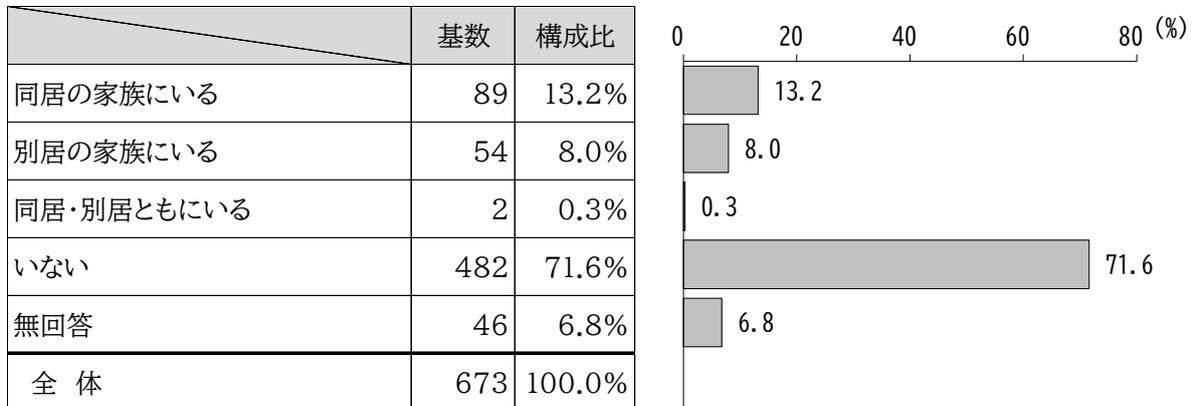
(○はあてはまるものすべて)

	基数	構成比
妊産婦・乳幼児(0～2歳)	8	1.4%
未就学児(3歳以上)	18	3.2%
小学生	51	9.1%
中学生	45	8.0%
高齢者(65～74歳)	112	19.9%
高齢者(75歳以上)	175	31.1%
1～6に該当する方はいない	139	24.7%
無回答	70	12.5%
全体	562	100.0%



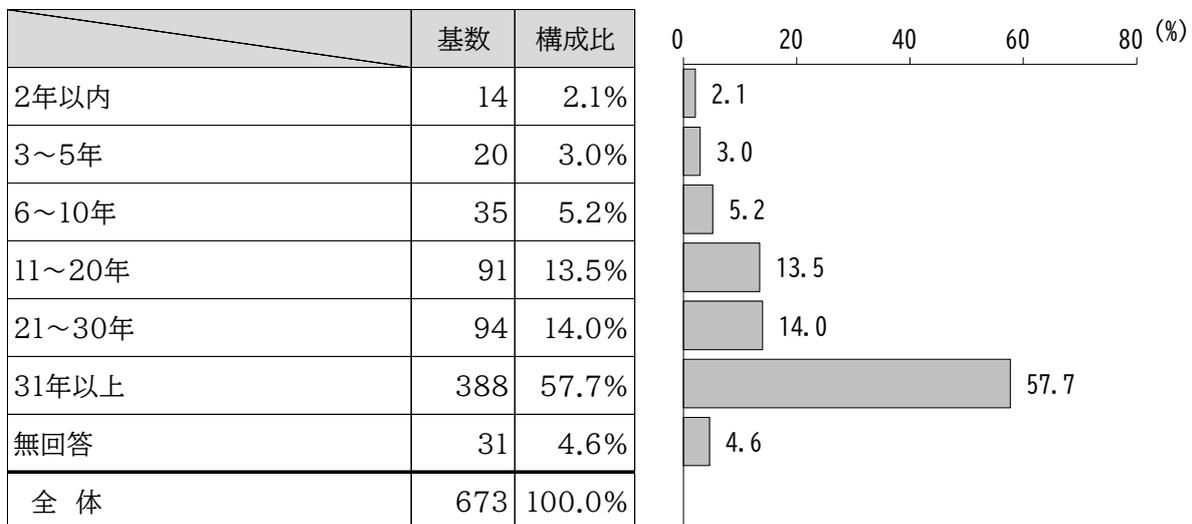
## (5) 家族に障がいのある方や介護が必要な方の有無

問32 あなたのご家族に障がいのある方や介護が必要な方はいらっしゃいますか。(○は1つ)



## (6) 居住年数

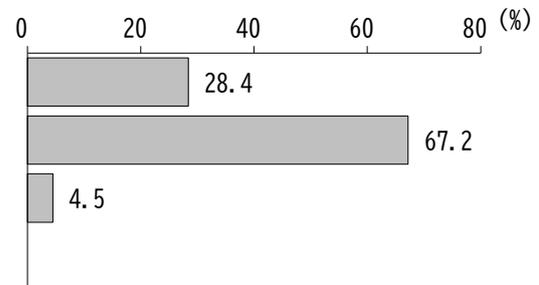
問33 あなたご自身は、日の出町に住むようになってから何年になりますか。(○は1つ)



(7) 居住地区

問34 あなたは、現在どの地区にお住まいですか。(○は1つ)

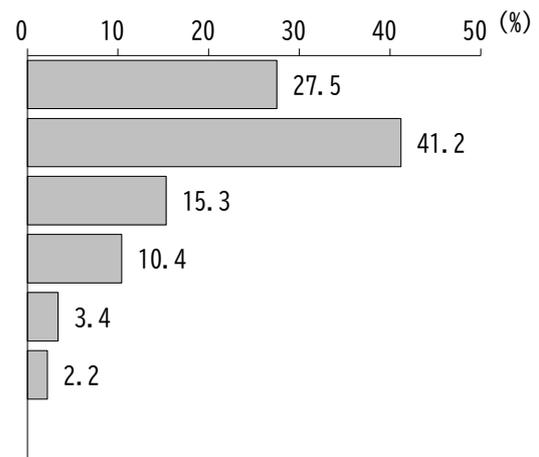
	基数	構成比
大久野地区	191	28.4%
平井地区	452	67.2%
無回答	30	4.5%
全 体	673	100.0%



(8) 現在の健康状態

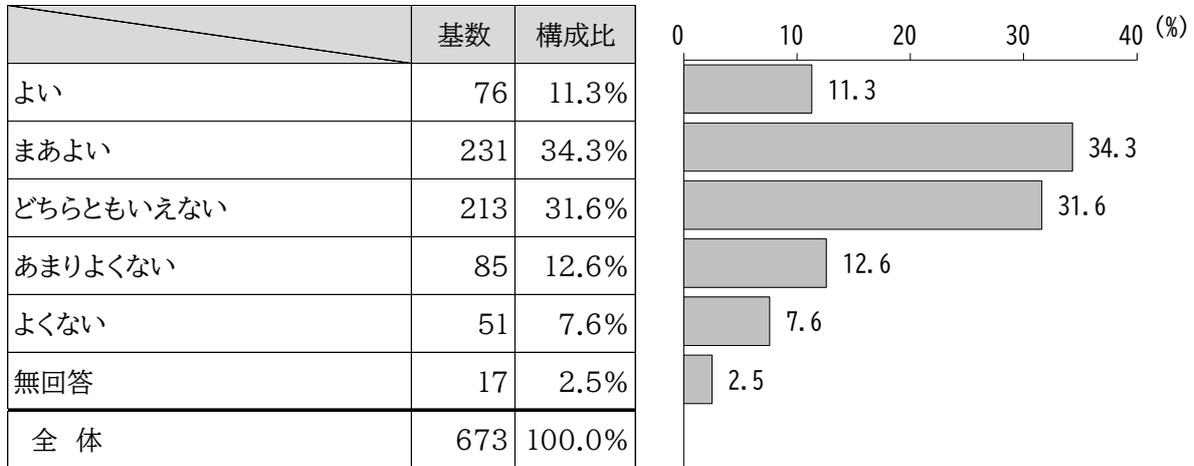
問35 あなたの現在の健康状態はいかがですか。(○は1つ)

	基数	構成比
よい	185	27.5%
まあよい	277	41.2%
どちらともいえない	103	15.3%
あまりよくない	70	10.4%
よくない	23	3.4%
無回答	15	2.2%
全 体	673	100.0%



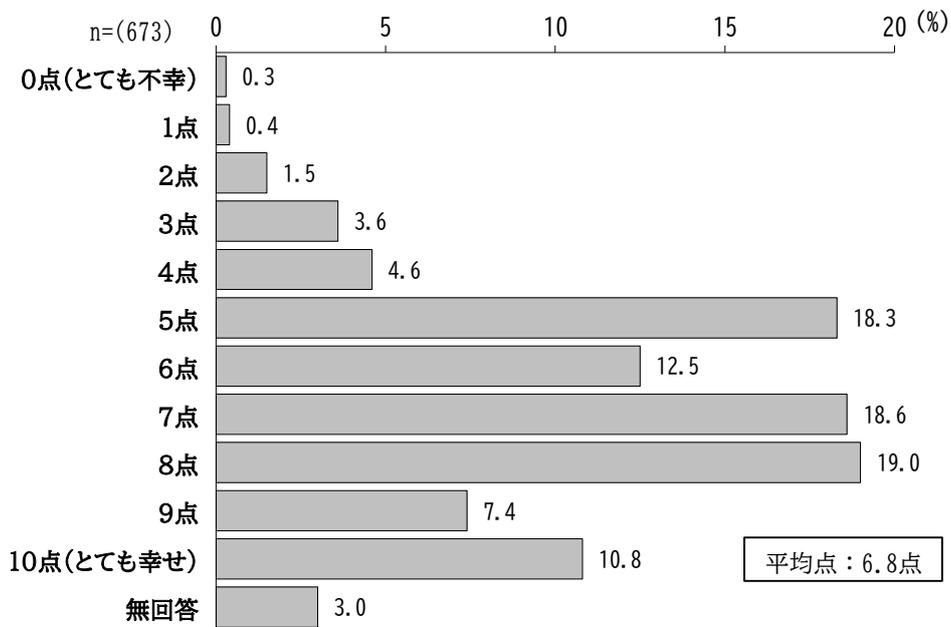
(9) 現在の経済状態

問36 あなたの現在の経済状態はいかがですか。(○は1つ)



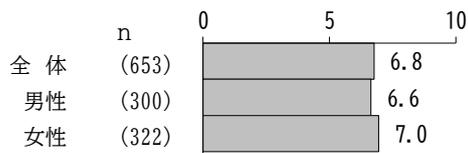
(10) 幸福度

問37 あなたは、現在どの程度幸せですか。(とても不幸が0点、とても幸せが10点)

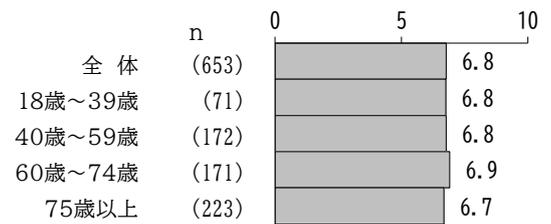


## 第2章 調査結果の詳細

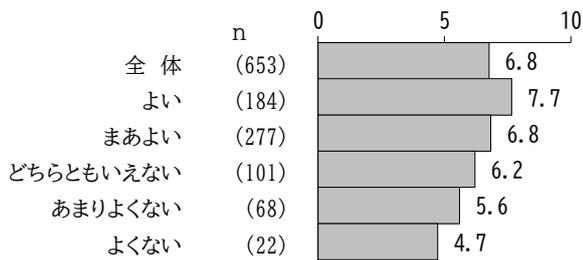
平均幸福度（性別）



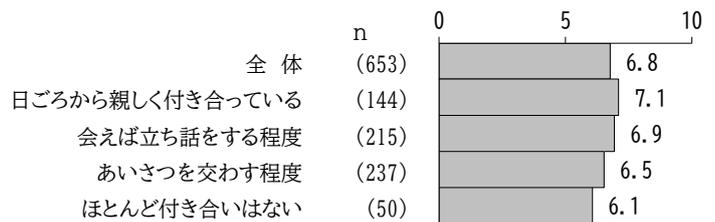
平均幸福度（年齢別）



平均幸福度（現在の健康状態別）



平均幸福度（普段の近所付き合いの程度別）



現在の幸福度は平均6.8点であった。

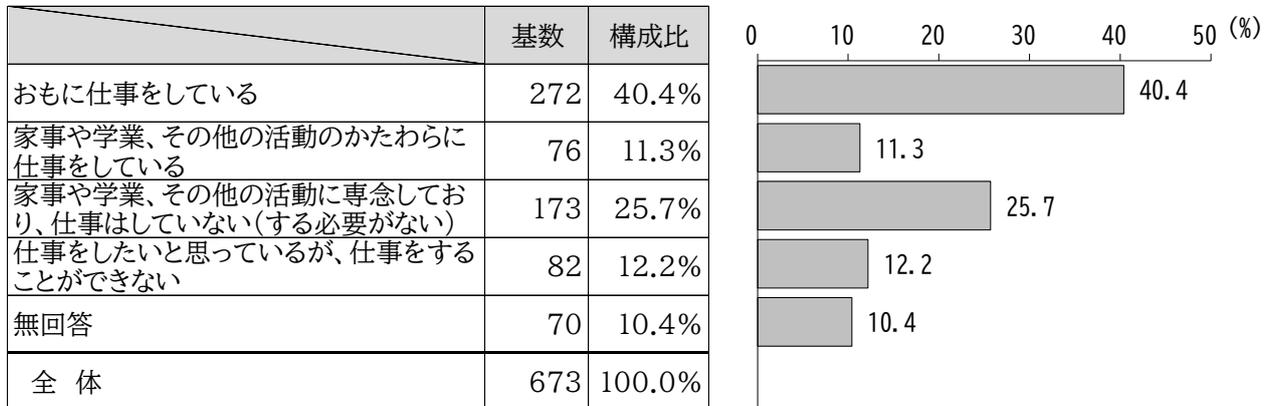
性別、年齢別で見ると、大きな差はみられなかった。

現在の健康状態別で見ると、“よい”で平均7.7点と最も高く、健康状態が良いほど平均点は高くなっている。

普段の近所付き合いの程度別にみると、“日頃から親しく付き合っている”で平均7.1点と最も高く、近所付き合いの程度が多いほど平均点は高くなっている。

## (11) 就労状況

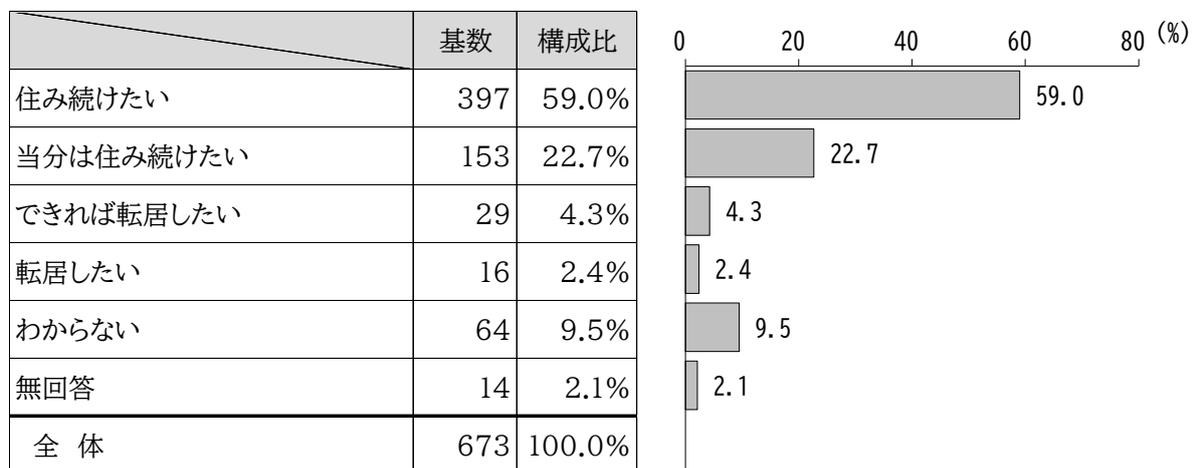
問38 あなたは、ふだん仕事※をしていますか。(○は1つ)



※仕事：ここでは、収入を伴う活動を指し、自営業（農業やお店の仕事など）やその手伝い、内職・アルバイトなども含める。

## (12) 居住意向

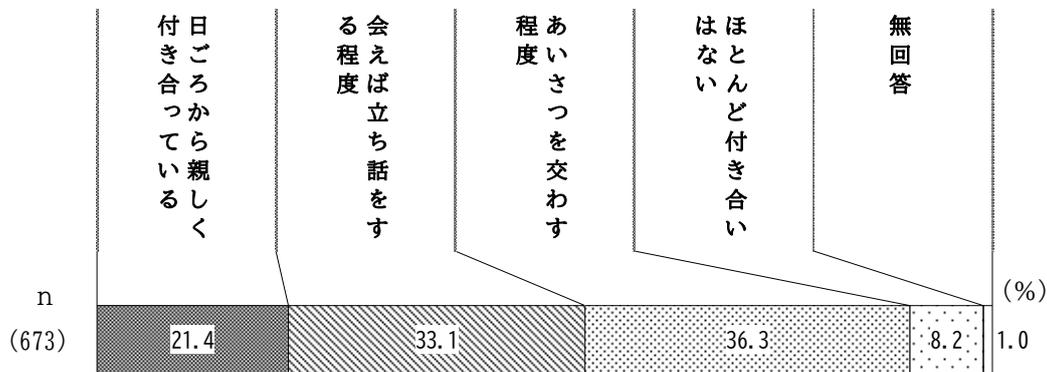
問39 あなたは、これからも日の出町に住み続けたいと思いますか。(○は1つ)



## 2. 近所づきあいや地域での暮らしについて

### (1) 現在の近所付き合いの程度

問1 あなたは、ふだん、ご近所の方とどの程度の付き合いをしていますか。(○は1つ)



現在の近所付き合いの程度では、「あいさつを交わす程度」が36.3%と最も高く、以下、「会えば立ち話をする程度」(33.1%)「日ごろから親しく付き合っている」(21.4%)、「ほとんど付き合いはない」(8.2%)となっている。

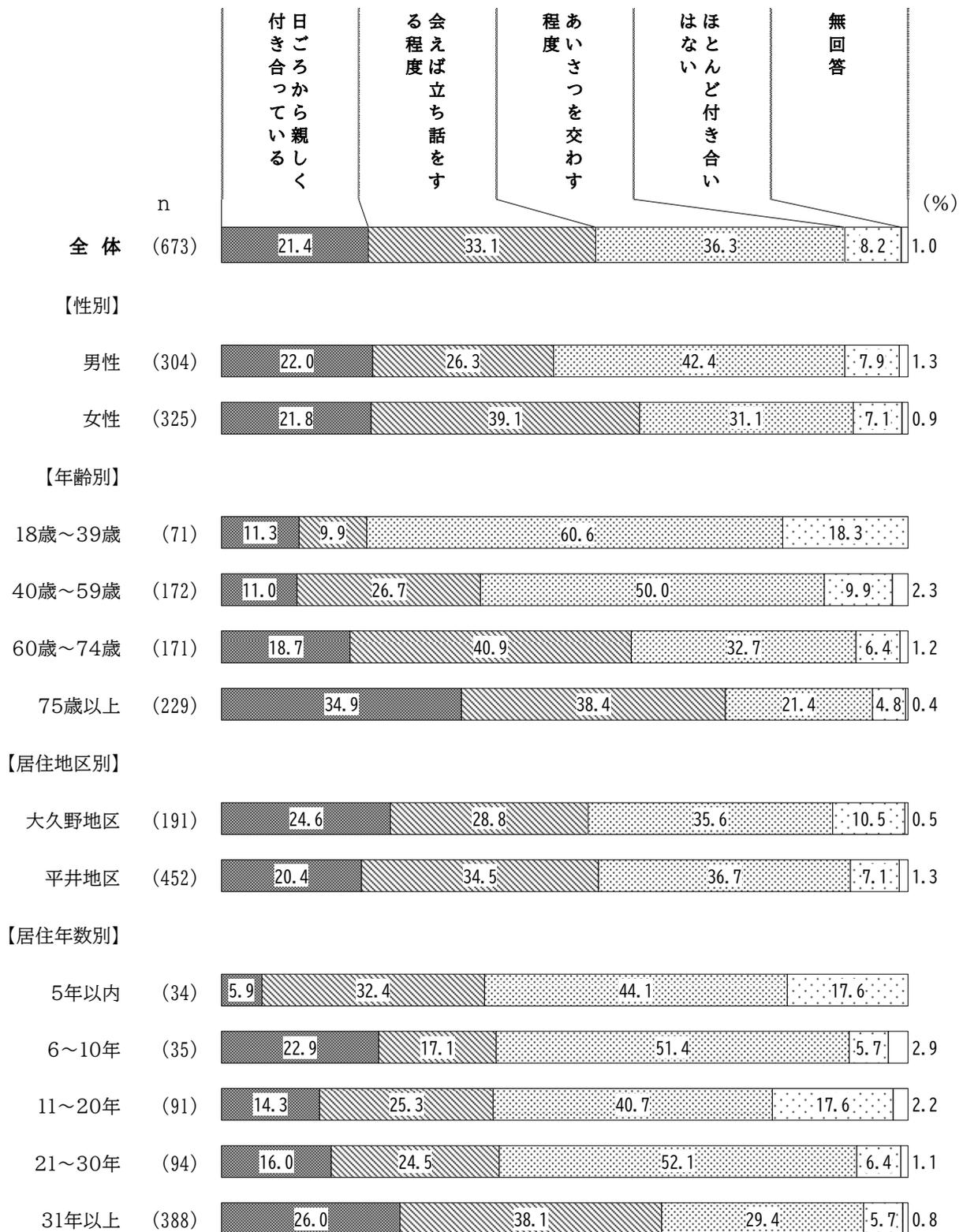
性別でみると、「あいさつを交わす程度」は男性(42.4%)が女性(31.1%)より11.3ポイント高くなっている。一方、「会えば立ち話をする程度」は女性(39.1%)が男性(26.3%)より12.8ポイント高くなっている。

年齢別でみると、「あいさつを交わす程度」は年代が下がるほどその割合は高くなっており、18歳～39歳で6割を超えている。また、「日ごろから親しく付き合っている」は75歳以上で34.9%と高くなっている。

居住地区別でみると、「会えば立ち話をする程度」は平井地区(34.5%)が大久野地区(28.8%)より5.7ポイント高くなっている。

居住年数別では、「日ごろから親しく付き合っている」は6～10年、31年以上で2割を超えている。一方、「ほとんど付き合いはない」は3～5年と11～20年で17.6%と高くなっている。

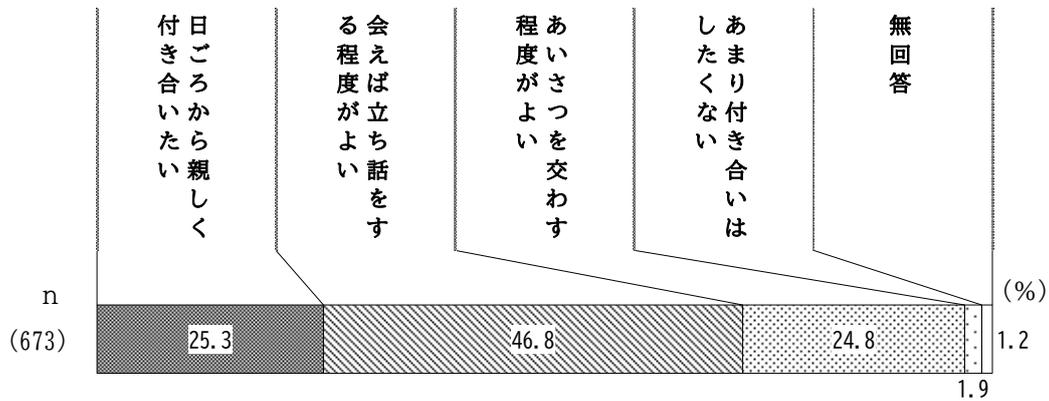
現在の近所付き合いの程度（性別、年齢別、居住地区別、居住年数別）



(2) 望ましい近所付き合いの程度

問2 あなたは、今後、ご近所の方とどの程度の付き合いが望ましいと思いますか。

(○は1つ)



望ましい近所付き合いの程度では、「会えば立ち話をする程度がよい」が46.8%と最も高く、以下、「日ごろから親しく付き合いたい」(25.3%)、「あいさつを交わす程度がよい」(24.8%)、「あまり付き合いはしたくない」(1.9%)となっている。

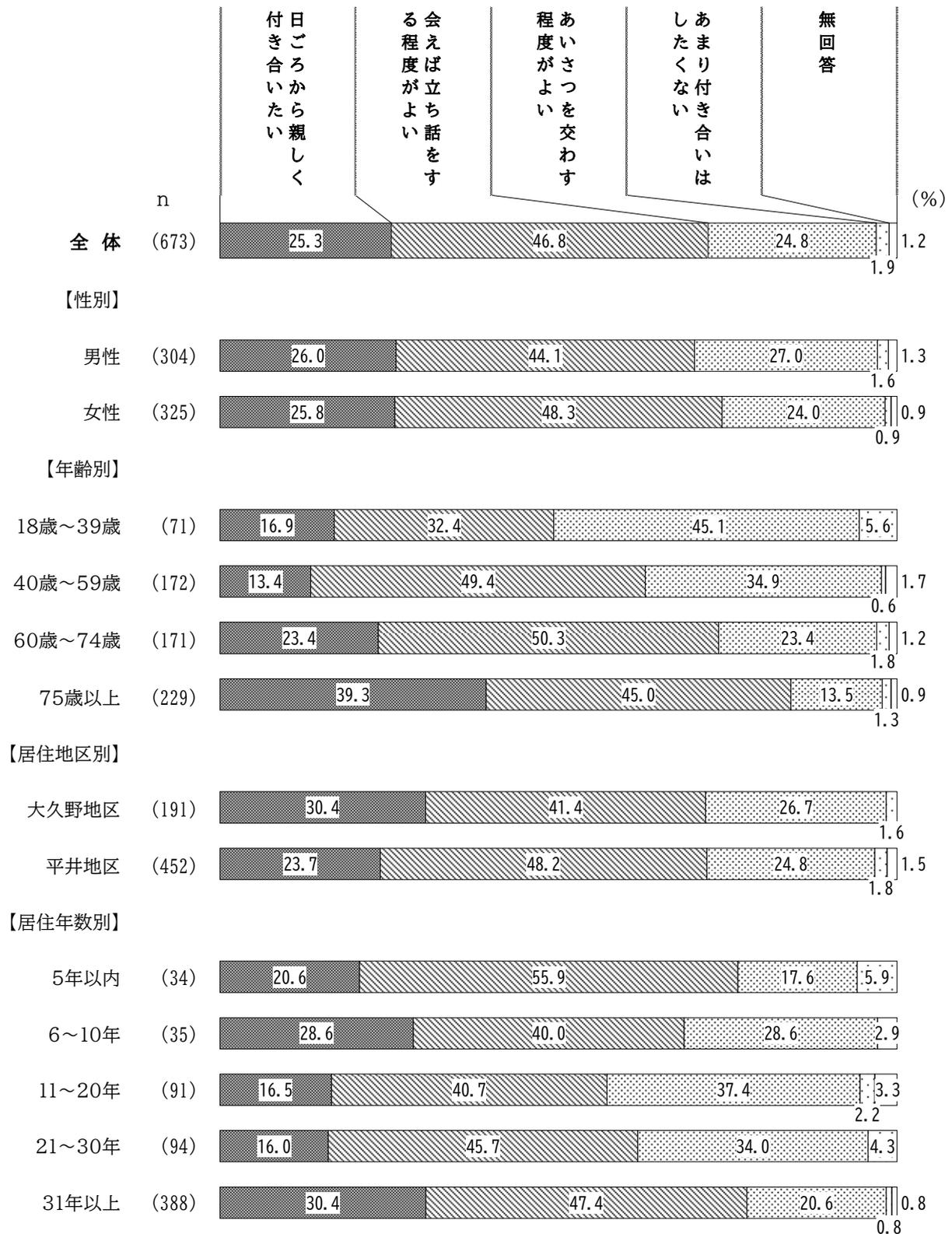
性別でみると、男女の間に大きな差は見られなかった。

年齢別でみると、「日ごろから親しく付き合いたい」は75歳以上(39.3%)で高くなっている。また「あいさつを交わす程度がよい」は年齢が上がるほどその割合は低くなっている。

居住地区別でみると、「日ごろから親しく付き合いたい」は大久野地区(30.4%)が平井地区(23.7%)より6.7ポイント高くなっており、「会えば立ち話をする程度がよい」は平井地区(48.2%)が大久野地区(41.4%)より6.8ポイント高くなっている。

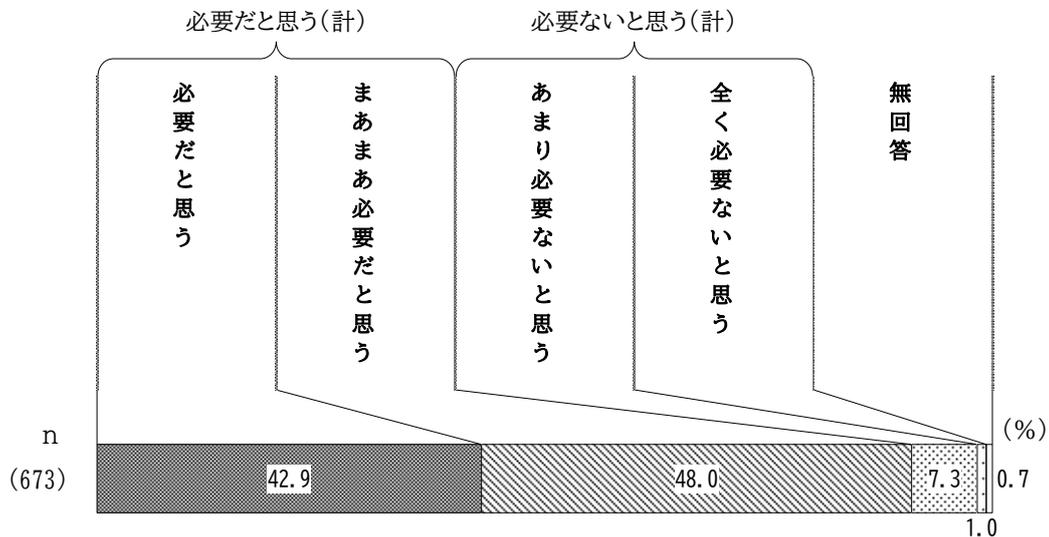
居住年数別でみると、「あいさつを交わす程度がよい」は11~20年、21~30年で3割を超えている。「日ごろから親しく付き合いたい」は31年以上で30.4%と最も高く、次いで6~10年で28.6%となっている。

望ましい近所付き合いの程度（性別、年齢別、居住地区別、居住年数別）



(3) 地域の人との付き合いや関わりの必要性

問3 あなたは、地域の人との付き合いや関わりが必要だと思いますか。(○は1つ)



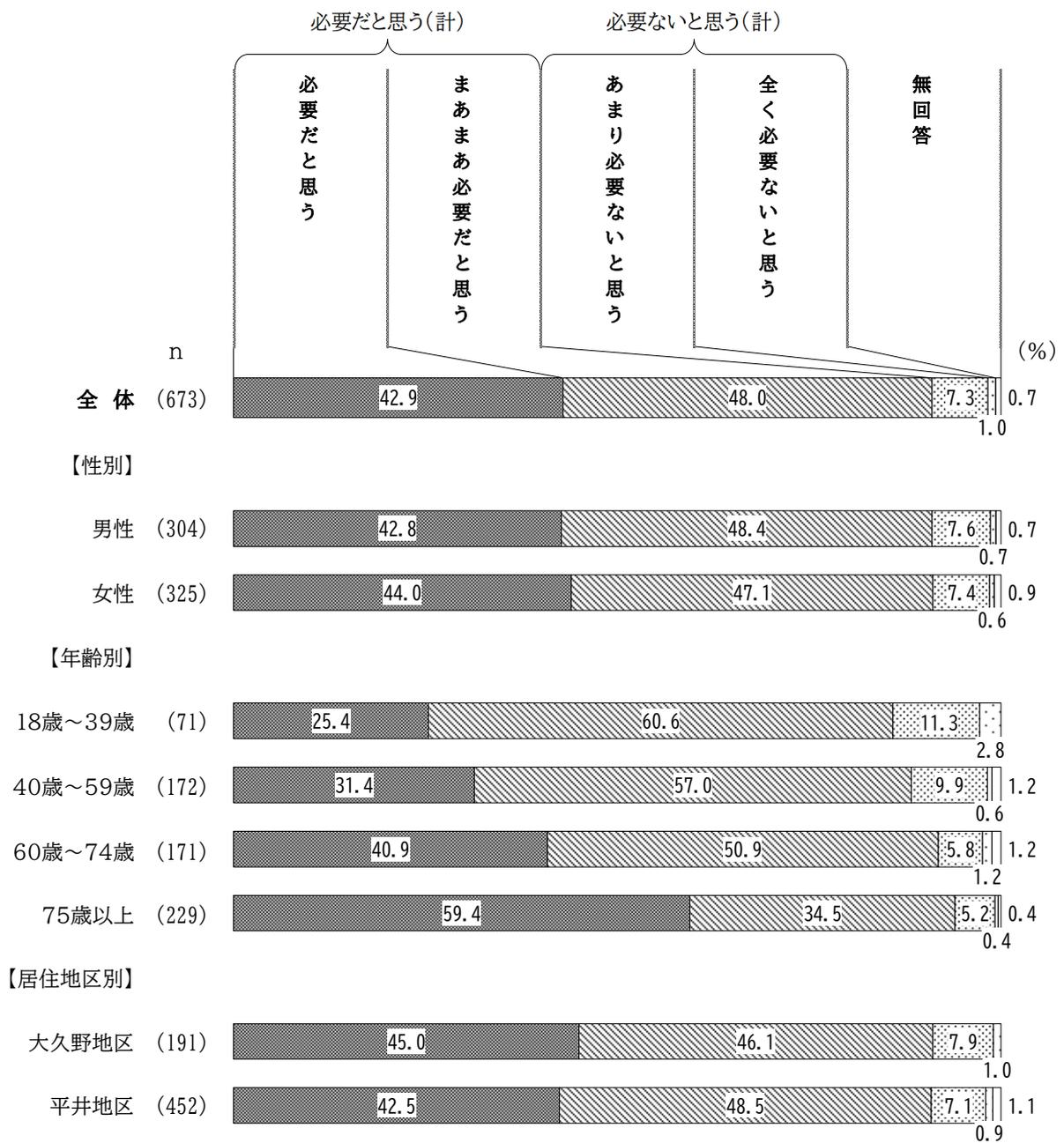
地域の人との付き合いや関わりの必要性では、「必要だと思う」(42.9%)と「まあまあ必要だと思う」(48.0%)を合わせた『必要だと思う』は90.9%となっている。一方、「あまり必要ないと思う」(7.3%)と「全く必要ないと思う」(1.0%)を合わせた『必要ないと思う』は8.3%となっている。

性別でみると、男女の間に大きな差は見られなかった。

年齢別でみると、『必要だと思う』は70歳以上で93.9%と高くなっており、年代が上がるほどその割合は高くなっている。

居住地区別でみると、地域の間には大きな差は見られなかった。

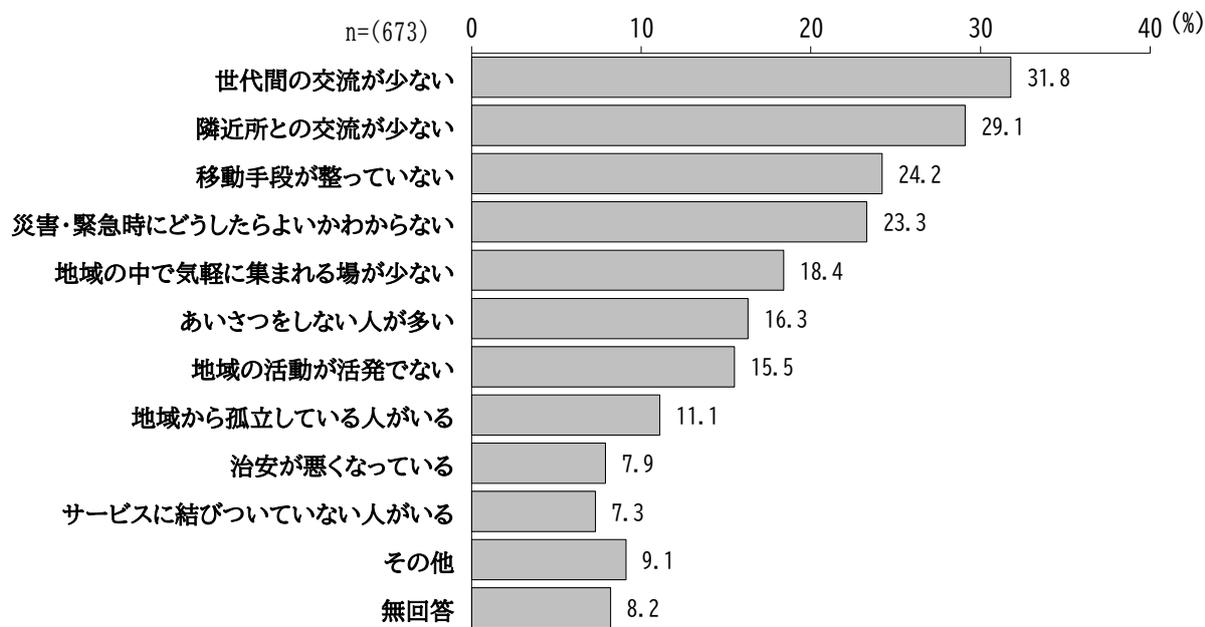
地域の人との付き合いや関わりの必要性（性別、年齢別、居住地区別）



(4) 住んでいる地域の課題

問4 現在、あなたの住んでいる地域の中で課題に感じることは何ですか。

(あてはまるもの全てに○)



住んでいる地域の課題では、「世代間の交流が少ない」が31.8%で最も高く、以下、「隣近所との交流が少ない」(29.1%)、「移動手段が整っていない」(24.2%)、「災害・緊急時にどうしたらよいかわからない」(23.3%)となっている。

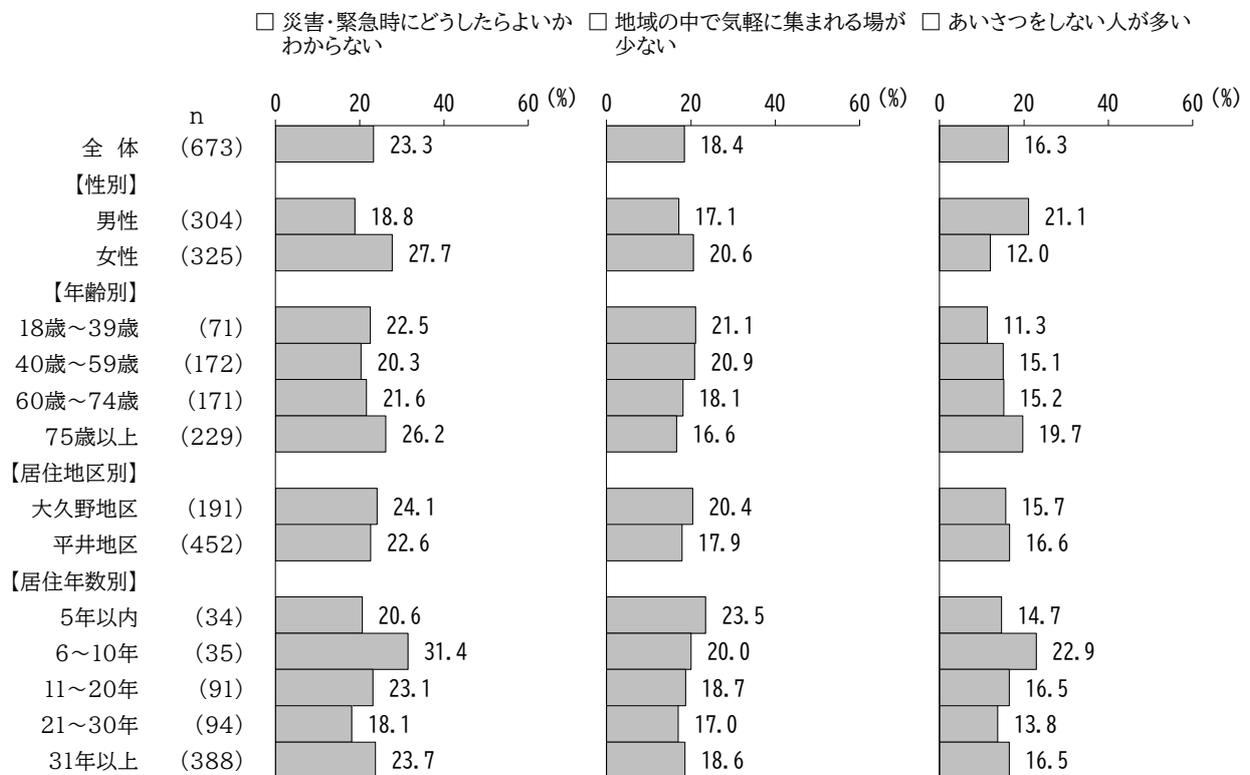
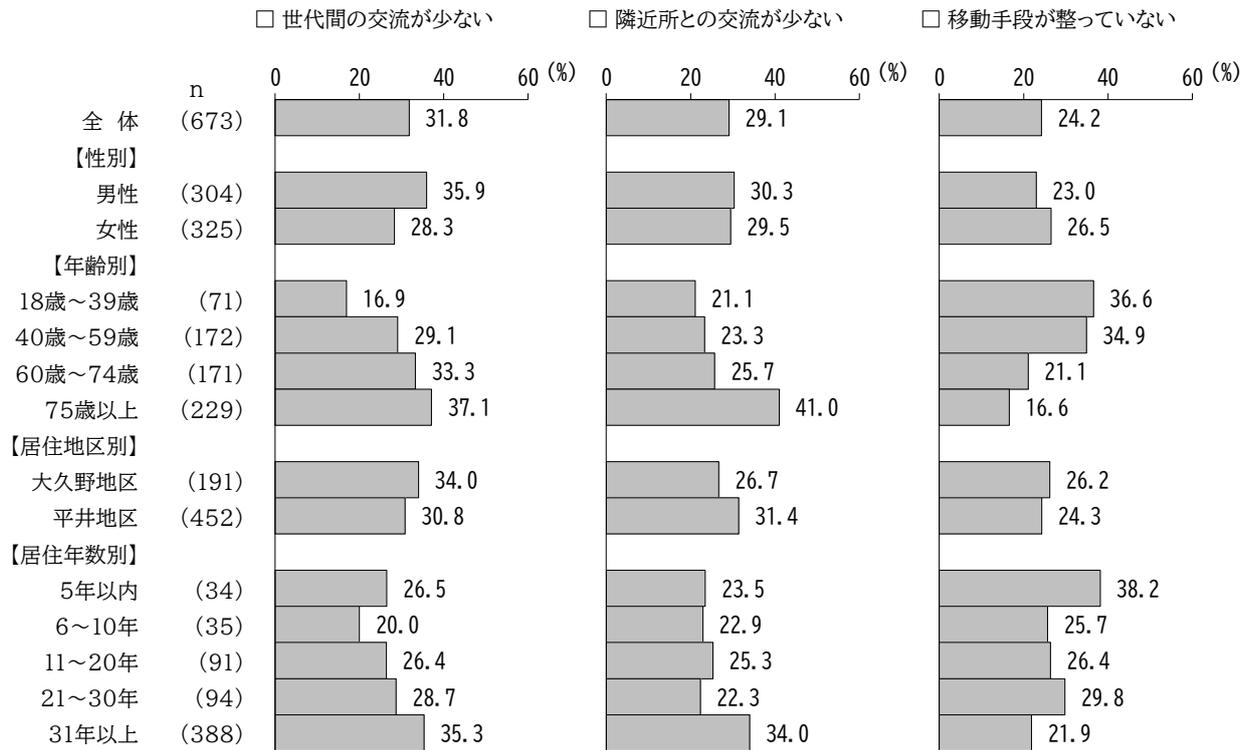
性別でみると、「世代間の交流が少ない」(男性：35.9%、女性：28.3%)は7.6ポイント、「あいさつをしない人が多い」(男性：21.1%、女性：12.0%)は9.1ポイント、男性が女性より高くなっている。一方、「災害・緊急時にどうしたらよいかわからない」は、女性(27.7%)が男性(18.8%)より8.9ポイント高くなっている。

年齢別でみると、「世代間の交流が少ない」「隣近所との交流が少ない」「あいさつをしない人が多い」は年代が上がるほどその割合は高くなっている。

居住地区別でみると、地域の間には大きな差は見られなかった。

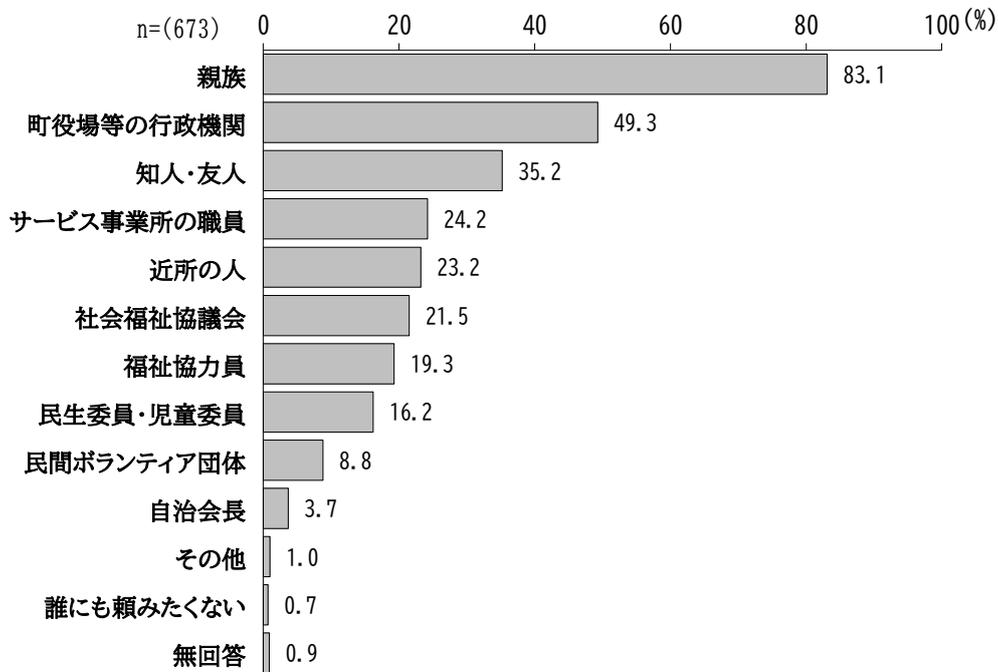
居住年数別でみると「世代間の交流が少ない」と「隣近所との交流が少ない」は31年以上で3割を超えている。「災害・緊急時にどうしたらよいかわからない」は6～10年で31.4%と高くなっている。

住んでいる地域の課題（性別、年齢別、居住地区別、居住年数別）（上位6項目）



(5) 日常生活が不自由になった際、手助けを頼みたい相手

問5 あなたが、もし高齢や病気、事故などで日常生活が不自由になり、相談や助けを必要とするとき、誰に手助けを頼みたいですか。(あてはまるもの全てに○)

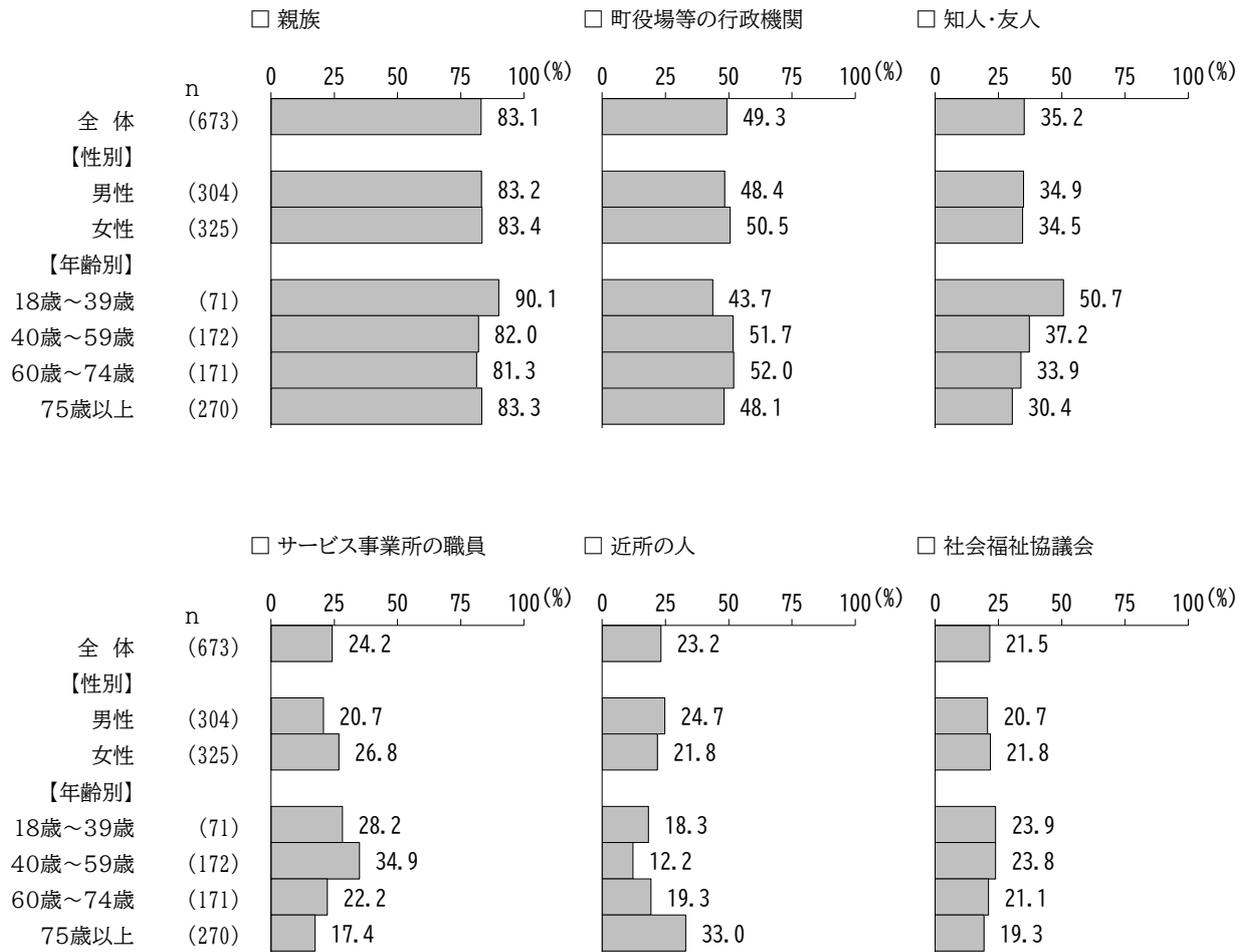


日常生活が不自由になった際、手助けを頼みたい相手では、「親族」が83.1%で最も高く、以下、「町役場等の行政機関」(49.3%)、「知人・友人」(35.2%)、「サービス事業所の職員」(24.2%)となっている。

性別で見ると、「サービス事業所の職員」は女性(26.8%)が男性(20.7%)より6.1ポイント高くなっている。

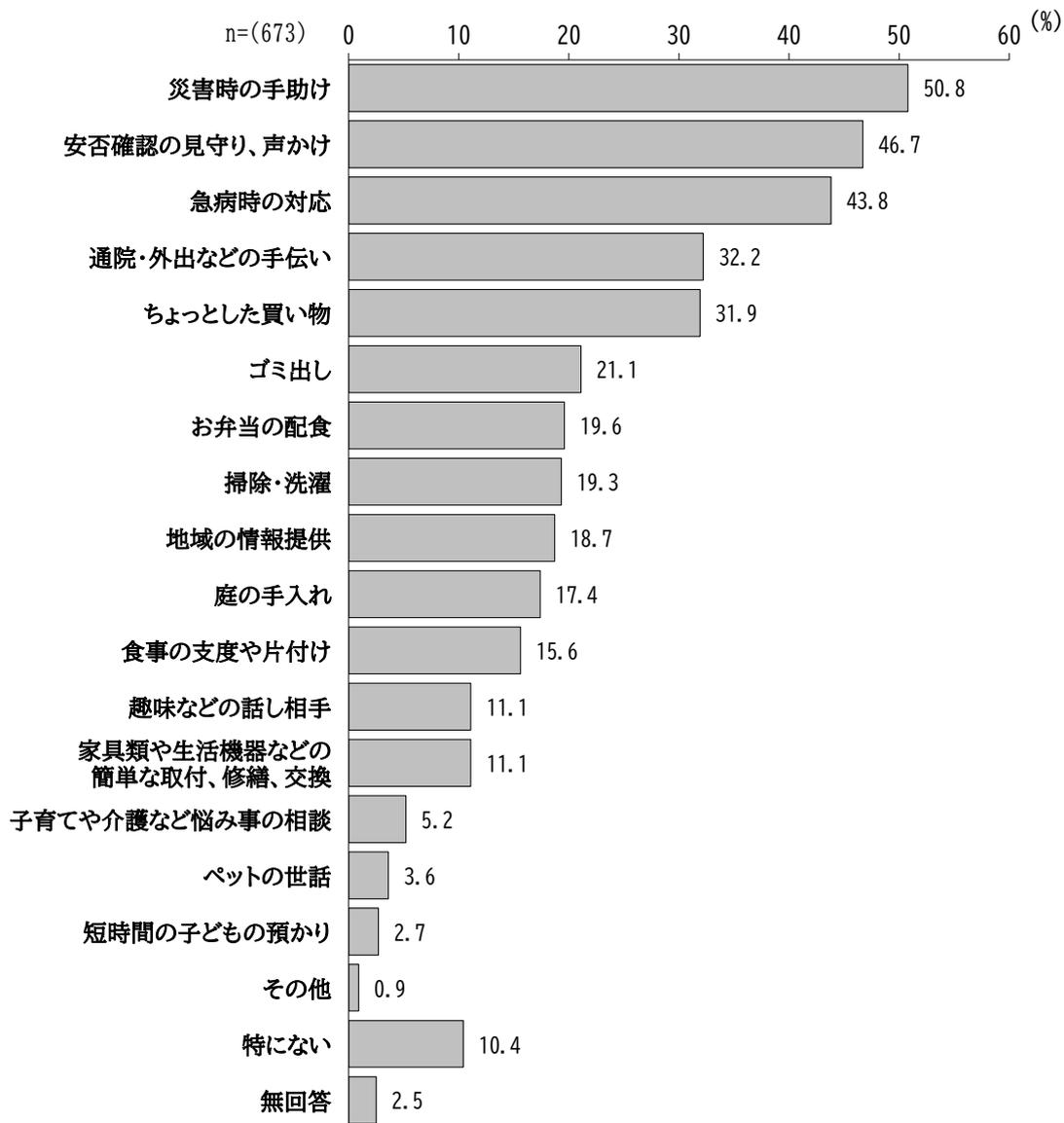
年齢別で見ると、「知人・友人」は18歳～39歳(50.7%)、「サービス事業所の職員」は40歳～59歳(34.9%)、「近所の人」は75歳以上(33.0%)でそれぞれ高くなっている。

日常生活が不自由になった際、手助けを頼みたい相手（性別、年齢別）（上位6項目）



(6) 日常生活が不自由になった際、地域の人に求めること

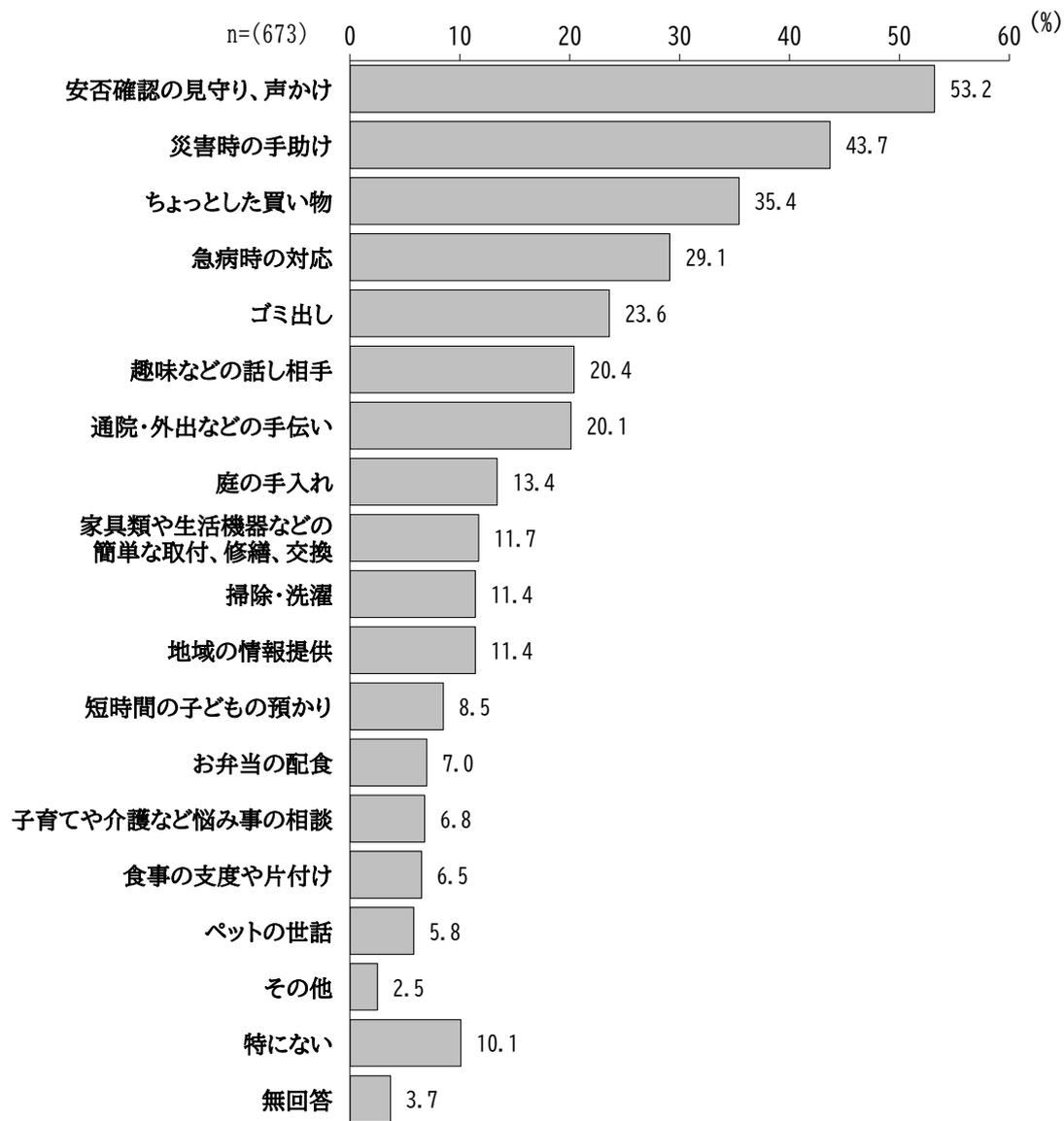
問6 あなたが、もし高齢や病気、事故などで日常生活が不自由になったとき、地域の人たちに何をしてほしいですか。(あてはまるもの全てに○)



日常生活が不自由になった際、地域の人に求めることでは、「災害時の手助け」が50.8%で最も高く、以下、「安否確認の見守り、声かけ」(46.7%)、「急病時の対応」(43.8%)、「通院・外出などの手伝い」(32.2%)となっている。

## (7) 地域の人安心して暮らすために、回答者自身ができること

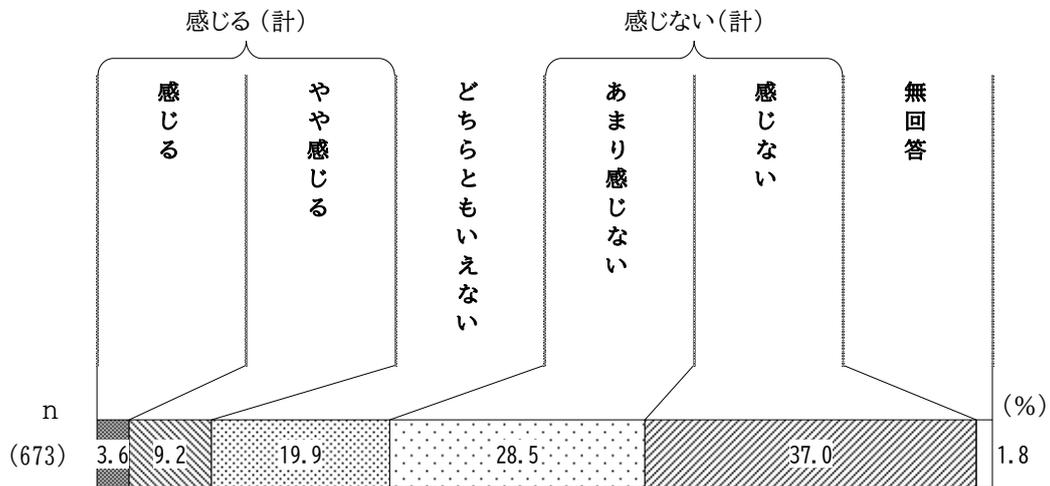
問7 地域の高齢者や障がい者、子育て家庭などが安心して暮らすために、あなた自身ができることは何ですか。(あてはまるもの全てに○)



地域の人安心して暮らすために回答者自身ができることでは、「安否確認の見守り、声かけ」が53.2%で最も高く、以下、「災害時の手助け」(43.7%)、「ちょっとした買い物」(35.4%)、「急病時の対応」(29.1%)となっている。

(8) 孤立感

問8 あなたは、お住いの地域で孤立感を感じるがありますか。(○は1つ)

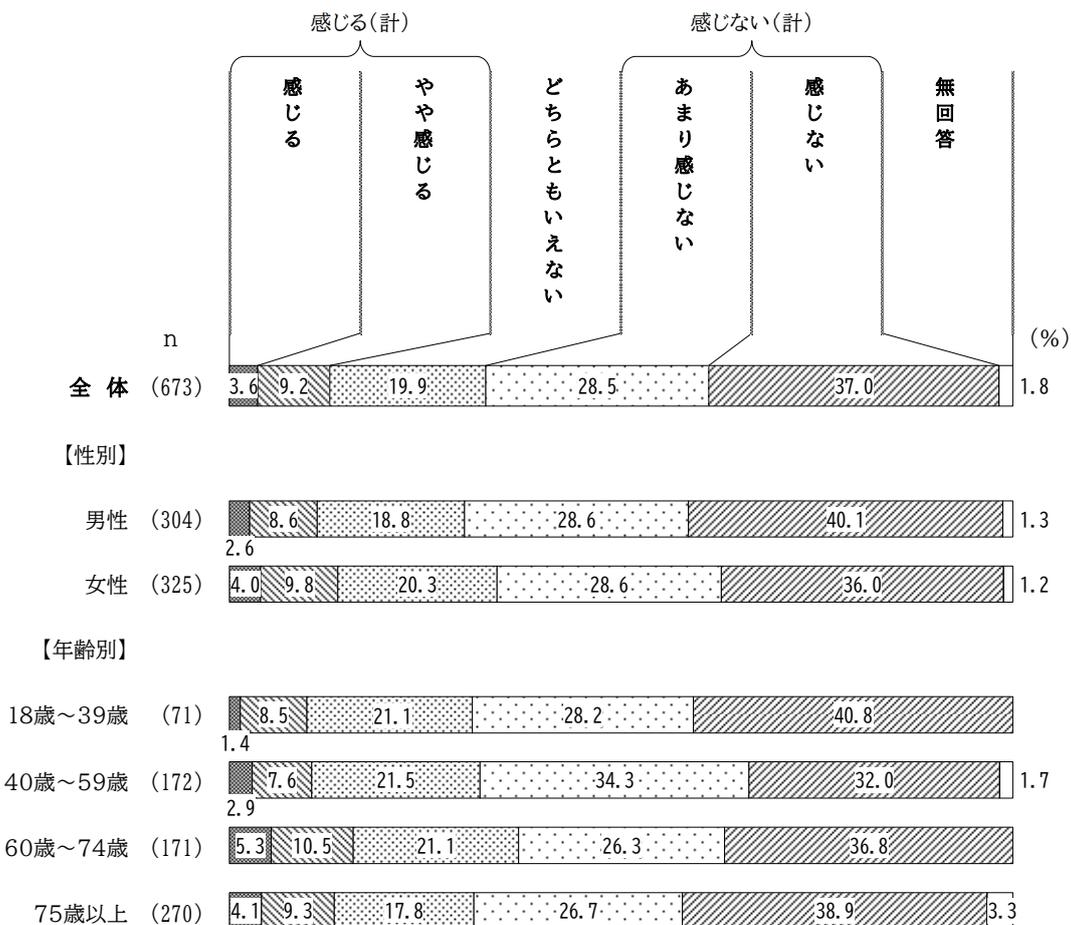


孤立感では、「あまり感じない」(28.5%)と「感じない」(37.0%)を合わせた『感じない』は65.5%となっている。一方、「感じる」(3.6%)と「やや感じる」(9.2%)を合わせた『感じる』は12.8%となっている。

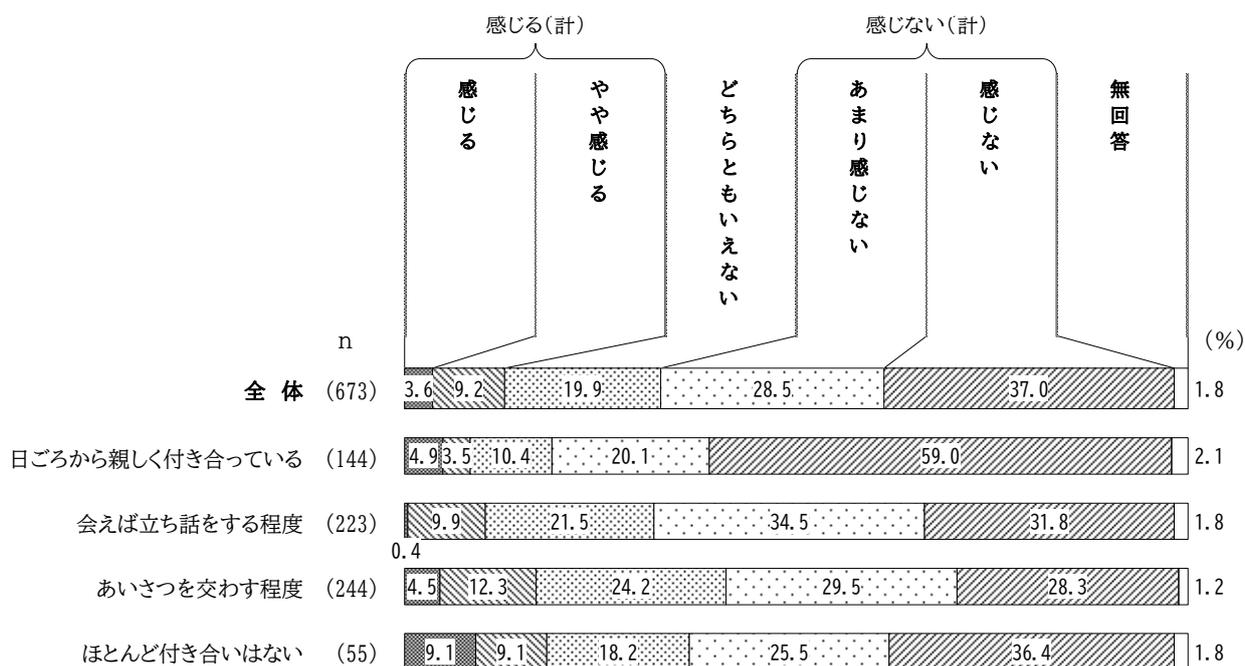
性別、年代別では大きな差は見られなかった。

普段の近所付き合いの程度別で見ると、『感じる』は普段の近所付き合いの程度が少ないほどその割合は高くなっている。

孤立感（性別、年齢別）

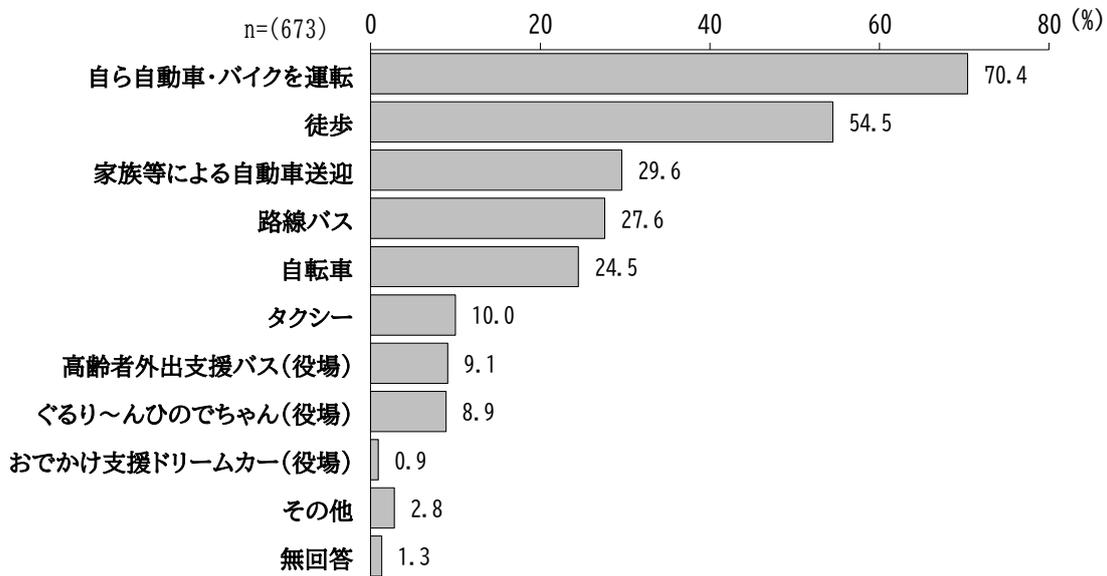


孤立感（普段の近所付き合いの程度別）



(9) 外出する際の移動手段

問9 あなたが外出する際に利用する移動手段はどれですか。(あてはまるもの全てに○)



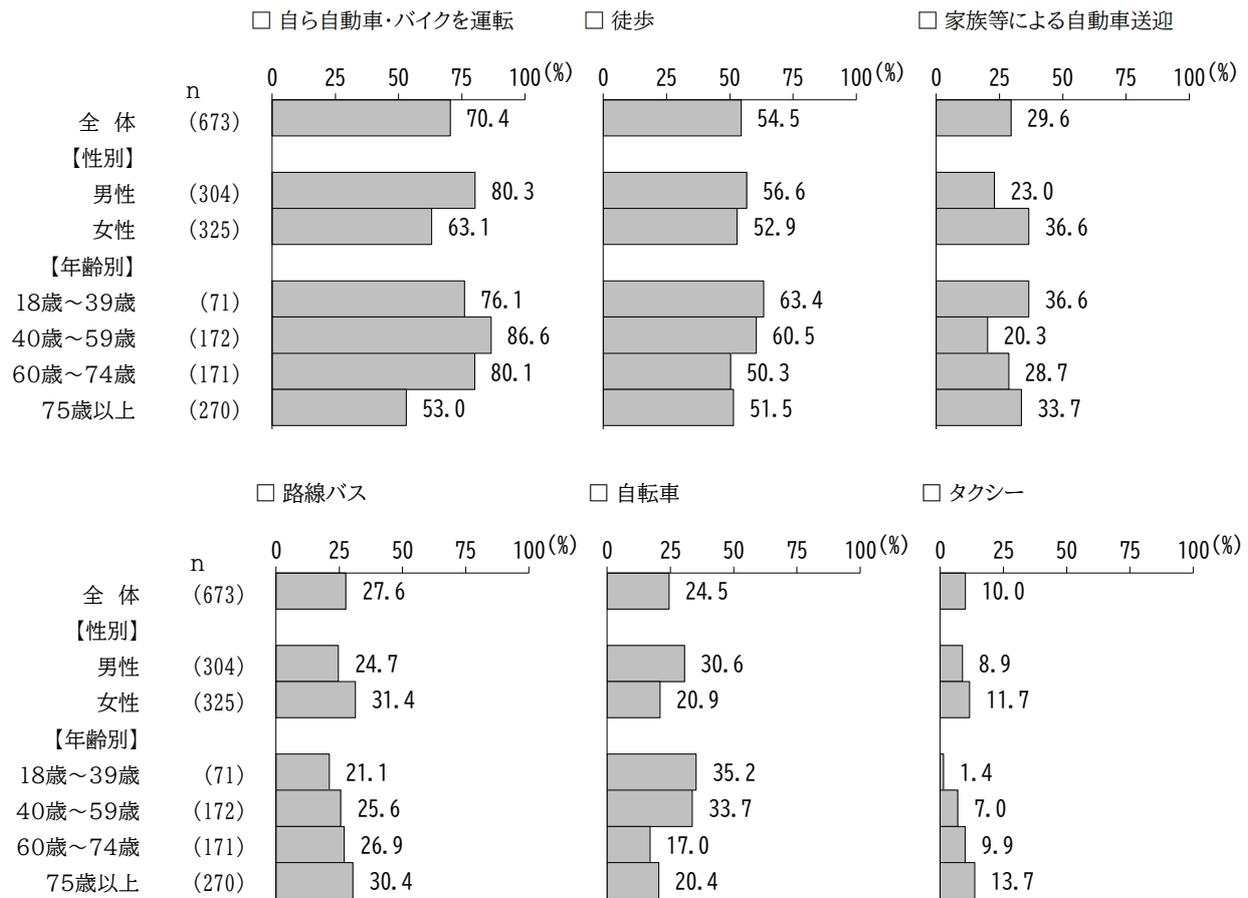
外出する際の移動手段では、「自ら自動車・バイクを運転」が70.4%で最も高く、以下、「徒歩」(54.5%)、「家族等による自動車送迎」(29.6%)、「路線バス」(27.6%)となっている。

性別でみると「自ら自動車・バイクを運転」(男性：80.3%、女性：63.1%)は17.2ポイント、「自転車」(男性：30.6%、女性：20.9%)は9.7ポイント、男性が女性より高くなっている。一方、「家族等による自動車送迎」(男性：23.0%、女性：36.6%)は13.6ポイント、「路線バス」(男性：24.7%、女性：31.4%)は6.7ポイント、女性が男性より高くなっている。

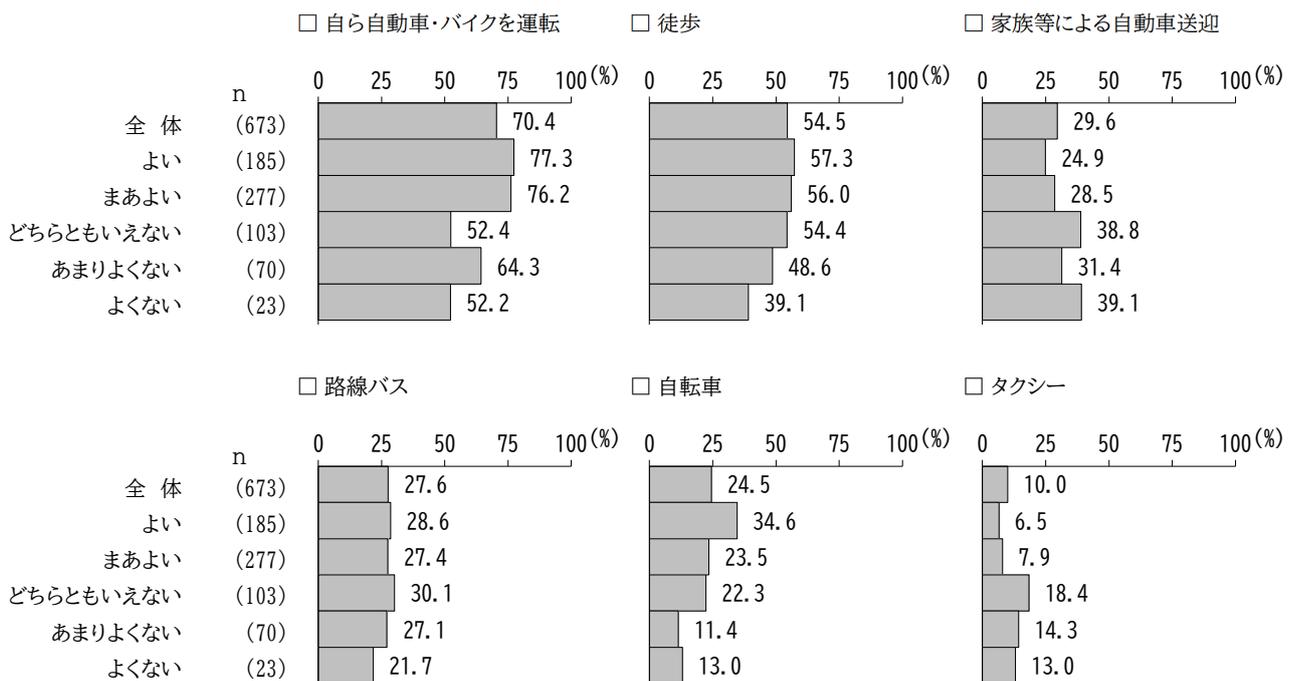
年齢別でみると、「自ら自動車・バイクを運転」は75歳以上を除くすべての年齢で7割を超えている。また、「自転車」は60歳～74歳が17.0%、75歳以上が20.4%と低くなっている。

現在の健康状態別でみると、「自ら自動車・バイクを運転」は健康状態が“よい”と“まあよい”で7割を超えている。また、「徒歩」は健康状態が良いほどその割合は高くなっている。

外出する際の移動手段（性別、年齢別）（上位6項目）



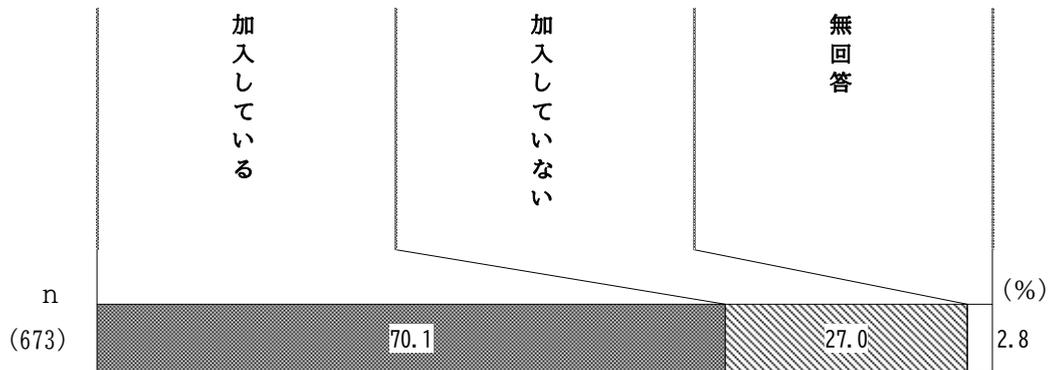
外出する際の移動手段（現在の健康状態別）（上位6項目）



### 3. 地域での活動について

#### (1) 自治会への加入

問10 あなたは、現在自治会に加入していますか。(○は1つ)



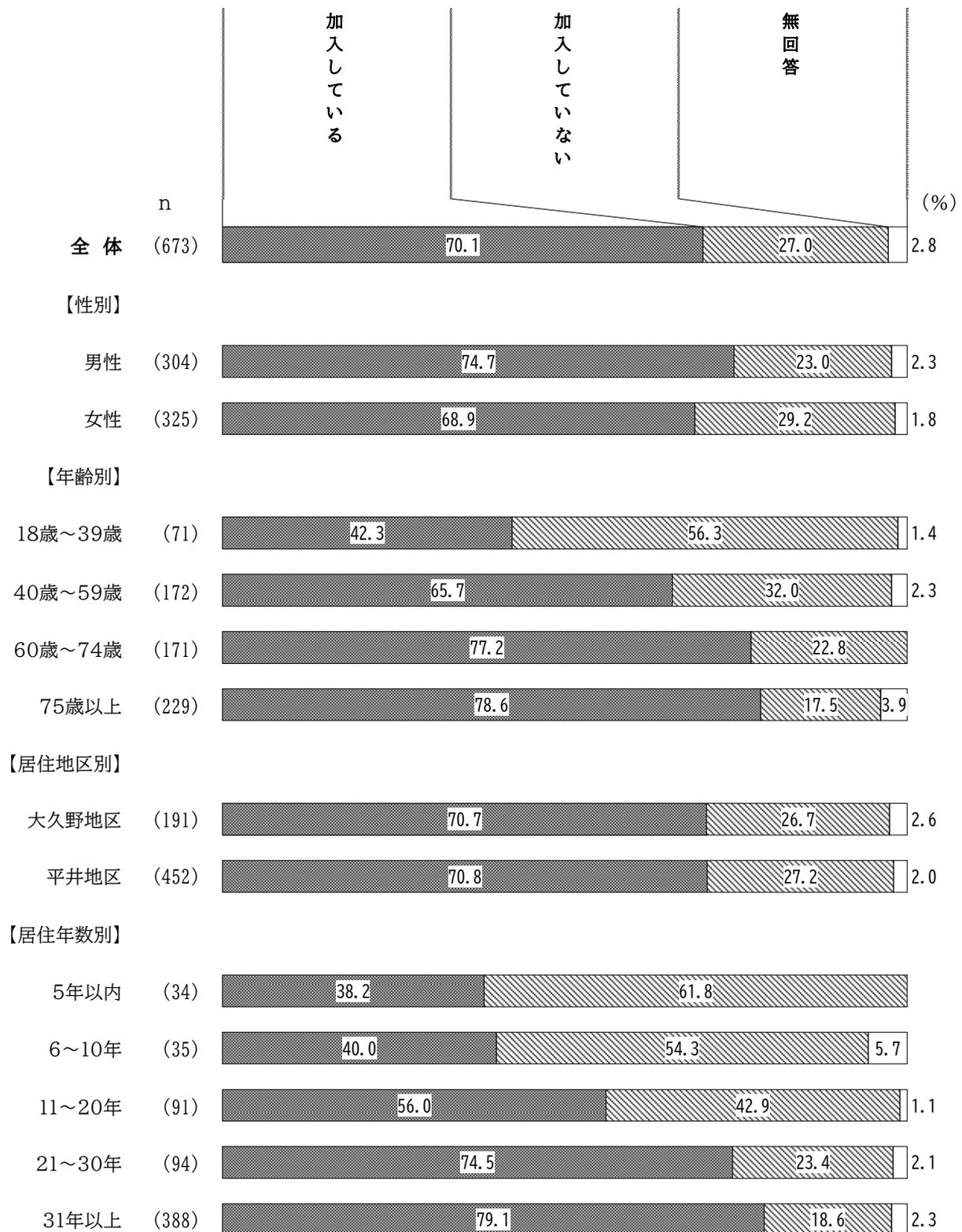
自治会への加入では、「加入している」が70.1%、「加入していない」が27.0%となっている。性別で見ると、「加入している」は男性（74.7%）が女性（68.9%）より5.8ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「加入している」は年齢が上がるほどその割合は高くなっており、60歳～74歳と75歳以上で7割を超えている。

居住地区別で見ると、地域の間には大きな差は見られなかった。

居住年数別で見ると、「加入している」は居住年数が長いほどその割合は高くなっている。

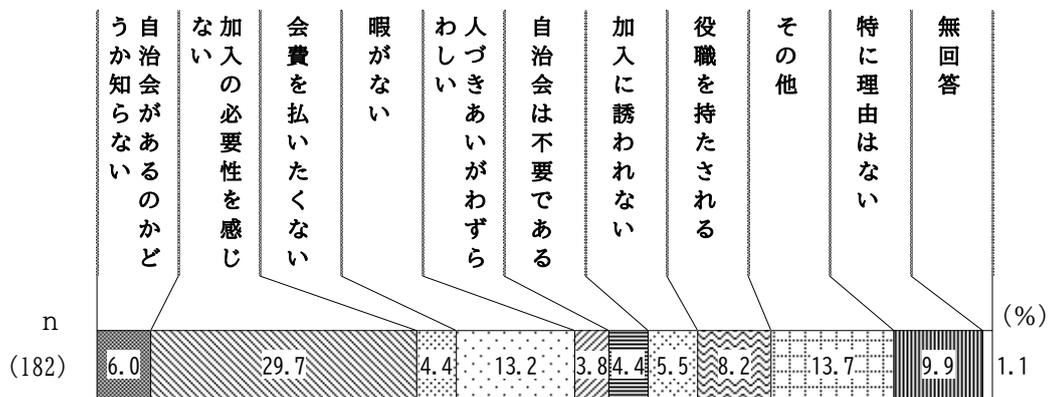
自治会への加入（性別、年齢別、居住地区別、居住年数別）



(2) 加入していない理由

《問10で「2. 加入していない」とお答えの方におたずねします》

問10-1 加入していない理由は何ですか。(○は1つ)



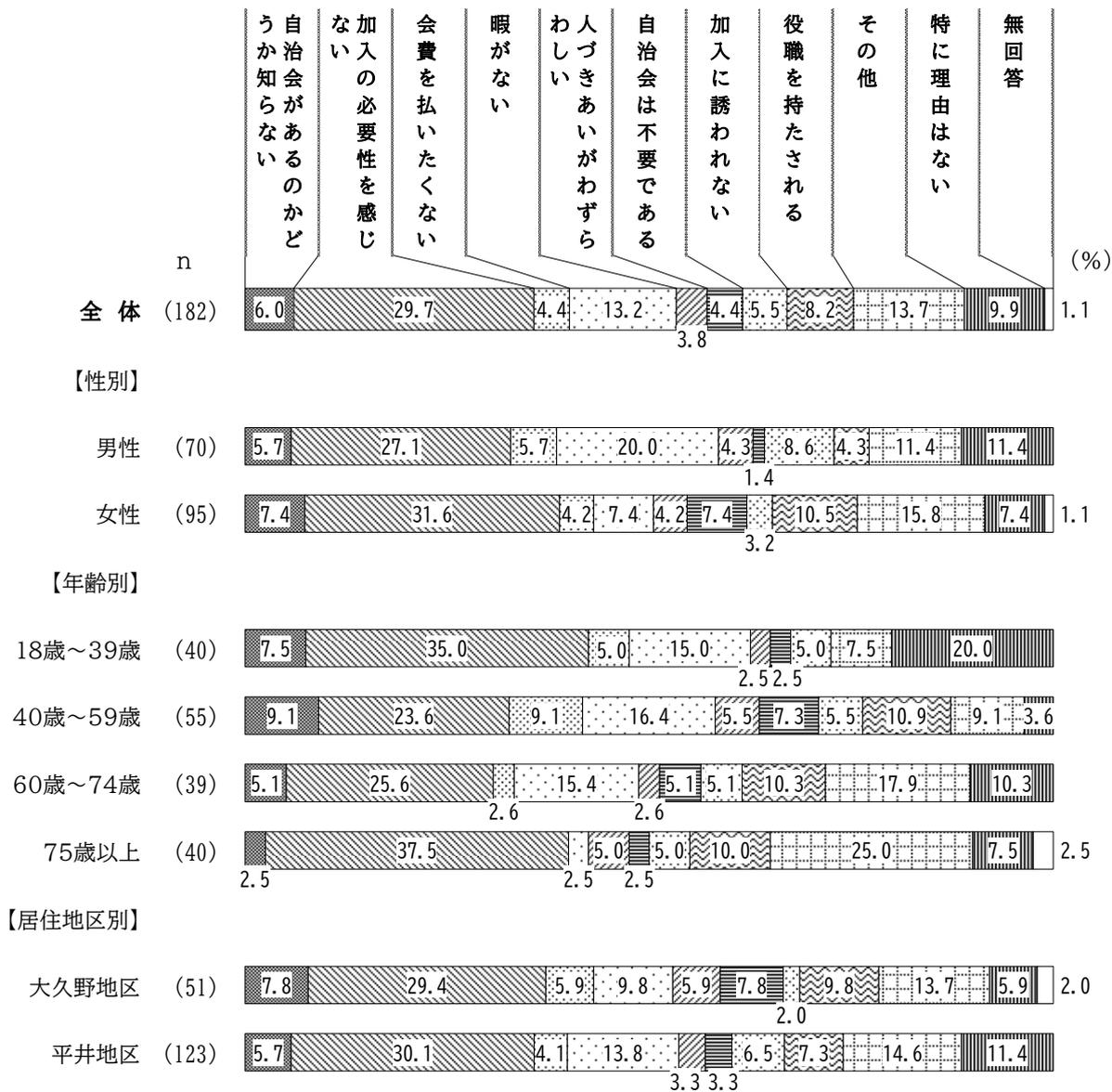
加入していない理由では、「加入の必要性を感じない」が29.7%と最も高く、以下、「暇がない」(13.2%)、「役職を持たされる」(8.2%)、「自治会があるのかどうか知らない」(6.0%)となっていた。

性別でみると、「暇がない」は男性(20.0%)が女性(7.4%)より12.6ポイント高くなっている。また、「役職を持たされる」は女性(10.5%)が男性(4.3%)より6.2ポイント高くなっている。

年齢別でみると、「加入の必要性を感じない」はすべての年齢で最も高くなっており、特に18歳～39歳と75歳以上で3割を超えている。

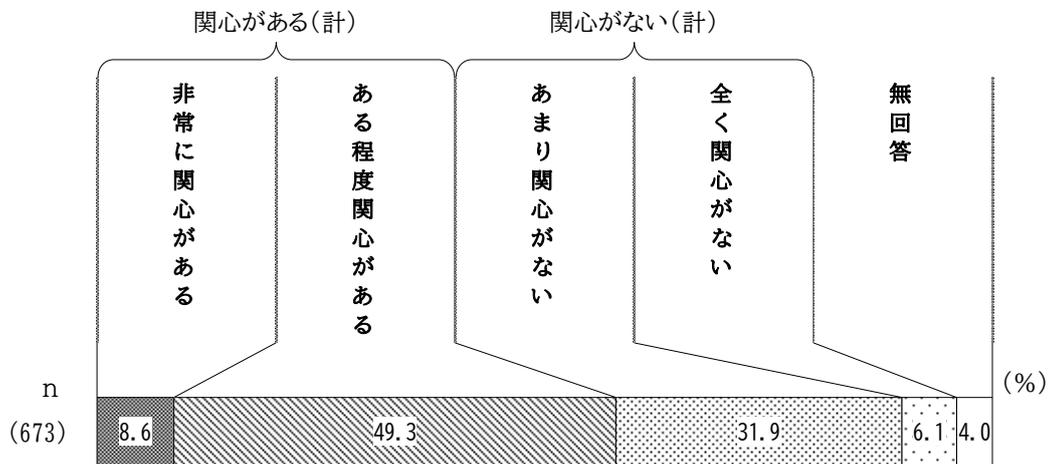
居住地区別でみると、地域の間には大きな差は見られなかった。

加入していない理由（性別、年齢別、居住地区別）



(3) 福祉に関するボランティア活動への関心

問11 あなたは、福祉に関するボランティア活動に関心がありますか。(○は1つ)

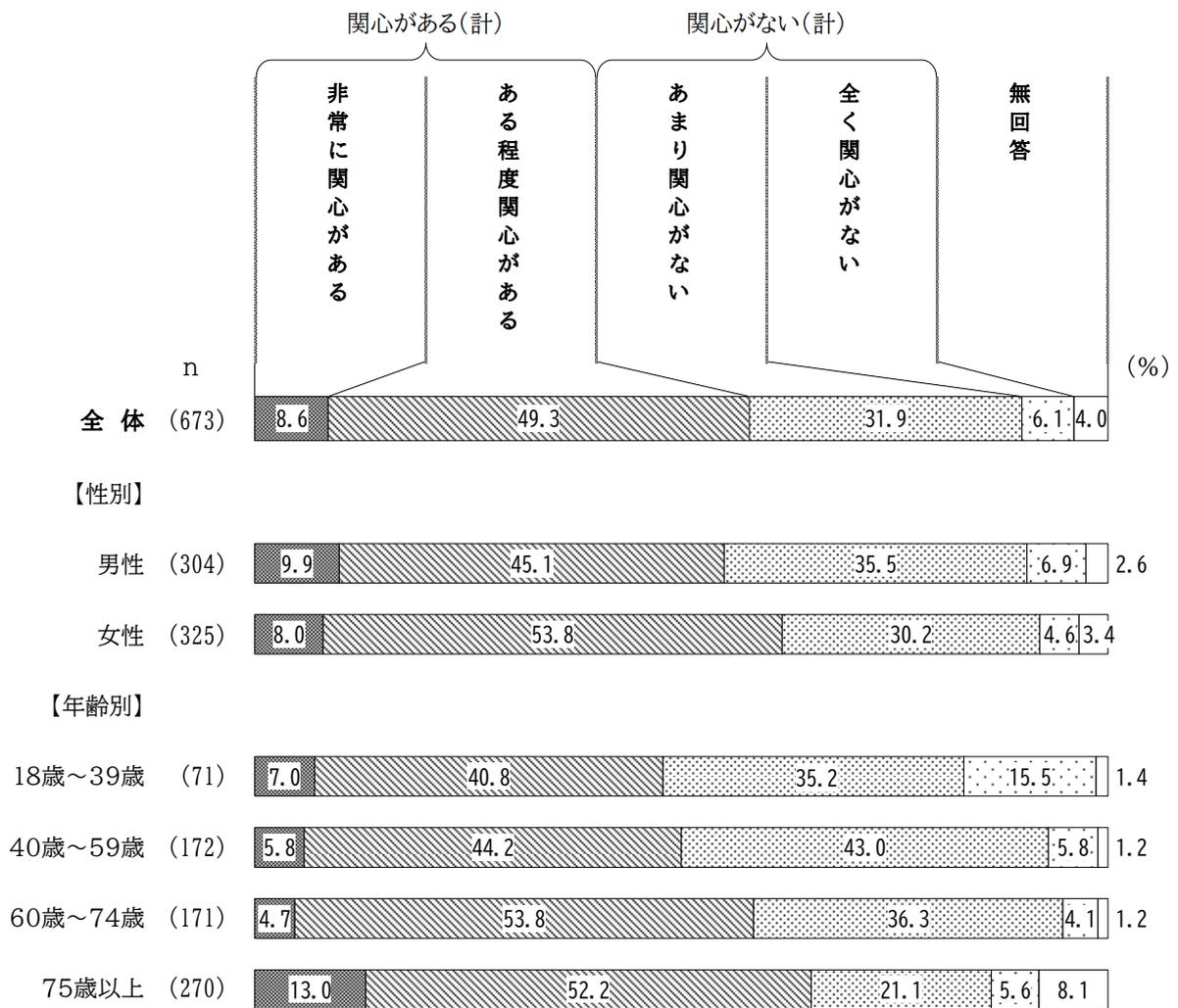


福祉に関するボランティア活動への関心では、「非常に興味がある」(8.6%)と「ある程度関心がある」(49.3%)を合わせた『関心がある』は57.9%となっている。一方、「あまり関心がない」(31.9%)と「全く関心がない」(6.1%)を合わせた『関心がない』は38.0%となっている。

性別でみると、『関心がある』は女性(61.8%)が男性(55.0%)より6.8ポイント高くなっている。

年齢別でみると、『関心がある』は年齢が上がるほどその割合は高くなっている。

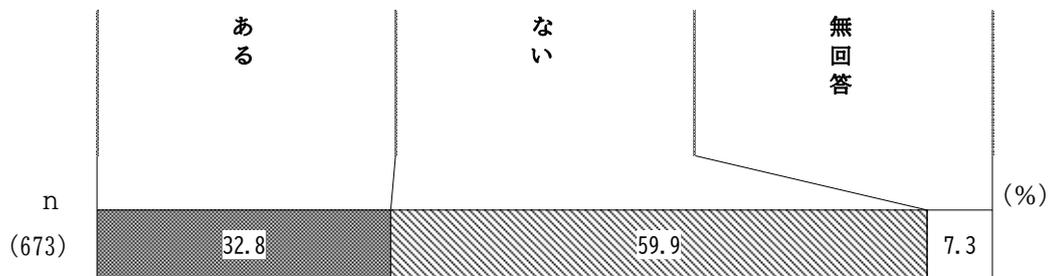
福祉に関するボランティア活動への関心（性別、年齢別）



(4) 福祉に関するボランティア活動への参加

問12 あなたは、福祉に関するボランティア活動に参加したことがありますか。(○は1つ)

(ア) 福祉に関するボランティア活動への参加経験(生涯)



福祉に関するボランティア活動への参加経験(生涯)では、「ない」が59.9%、「ある」が32.8%となっている。

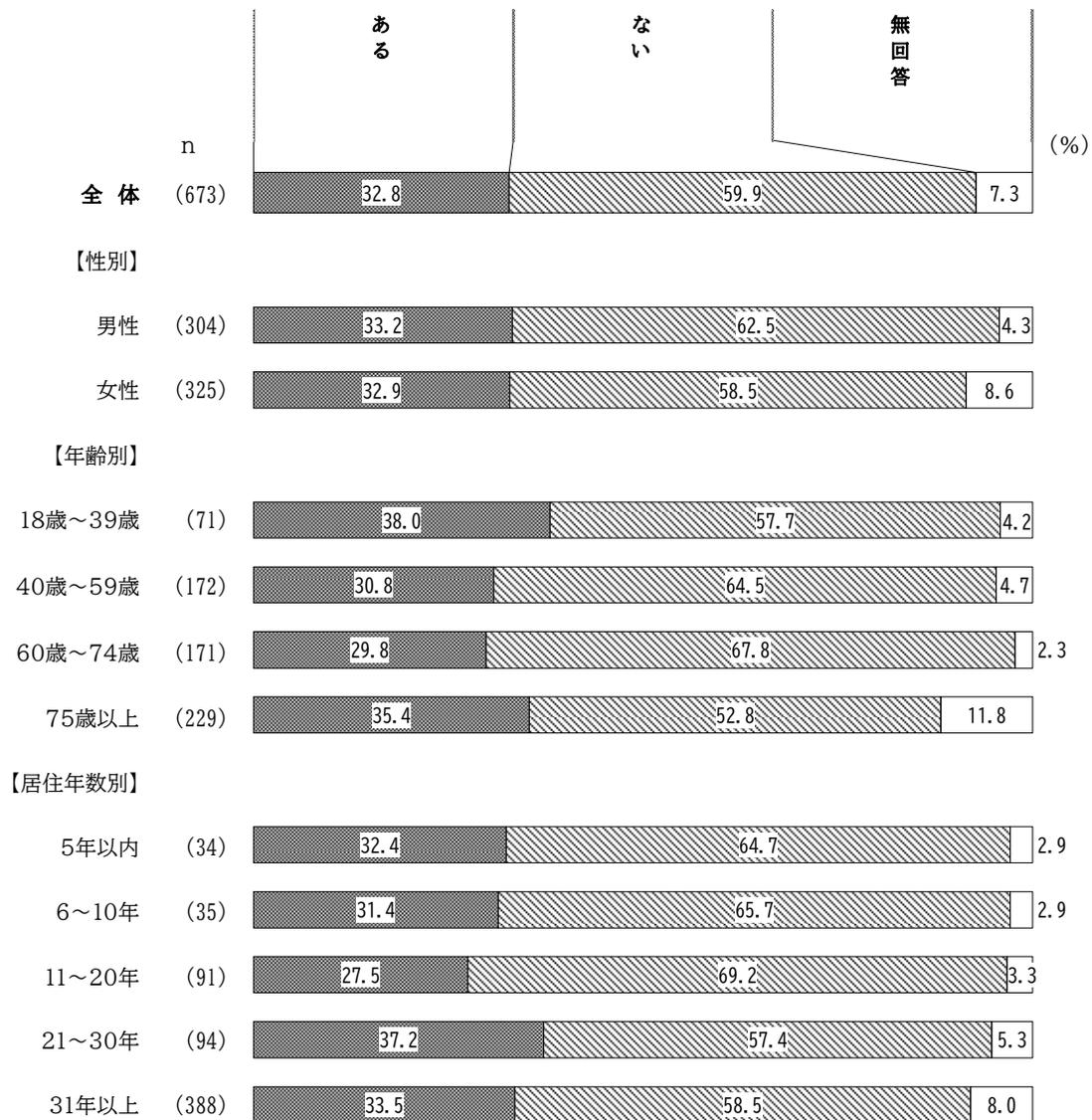
性別で見ると、男女の間に大きな差は見られなかった。

年齢別で見ると、「ある」は18歳~39歳(38.0%)で最も高く、次いで75歳以上(35.4%)となっている。

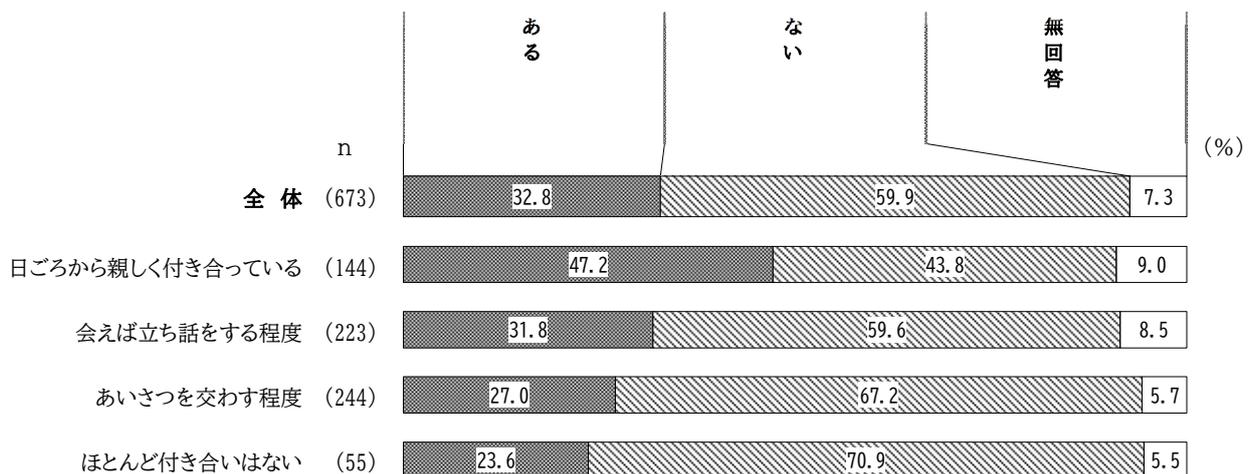
居住年数別で見ると、「ある」は21~30年(37.2%)で最も高く、次いで31年以上(33.5%)となっている。

普段の近所付き合いの程度別にみると、「ある」は近所付き合いの程度が多いほどその割合は高くなっている。

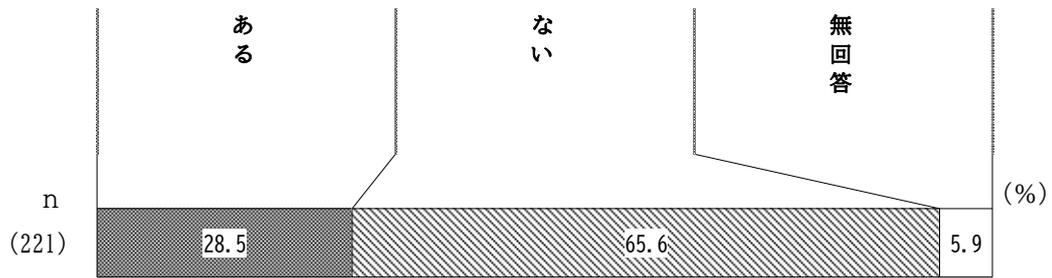
生涯での福祉に関するボランティア活動への参加（性別、年齢別、居住年数別）



生涯での福祉に関するボランティア活動への参加（普段の近所付き合いの程度別）



(イ) 福祉に関するボランティア活動への参加経験（最近1年間）



福祉に関するボランティア活動への参加経験（最近1年間）では、「ない」が65.6%、「ある」が28.5%となっている。

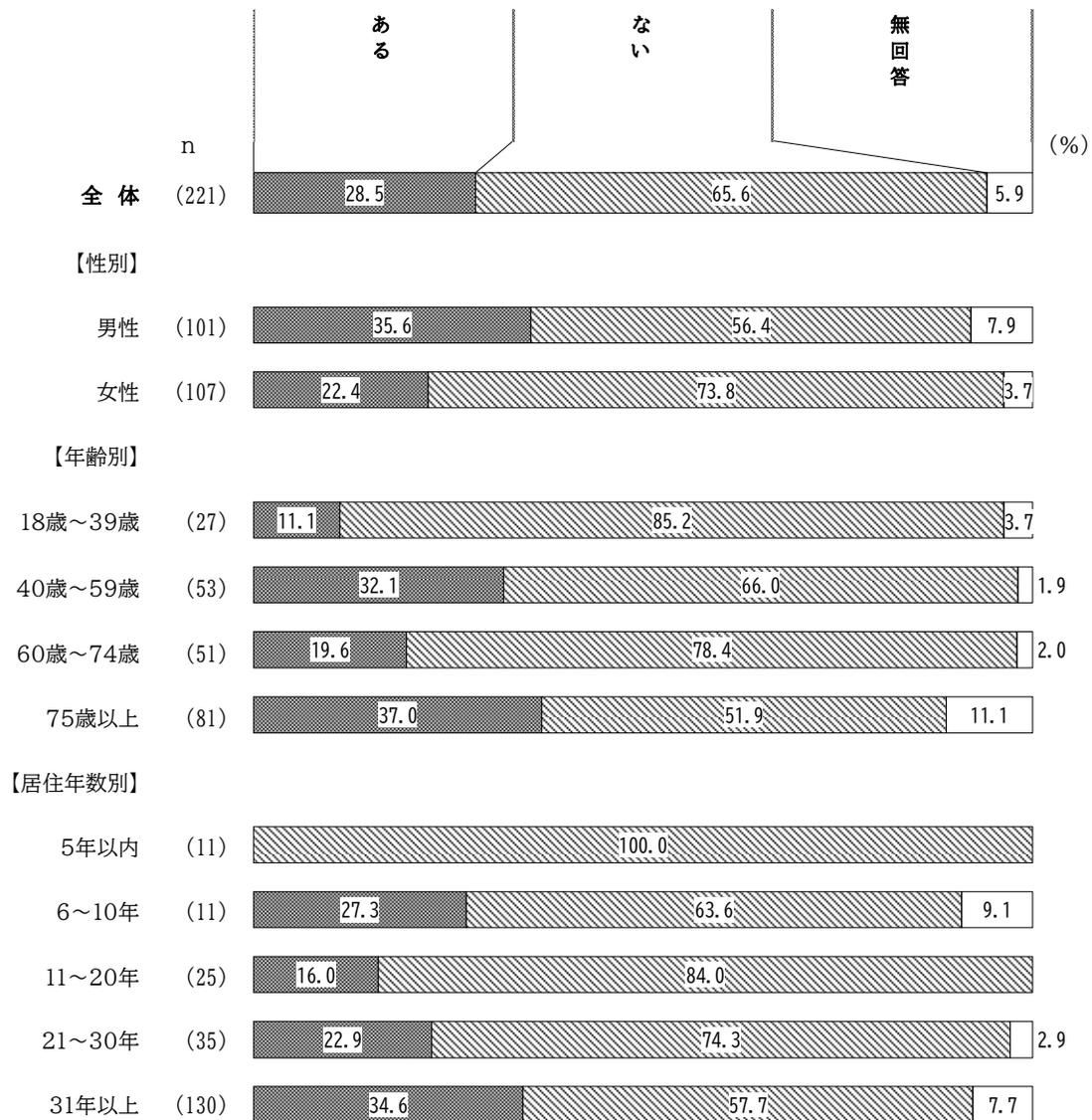
性別でみると、「ある」は男性（35.6%）が女性（22.4%）より13.2ポイント高くなっている。

年齢別でみると、「ある」は40歳～59歳と75歳以上で3割を超えている。

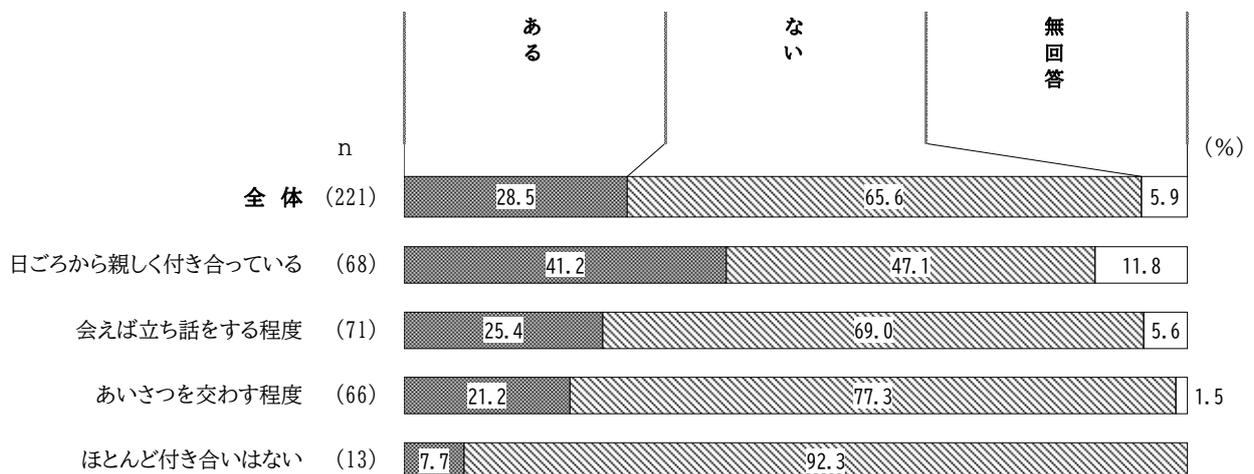
居住年数別でみると、「ある」は居住年数が長いほどその割合は高くなっており、31年以上で3割を超えている。

普段の近所付き合いの程度別にみると、「ある」は近所付き合いの程度が多いほどその割合は高くなっている。

最近1年間の福祉に関するボランティア活動への参加（性別、年齢別、居住年数別）



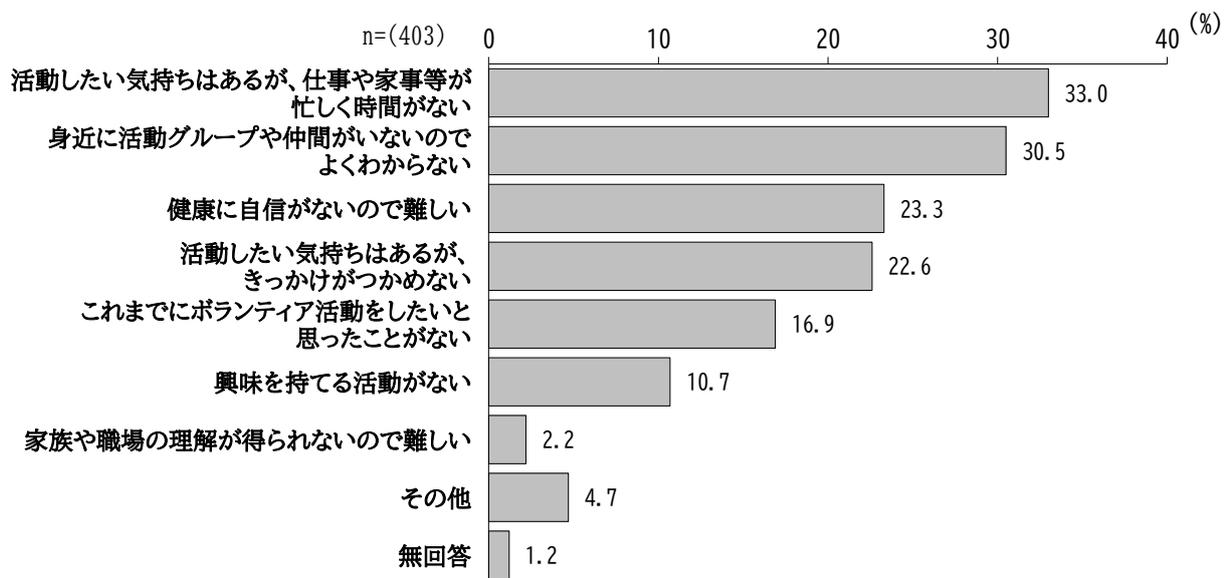
最近1年間の福祉に関するボランティア活動への参加（普段の近所付き合いの程度別）



(5) 参加しない理由

《問12 (ア) で「2. ない」とお答えの方におたずねします》

問12-1 あなたが、これまでにボランティア活動に参加したことがない理由は、どのような理由ですか。(あてはまるもの全てに○)



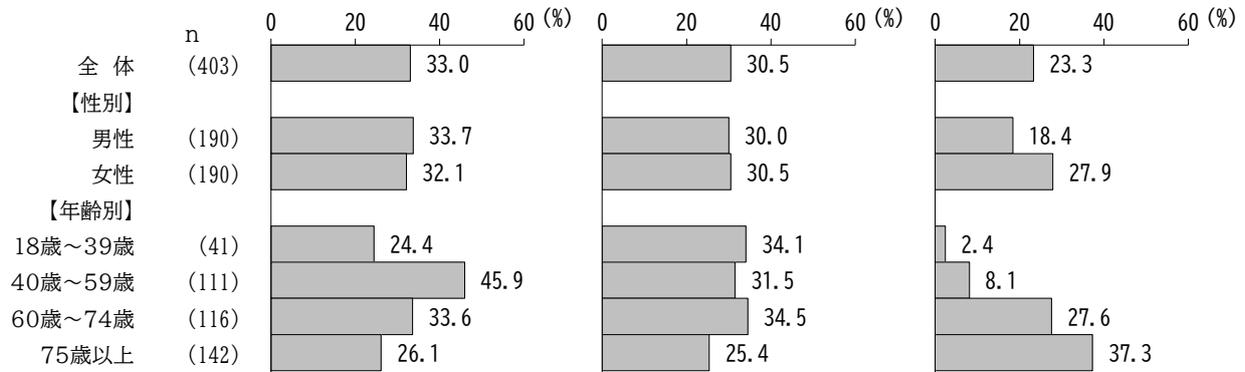
参加しない理由では、「活動したい気持ちはあるが、仕事や家事等が忙しく時間がない」が33.0%で最も高く、以下、「身近に活動グループや仲間がいないのでよくわからない」(30.5%)、「健康に自信がないので難しい」(23.3%)、「活動したい気持ちはあるが、きっかけがつかめない」(22.6%)となっている。

性別で見ると、「健康に自信がないので難しい」は女性(27.9%)が男性(18.4%)より9.5ポイント高くなっている。

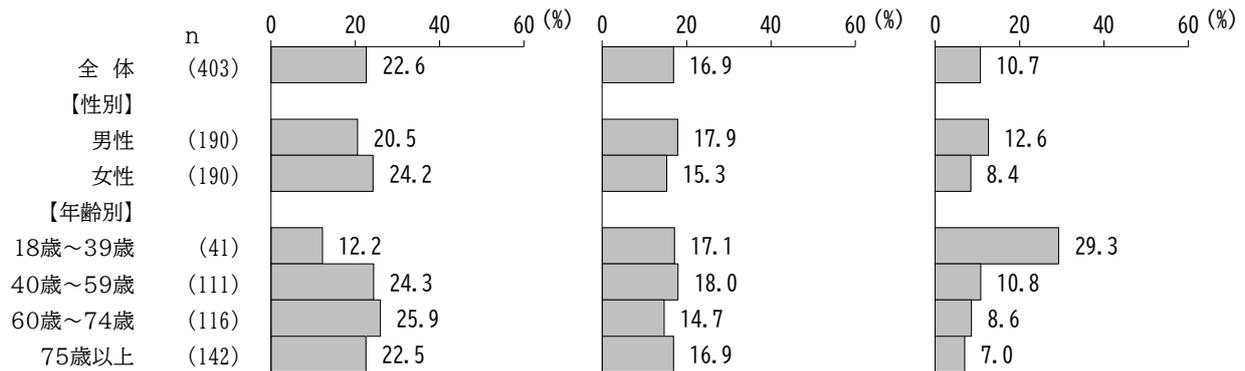
年齢別で見ると、「活動したい気持ちはあるが、仕事や家事等が忙しく時間がない」は40歳～59歳(45.9%)、「健康に自信がないので難しい」は75歳以上(37.3%)、「興味を持てる活動がない」は18歳～39歳(29.3%)でそれぞれ高くなっている。

参加しない理由（性別、年齢別）（上位6項目）

- 活動したい気持ちはあるが、仕事や家事等が忙しく時間がない
- 身近に活動グループや仲間がいなくてよくわからない
- 健康に自信がないので難しい

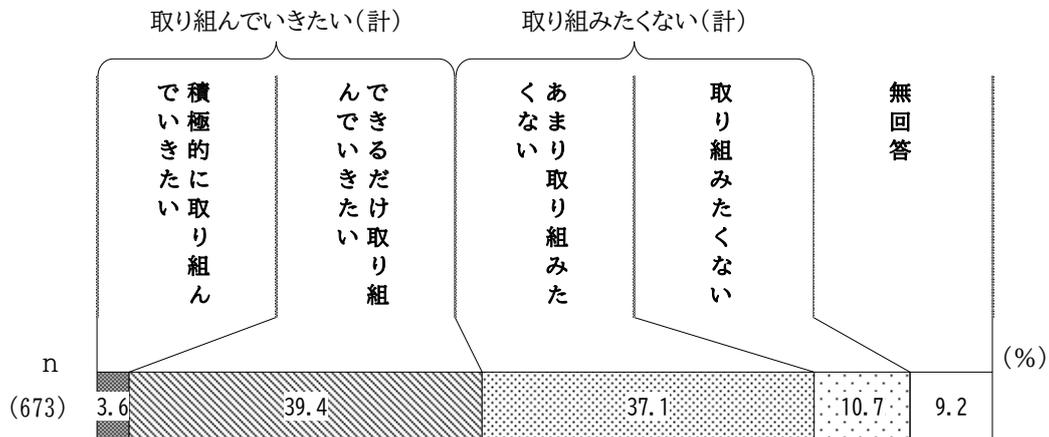


- 活動したい気持ちはあるが、きっかけがつかめない
- これまでにボランティア活動をしたと思ったことがない
- 興味を持てる活動がない



(6) 福祉に関するボランティア活動への参加意向

問13 あなたは、今後、福祉に関するボランティア活動に参加したい、あるいは継続したいとお考えですか。(○は1つ)

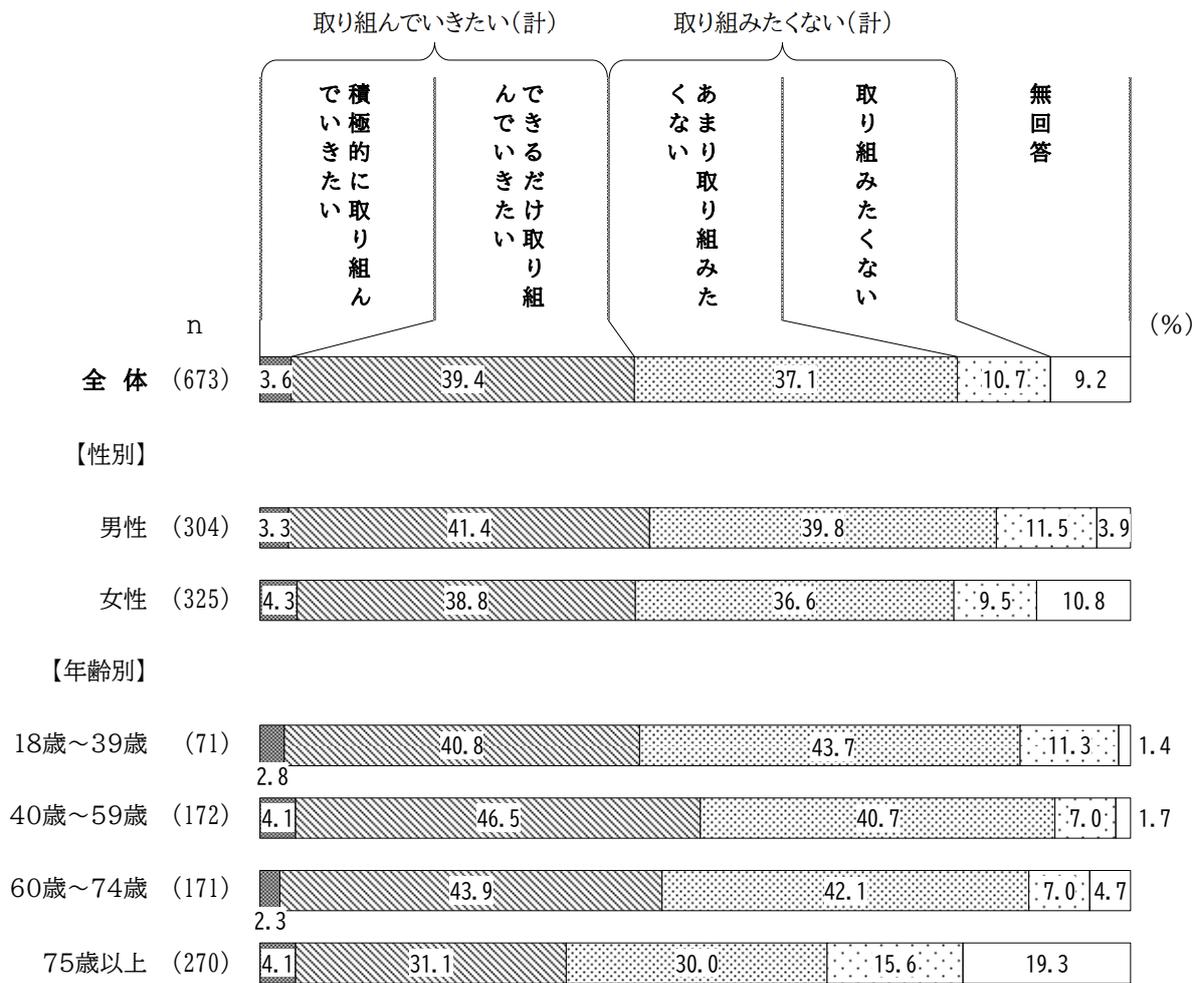


福祉に関するボランティア活動への参加意向では、「積極的に取り組んでいきたい」(3.6%)と「できるだけ取り組んでいきたい」(39.4%)を合わせた『取り組んでいきたい』は43.0%となっている。一方、「あまり取り組みたくない」(37.1%)と「取り組みたくない」(10.7%)を合わせた『取り組みたくない』は47.8%となっている。

性別でみると、『取り組んでいきたい』は男女の間に大きな差は見られなかった。

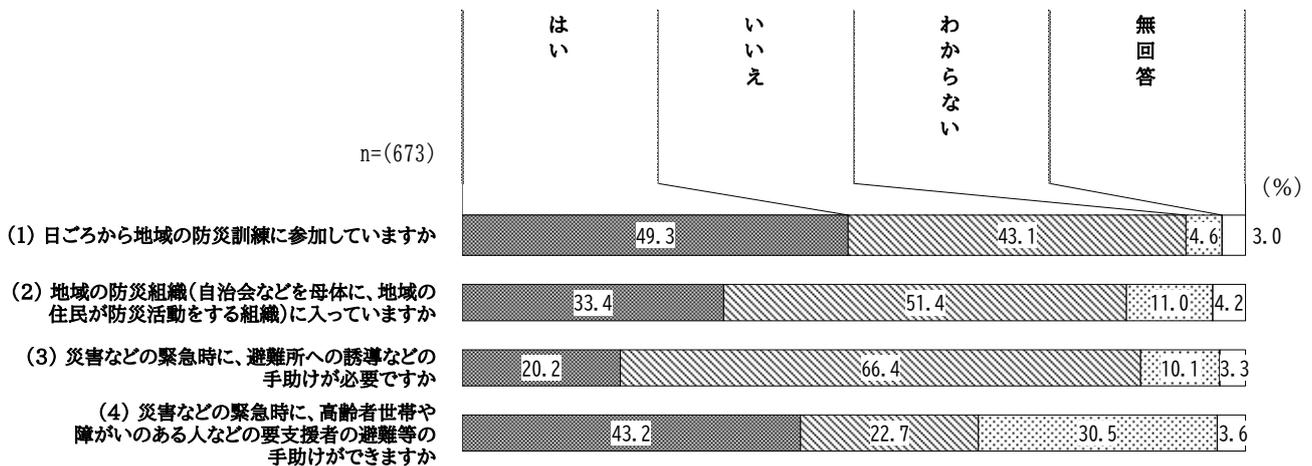
年齢別でみると、『取り組んでいきたい』は40歳～59歳で5割を超えている。

福祉に関するボランティア活動への参加意向（性別、年齢別）



(7) 防災に対する取り組みや緊急時の対応

問14 あなたは、防災に対する日ごろからの取り組みや災害などの緊急時の対応について、どのようにお考えですか。(○はそれぞれ1つずつ)



防災に対する取り組みや緊急時の対応の各項目について、「日ごろから地域の防災訓練に参加していますか」は「はい」が49.3%、「いいえ」が43.1%、「わからない」が4.6%となっている。

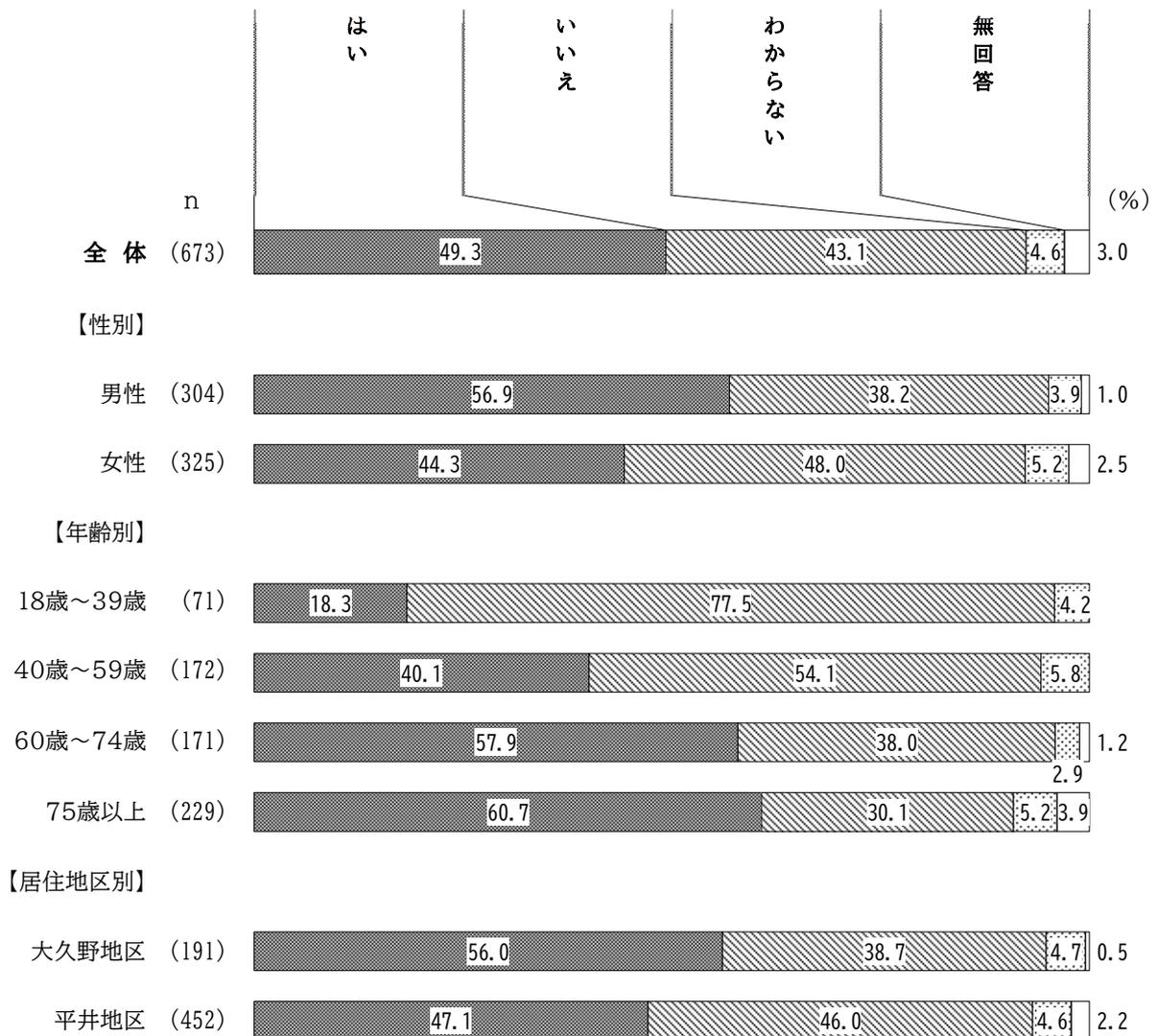
「地域の防災組織に入っていますか」は、「はい」が33.4%、「いいえ」が51.4%、「わからない」が11.0%となっている。

「災害などの緊急時に、避難所への誘導などの手助けが必要ですか」は、「はい」が20.2%、「いいえ」が66.4%、「わからない」が10.1%となっている。

「災害などの緊急時に、高齢者世帯や障がいのある人などの要支援者の避難等の手助けができますか」は、「はい」が43.2%、「いいえ」が22.7%、「わからない」が30.5%となっている。

(1)日ごろから地域の防災訓練に参加していますか

日ごろからの地域の防災訓練の参加状況（性別、年齢別、居住地区別）



日ごろから地域の防災訓練の参加状況について、性別で見ると、「はい」は男性(56.9%)が女性(44.3%)より12.6ポイント高くなっている。

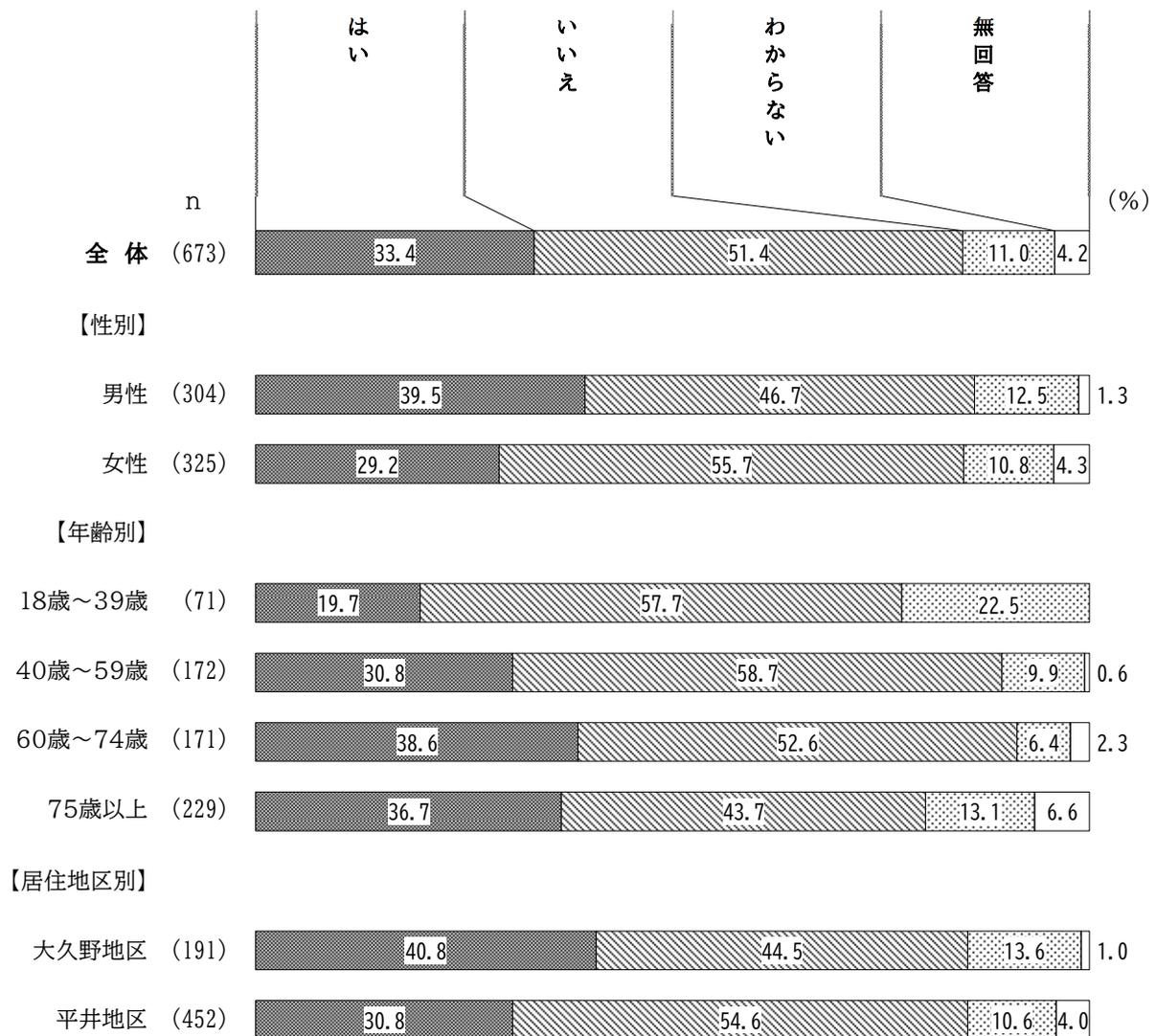
年齢別で見ると、「はい」は年齢が上がるほどその割合は高くなっており、75歳以上で6割を超えている。

居住地区別で見ると、「はい」は大久野地区(56.0%)が平井地区(47.1%)より8.9ポイント高くなっている。

## 第2章 調査結果の詳細

(2)地域の防災組織（自治会などを母体に、地域の住民が防災活動をする組織）に入っていますか

地域の防災組織の加入状況（性別、年齢別、居住地区別）



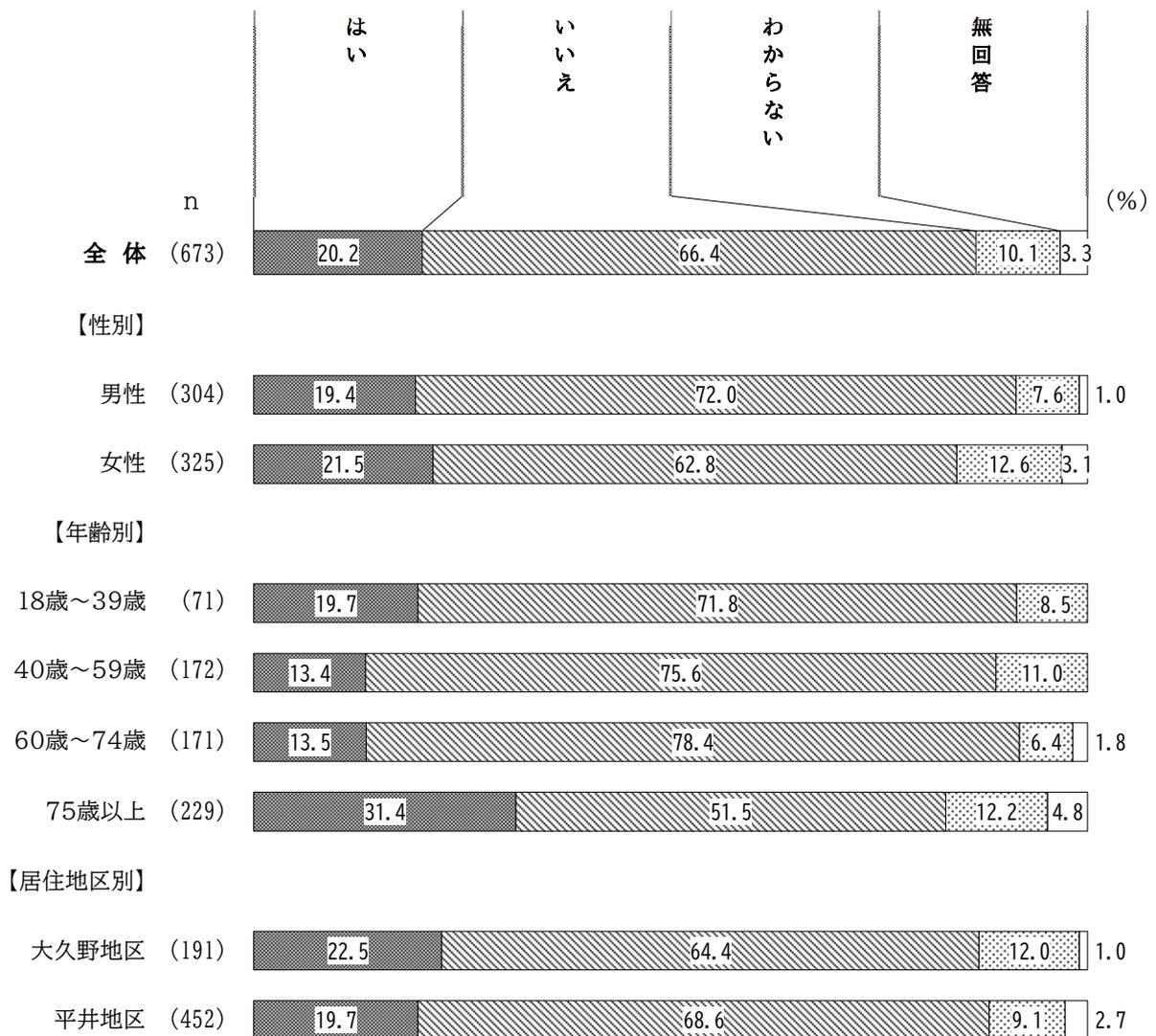
地域の防災組織の加入状況について、性別で見ると、「はい」は男性(39.5%)が女性(29.2%)より10.3ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「はい」は18歳～39歳(19.7%)で最も低く、60歳～74歳(38.6%)で最も高くなっている。

居住地区別で見ると、「はい」は大久野地区(40.8%)が平井地区(30.8%)より10.0ポイント高くなっている。

(3) 災害などの緊急時に、避難所への誘導などの手助けが必要ですか

災害などの緊急時に、避難所への誘導などの手助けの必要性（性別、年齢別、居住地区別）



災害などの緊急時に、避難所への誘導などの手助けの必要性について、性別で見ると、「いいえ」は男性（72.0%）が女性（62.8%）より9.2ポイント高くなっている。

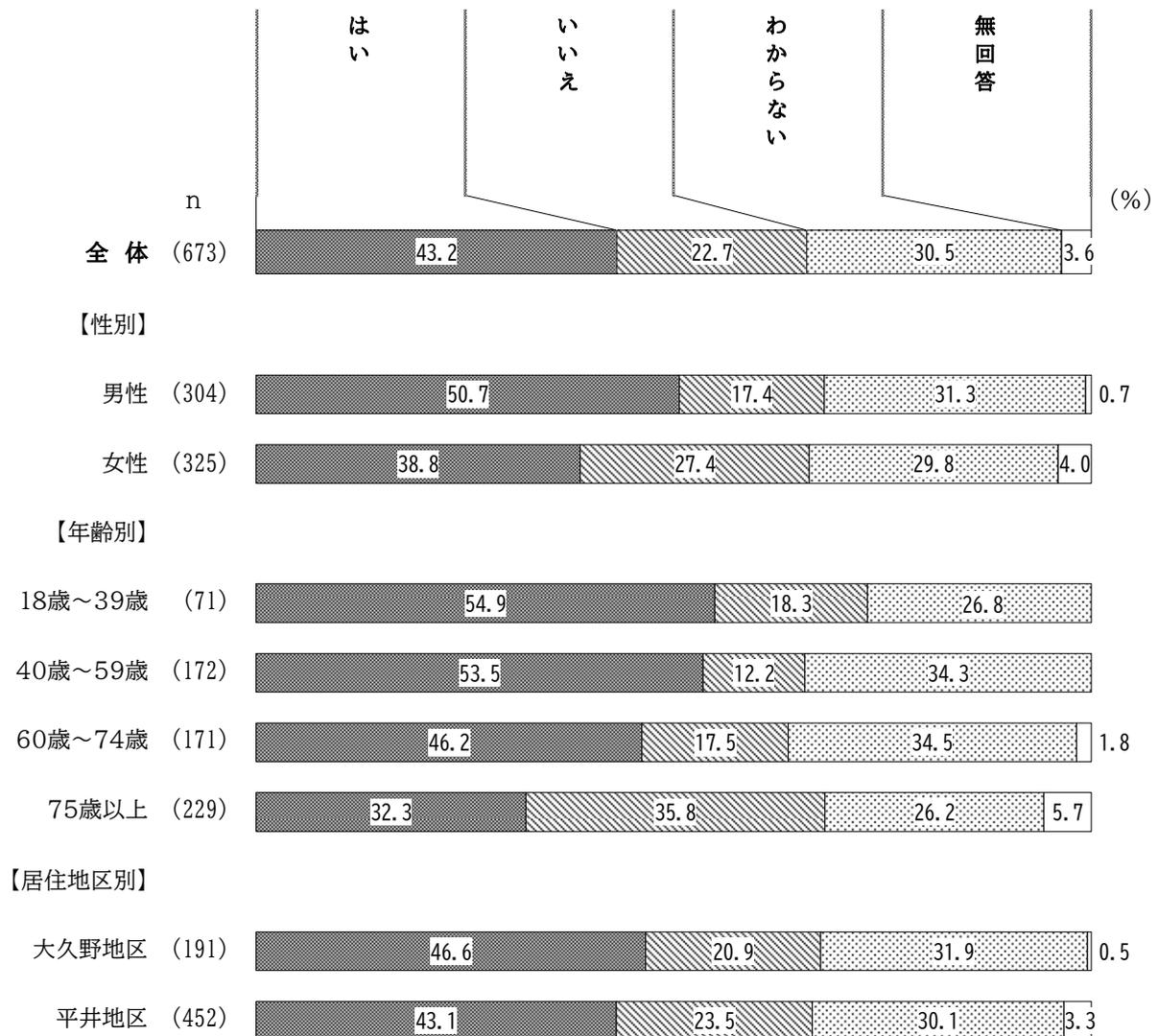
年齢別で見ると、「はい」は75歳以上で31.4%と最も高くなっている。

居住地区別で見ると、地域の間には大きな差は見られなかった。

## 第2章 調査結果の詳細

(4) 災害などの緊急時に、高齢者世帯や障がいのある人などの要支援者の避難等の手助けができますか

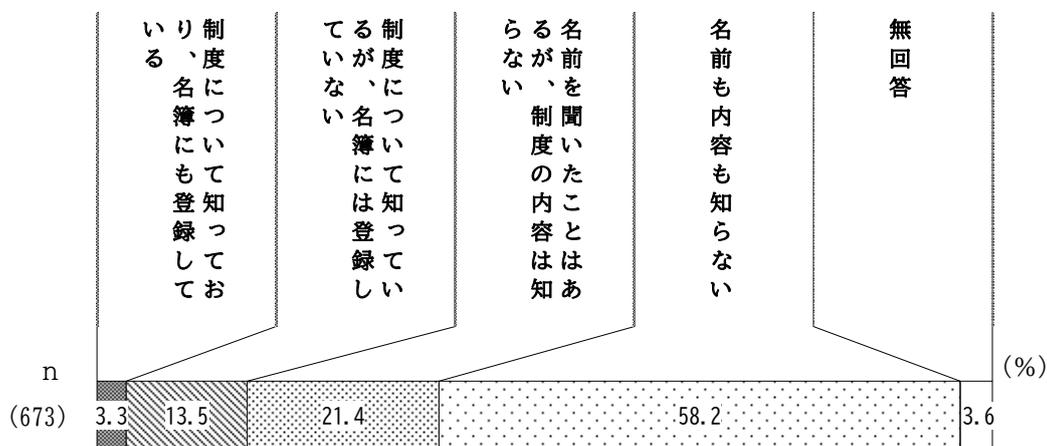
災害などの緊急時に、高齢者世帯や障がいのある人などの要支援者の避難等の手助けの状況  
(性別、年齢別、居住地区別)



災害などの緊急時に、高齢者世帯や障がいのある人などの要支援者の避難等の手助けの状況について、性別でみると、「はい」は男性(50.7%)が女性(38.8%)より11.9ポイント高くなっている。年齢別でみると、「はい」は年齢が上がるほどその割合は低くなっている。居住地区別でみると、地域の間には大きな差は見られなかった。

## (8) 避難行動要支援者名簿登録制度の認知度

問15 あなたは、避難行動要支援者名簿登録制度についてご存知ですか。(○は1つ)



避難行動要支援者名簿登録制度の認知度では、「名前も内容も知らない」が58.2%で最も高く、以下、「名前を聞いたことはあるが、制度の内容は知らない」(21.4%)、「制度について知っているが、名簿には登録していない」(13.5%)、「制度について知っており、名簿にも登録している」(3.3%)となっている。

性別でみると、「名前も内容も知らない」は男性(62.2%)が女性(55.4%)よりも6.8ポイント高く、「名前を聞いたことはあるが、制度の内容は知らない」では女性(24.6%)が男性(19.1%)よりも5.5ポイント高くなっている。

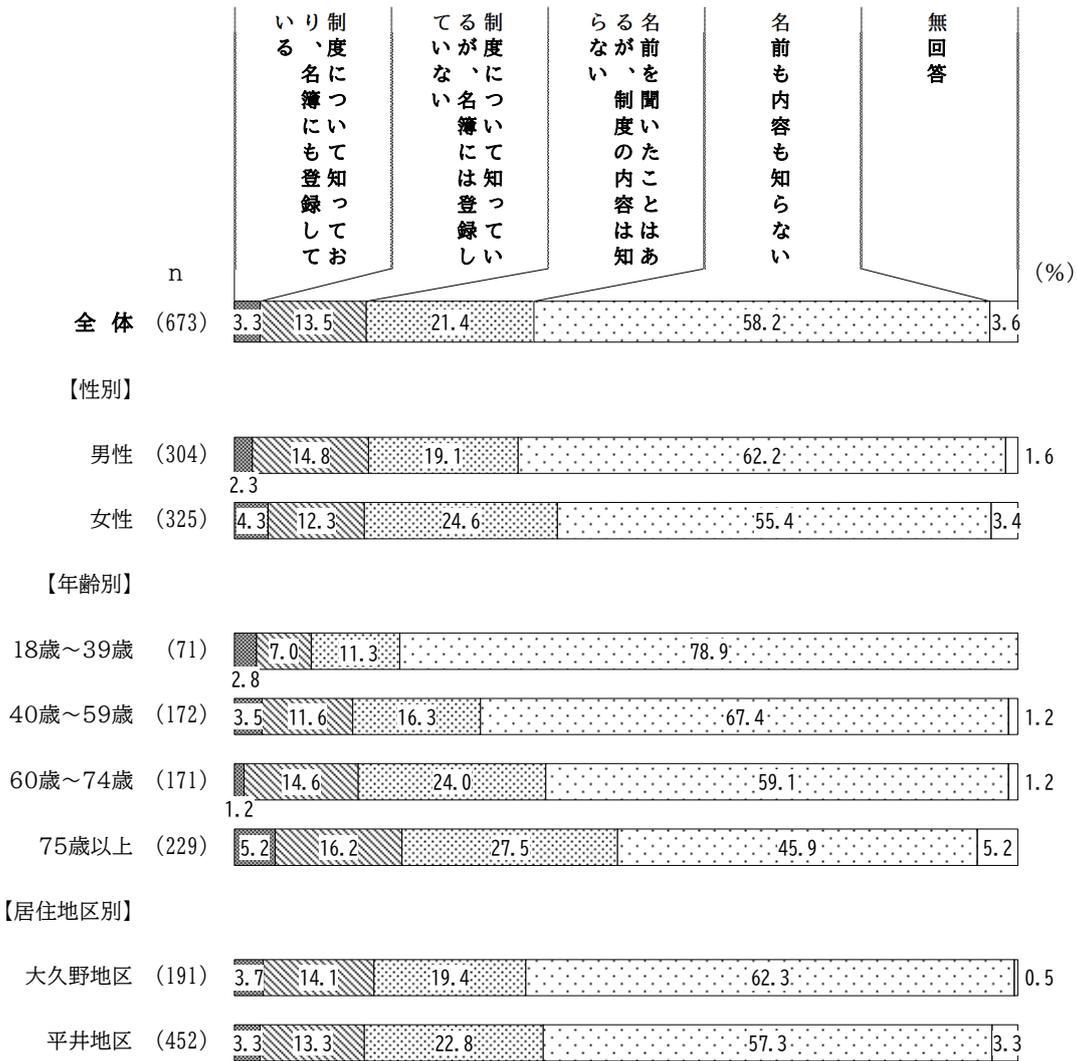
年齢別でみると、「名前も内容も知らない」は年齢が下がるほどその割合は高くなっている。

居住地区別でみると、地域の間には大きな差は見られなかった。

緊急時の手助けの必要な人の避難行動要支援者名簿登録制度の認知度は、「名前も内容もしらない」は手助けが必要な人(49.3%)よりも手助けが必要ない人が(62.2%)が12.9ポイント高くなっており、「名前を聞いたことはあるが、制度の内容は知らない」は手助けが必要ない人(20.6%)よりも手助けが必要な人(27.2%)が6.6ポイント高くなっていた。

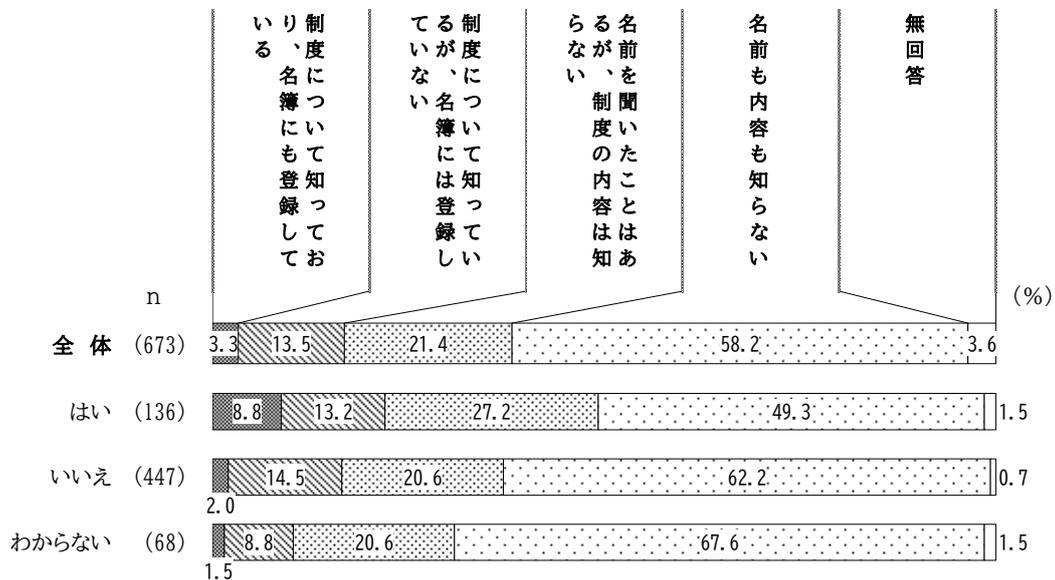
第2章 調査結果の詳細

避難行動要支援者名簿登録制度の認知度（性別、年齢別、居住地区別）



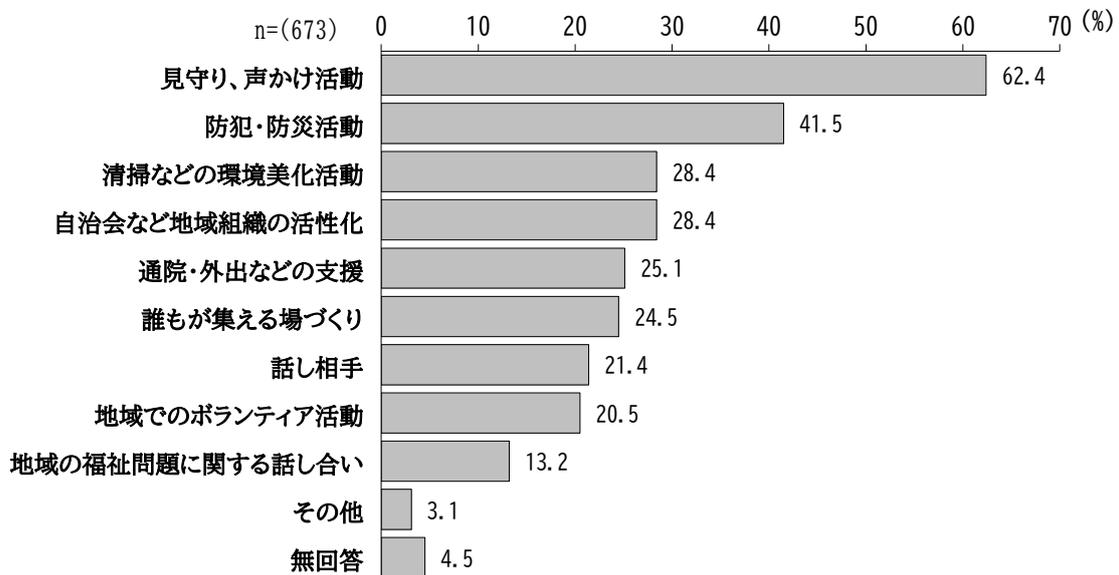
避難行動要支援者名簿登録制度の認知度

（災害などの緊急時に避難所への誘導などの手助けの必要性の有無別）



## (9) 地域の助け合いの推進に必要なだと思う活動

問16 あなたは、今後、地域における助け合いを推進していく上で、地域住民がどのような活動をしたらよいとお考えですか。(あてはまるもの全てに○)



地域の助け合いの推進に必要なと思う活動では、「見守り、声かけ活動」が62.4%で最も高く、以下、「防犯・防災活動」(41.5%)、「清掃などの環境美化活動」(28.4%)、「自治会など地域組織の活性化」(28.4%)となっている。

性別でみると、「見守り、声かけ活動」(男性：58.2%、女性：69.2%)は11.0ポイント、「誰もが集える場づくり」(男性：21.4%、女性：29.8%)では8.4ポイント、女性が男性よりも高くなっている。また、「防犯・防災活動」(男性：46.1%、女性：39.7%)は6.4ポイント、「清掃などの環境美化活動」(男性：33.2%、女性：25.8%)では7.4ポイント、「自治会など地域組織の活性化」(男性：34.5%、女性：24.3%)は10.2ポイント、男性が女性よりも高くなっている。

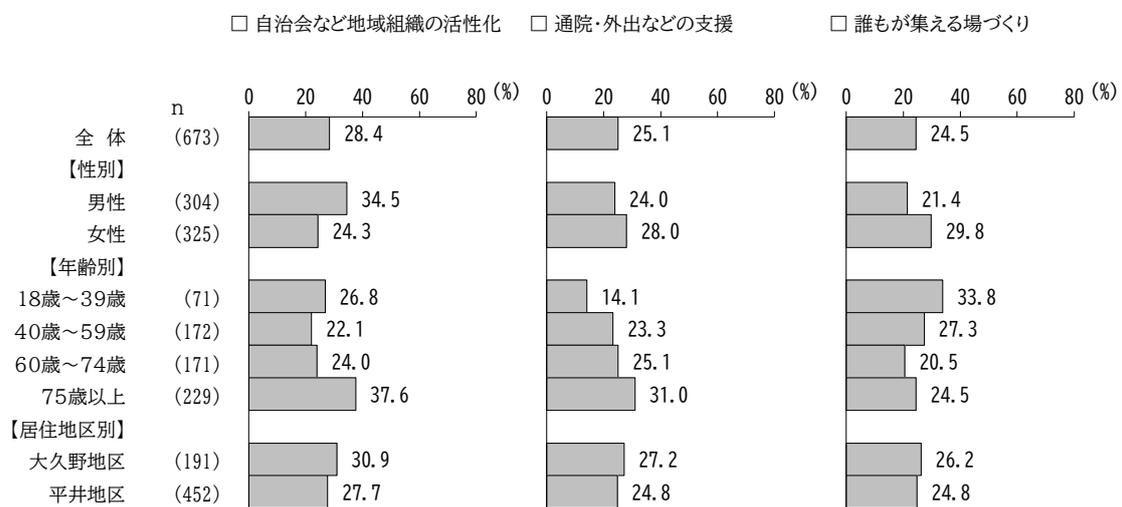
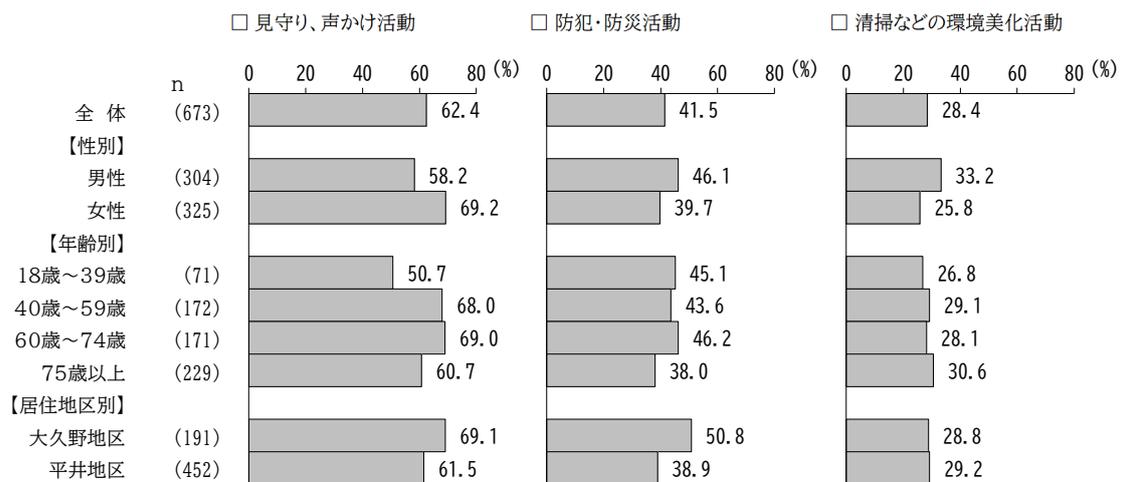
年齢別でみると、「見守り、声かけ活動」は60歳～74歳で69.0%と最も高く、次いで40歳～59歳が68.0%と高くなっている。「自治会など地域組織の活性化」は75歳以上(37.6%)で高くなっている。また、「通院・外出などの支援」は年齢が上がるほどその割合は高くなっている。

居住地区別でみると、「見守り、声かけ活動」(大久野地区：69.1%、平井地区：61.5%)が7.6ポイント、「防犯・防災活動」(大久野地区：50.8%、平井地区：38.9%)が11.9ポイント、大久野地区が平井地区よりも高くなっている。

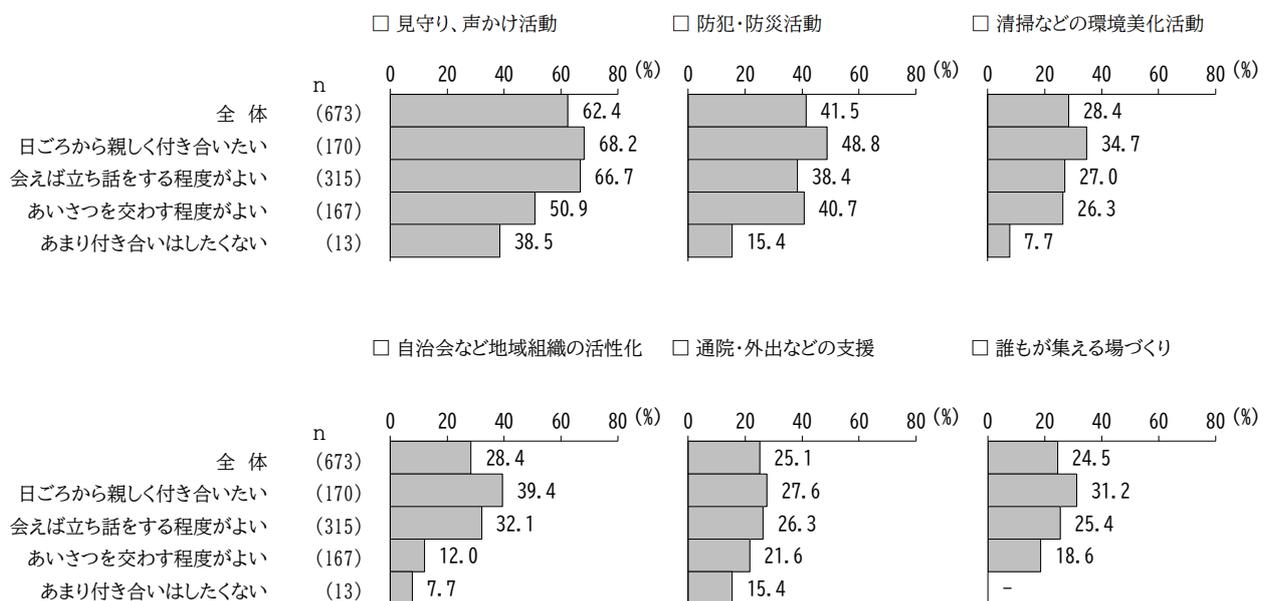
望ましい近所付き合いの程度別にみると、「見守り、声かけ活動」は“日ごろから親しく付き合いたい”と“会えば立ち話をする程度がよい”で6割を超えている。「防犯・防災活動」は“日頃から親しく付き合いたい”が48.8%で最も高くなっている。また「自治会など地域組織の活性化」は“あいさつを交わす程度がよい”が12.0%と低くなっている。

## 第2章 調査結果の詳細

### 地域の助け合いの推進に必要なと思う活動（性別、年齢別、居住地区別）（上位6項目）



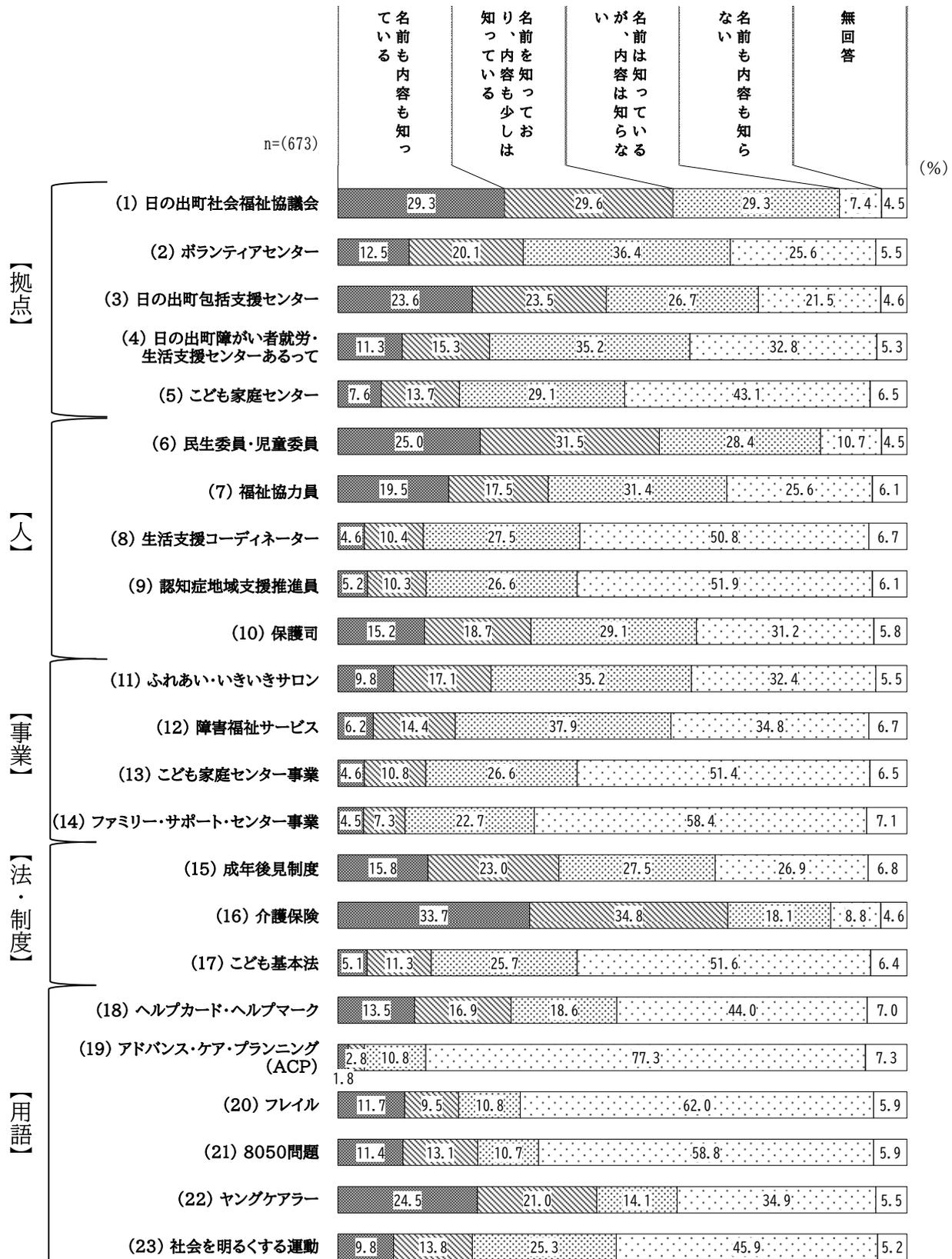
### 地域の助け合いの推進に必要なと思う活動（望ましい近所付き合いの程度別）（上位6項目）



## 4. 福祉について

### (1) 福祉に関する用語や町で行われている事業等の認知度

問17 あなたは、福祉に関する次の用語や町で行われている事業等について知っていますか。  
(○はそれぞれ1つずつ)

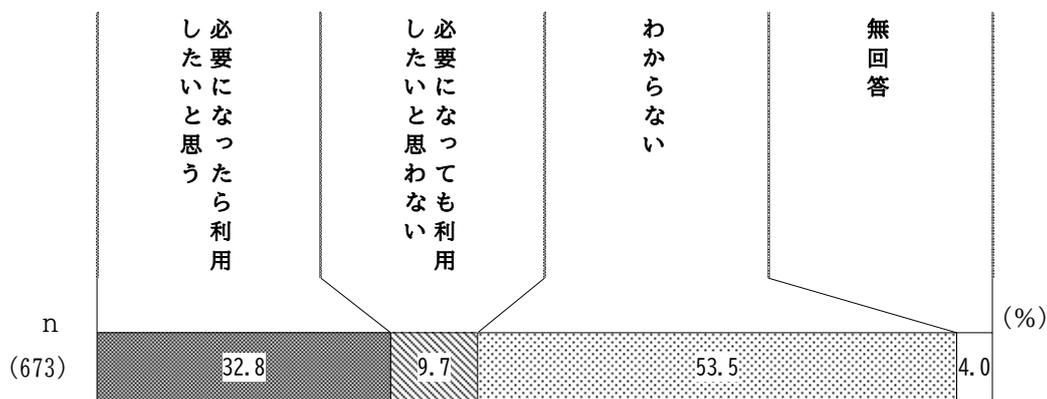


## 第2章 調査結果の詳細

福祉に関する用語や町で行われている事業等の認知度について、【拠点】では、「名前も内容も知らない」が「こども家庭センター」で最も高く、43.1%となっている。【人】では、「生活支援コーディネーター」と「認知症地域支援推進員」で、【事業】では「こども家庭センター事業」と「ファミリー・サポート・センター事業」で「名前も内容も知らない」が5割を超えている。【法・制度】では「こども基本法」で「名前も内容も知らない」が51.6%と高く、「介護保険」で「名前も内容も知っている」が33.7%と高くなっている。【用語】では「名前も内容も知らない」が「アドバンス・ケア・プランニング（ACP）」で77.3%と最も高く、次いで「フレイル」（62.0%）、「8050問題」（58.8%）となっている。

### (2) 成年後見制度の利用意向

問18 あなたは、成年後見制度の利用についてどう思いますか。（○は1つ）



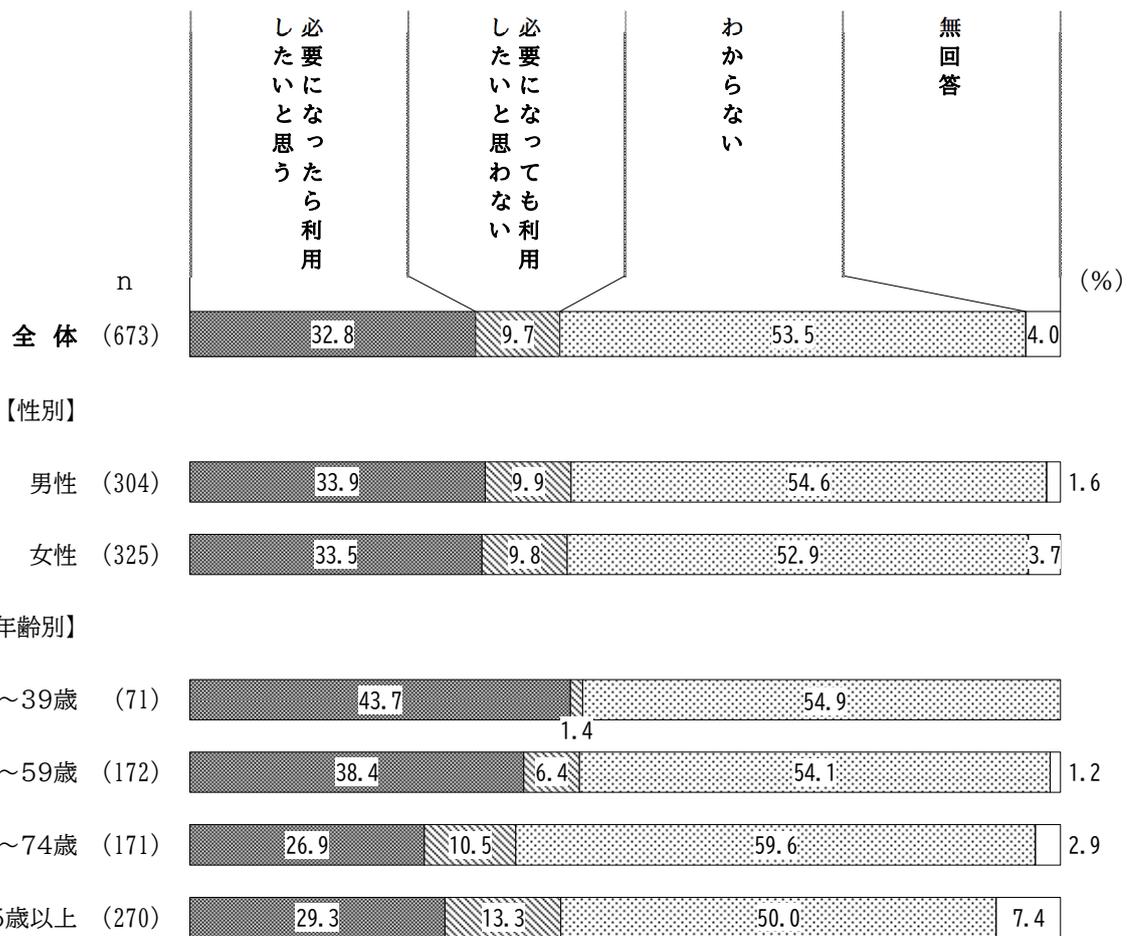
成年後見制度の利用意向では、「わからない」が53.5%、「必要になったら利用したいと思う」が32.8%、「必要になっても利用したいと思わない」が9.7%となっている。

性別でみると、男女の間に大きな差は見られなかった。

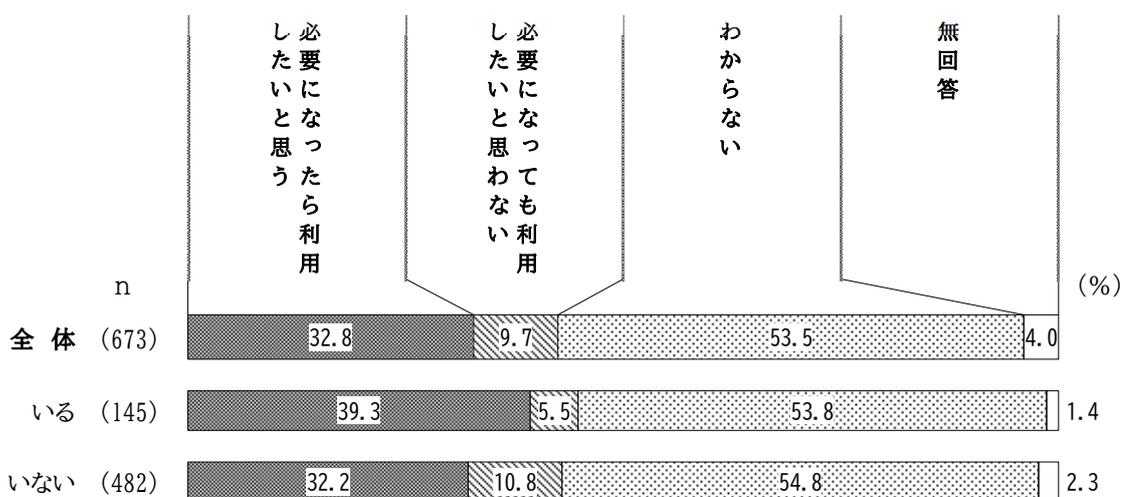
年齢別でみると、「必要になったら利用したいと思う」は18歳～39歳で43.7%と最も高くなっている。

同居家族別でみると、「必要になったら利用したいと思う」は同居家族に障がいのある方や介護が必要な方がいる人（39.3%）がいない人（32.2%）より7.1ポイント高くなっている。

成年後見制度の利用意向（性別、年齢別）

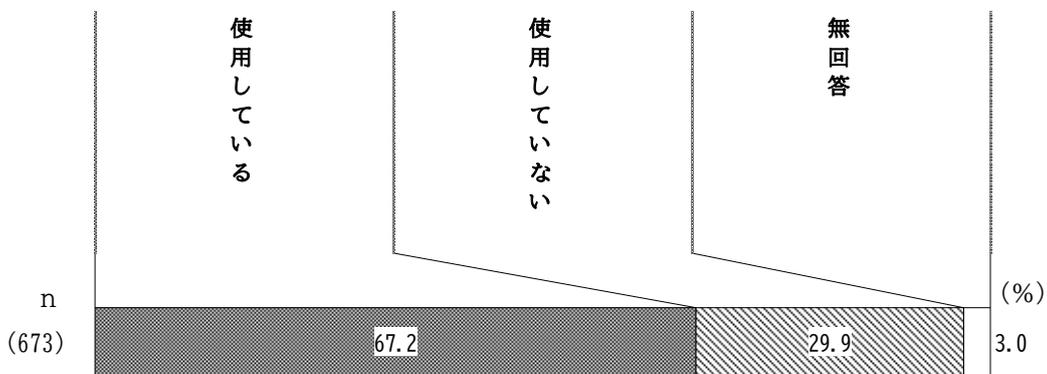


成年後見制度の利用意向（同居家族の障がいのある方や介護が必要な方の有無別）



(3) インターネットの使用

問19 あなたは、インターネットを使用していますか。(○は1つ)

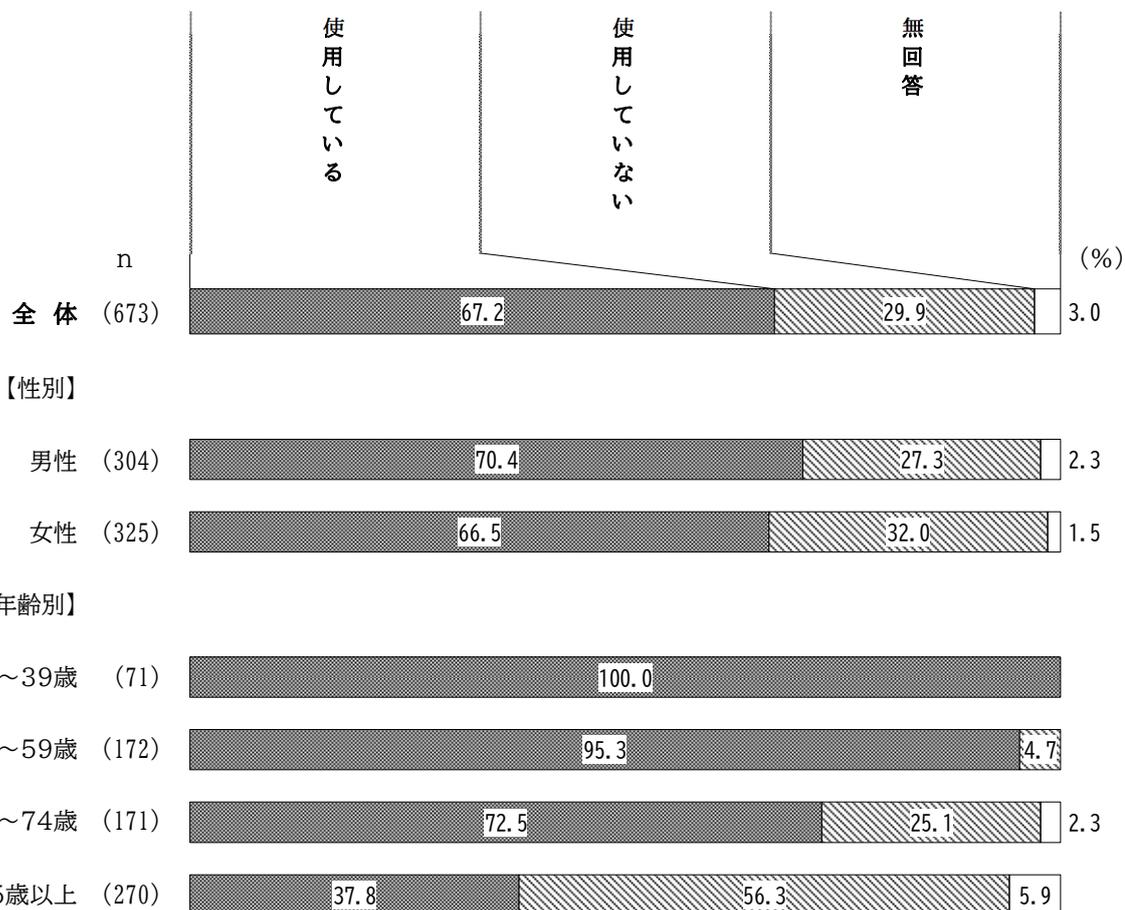


インターネットの使用では、「使用している」が67.2%、「使用していない」が29.9%となっている。

性別でみると、男女の間に大きな差は見られなかった。

年齢別でみると、「使用していない」は年齢が上がるほどその割合は高くなっている。

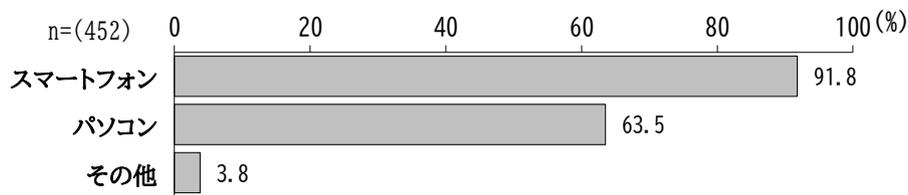
インターネットの使用（性別、年齢別）



(4) 使用している機種

《問19で「1. 使用している」とお答えの方におたずねします》

問19-1 使用している機種等はどれですか。(あてはまるもの全てに○)

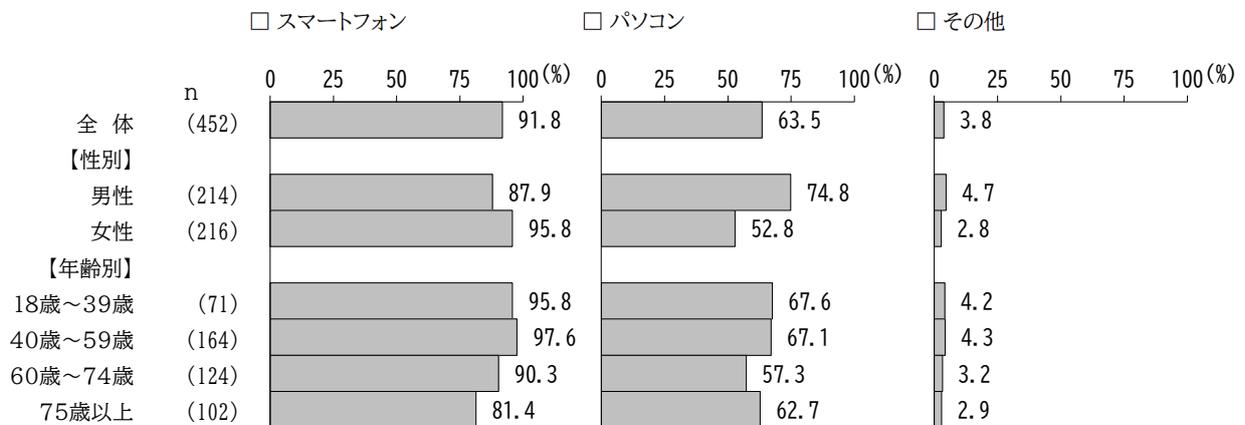


使用している機種では「スマートフォン」が91.8%、パソコンが63.5%となっている。

性別でみると、「パソコン」では男性（74.8%）が女性（52.8%）より22.0ポイント高くなっている。

年齢別でみると、「スマートフォン」は40歳～59歳で97.6%と最も高くなっている。また「パソコン」は18歳～39歳（67.6%）と40歳～59歳（67.1%）で高くなっている。

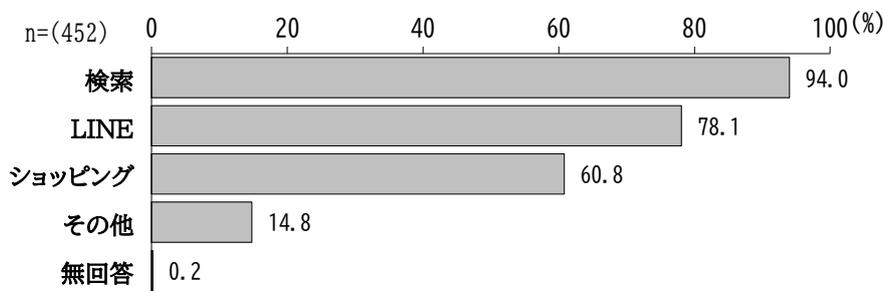
使用している機種（性別、年齢別）



(5) インターネットの利用目的

《問19で「1. 使用している」とお答えの方におたずねします》

問19-2 インターネットの利用目的はどれですか。(あてはまるもの全てに○)

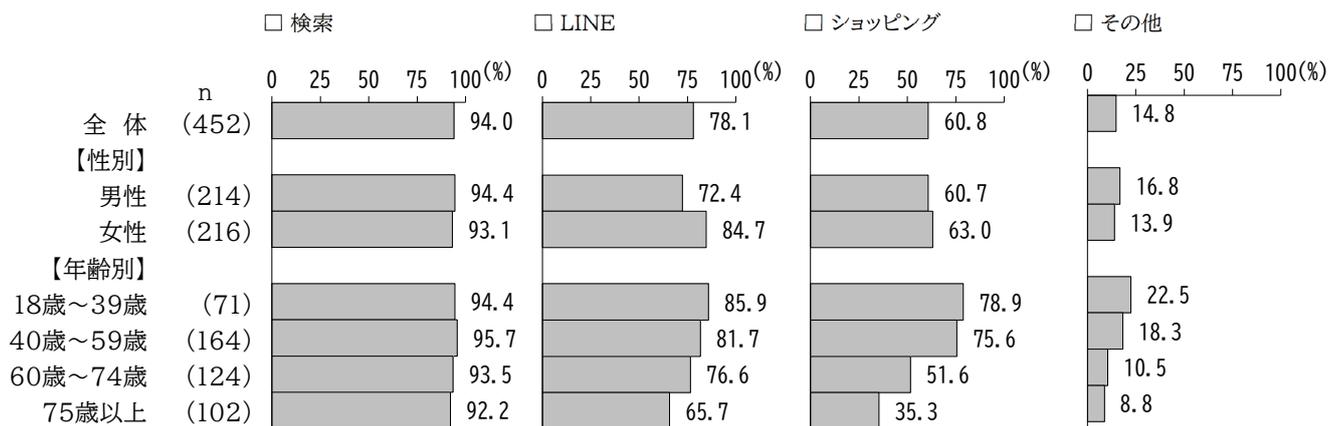


インターネットの利用目的では、「検索」が94.0%と最も高く、次いで「LINE」(78.1%)、「ショッピング」(60.8%)となっている。

性別で見ると、「LINE」は女性(84.7%)が男性(72.4%)より12.3ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「検索」はすべての年齢で9割を超えている。また「LINE」と「ショッピング」は年齢が上がるほどその割合は低くなっている。

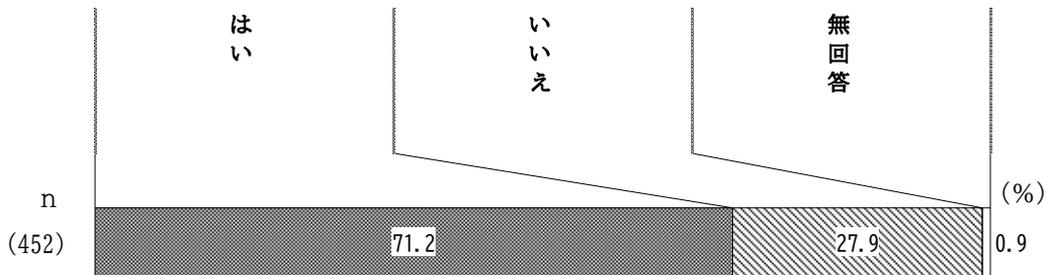
インターネットの利用目的 (性別、年齢別)



(6) インターネットによる行政手続きの利用意向

《問19で「1. 使用している」とお答えの方におたずねします》

問19-3 インターネットによる行政手続きがあれば利用したいですか。(○は1つ)

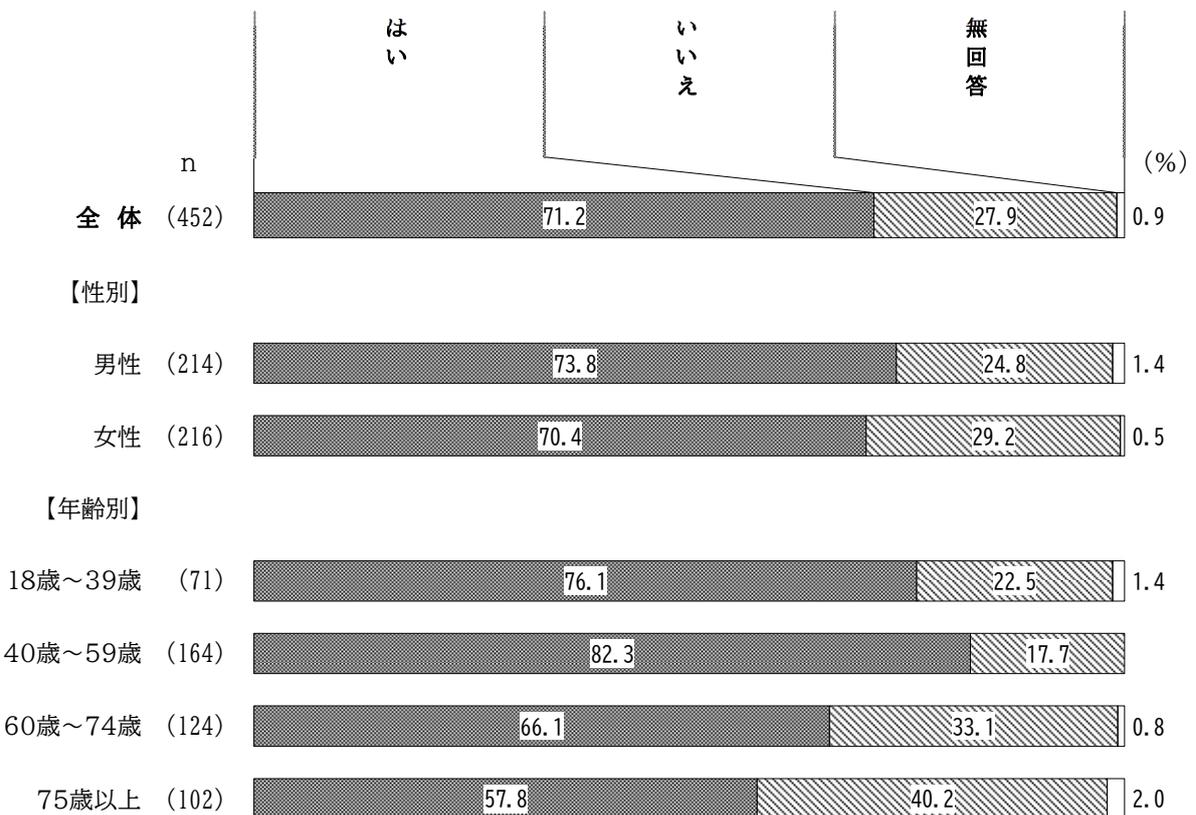


インターネットによる行政手続きの利用意向では、「はい」が71.2%、「いいえ」が27.9%となっている。

性別でみると、男女の間に大きな差は見られなかった。

年齢別でみると、「はい」は40歳～59歳（82.3%）で最も高くなっている。

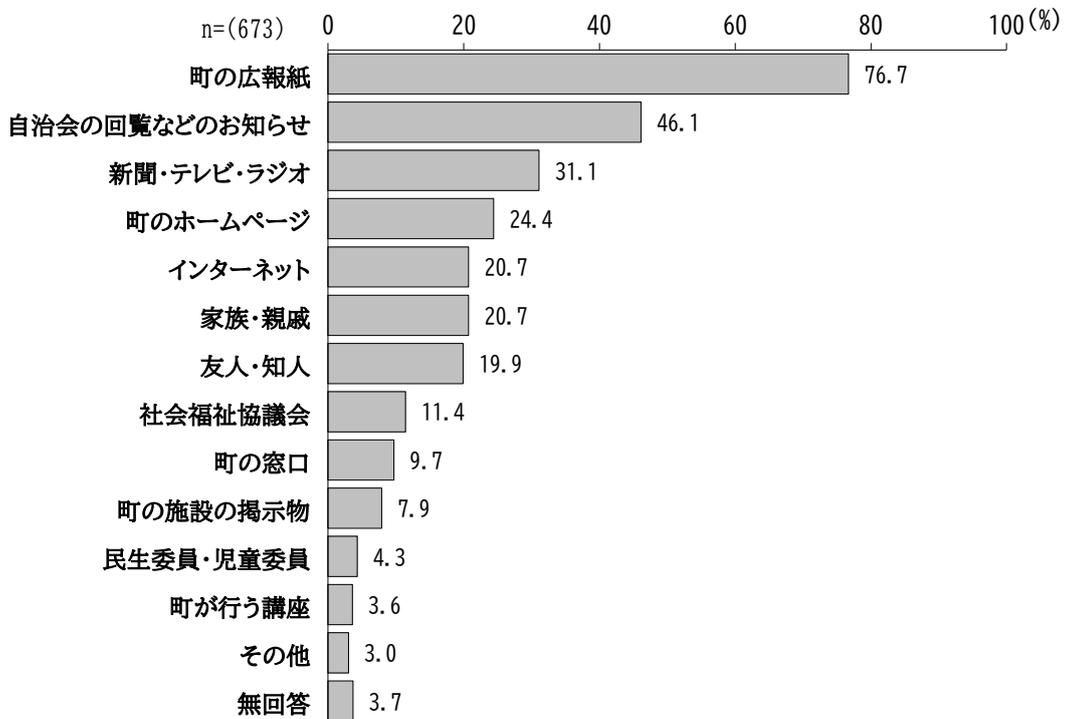
インターネットによる行政手続きの利用意向（性別、年齢別）



(7) 福祉に関する情報の入手経路

問20 あなたは、福祉に関する情報などをどのように得ていますか。

(あてはまるもの全てに○)



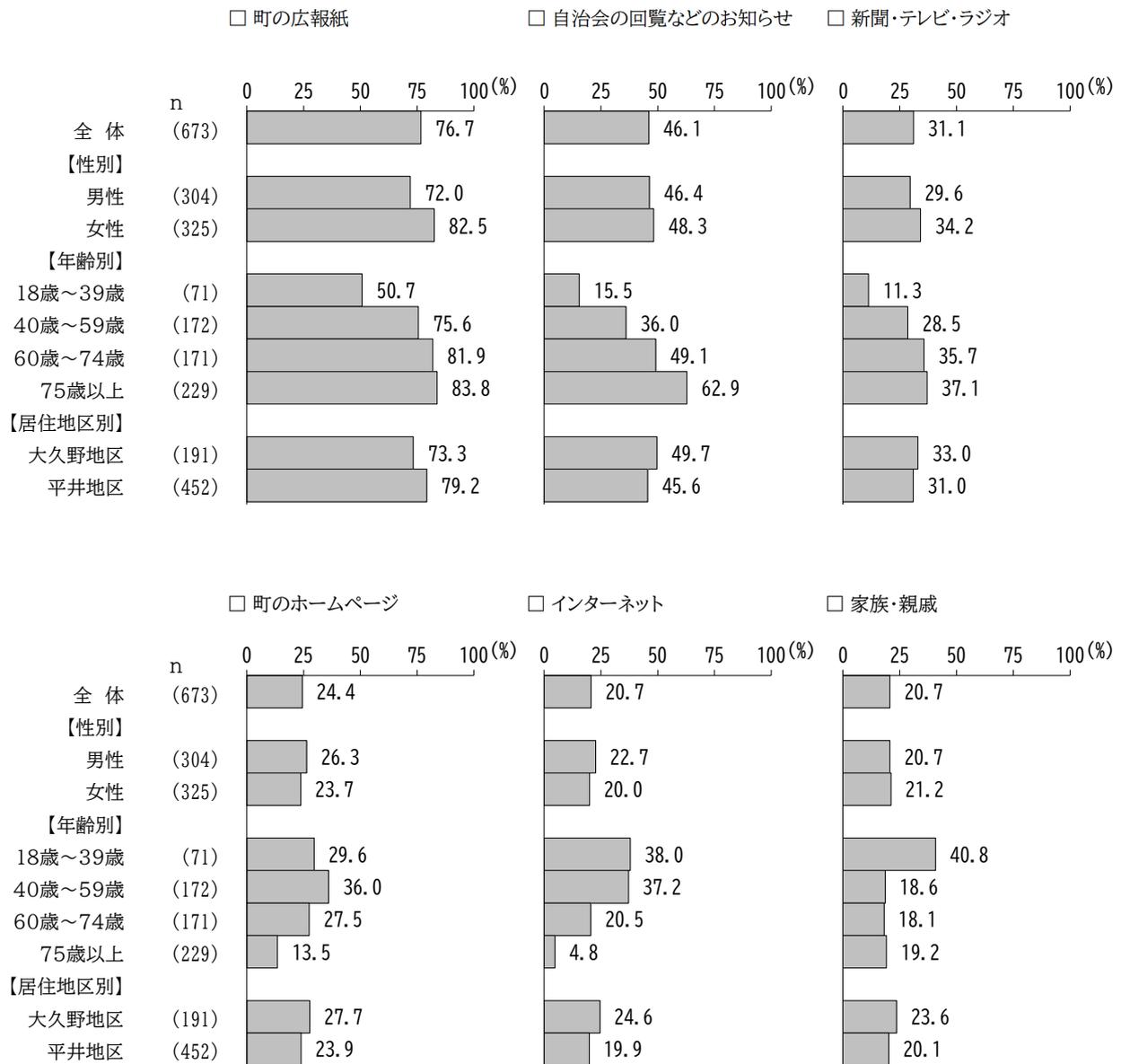
福祉に関する情報の入手経路では、「町の広報紙」が76.7%と最も高く、以下、「自治会の回覧などのお知らせ」(46.1%)、「新聞・テレビ・ラジオ」(31.1%)、「町のホームページ」(24.4%)となっている。

性別でみると、「町の広報紙」は女性(82.5%)が男性(72.0%)より10.5ポイント高くなっている。

年齢別でみると、「町の広報紙」「自治会の回覧などのお知らせ」「新聞・テレビ・ラジオ」は年齢が上がるほどその割合は高くなっている。一方、「インターネット」は年齢が上がるほどその割合は低くなっている。

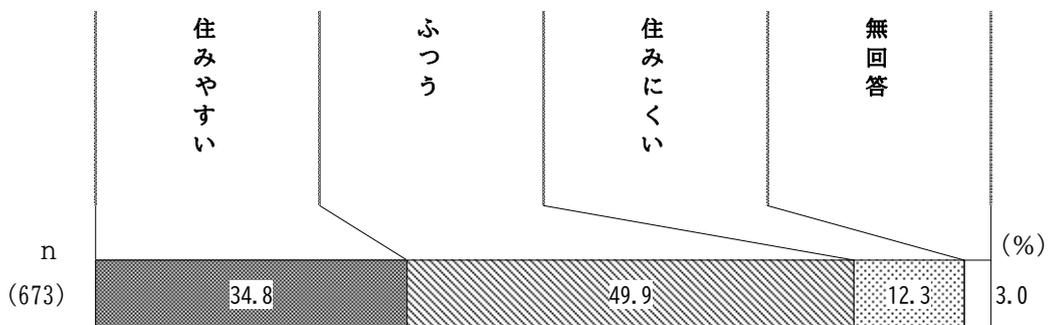
居住地区別でみると、「町の広報誌」は平井地区(79.2%)が大久野地区(73.3%)より5.9ポイント高くなっている。

福祉に関する情報の入手経路（性別、年齢別、居住地区別）（上位6項目）



(8) まちの住みやすさへの考え

問21 あなたがお住まいのまちは、住みやすいまちだと思いますか。(○は1つ)



まちの住みやすさへの考えでは、「ふつう」が49.9%で最も多く、以下、「住みやすい」(34.8%)、「住みにくい」(12.3%)となっている。

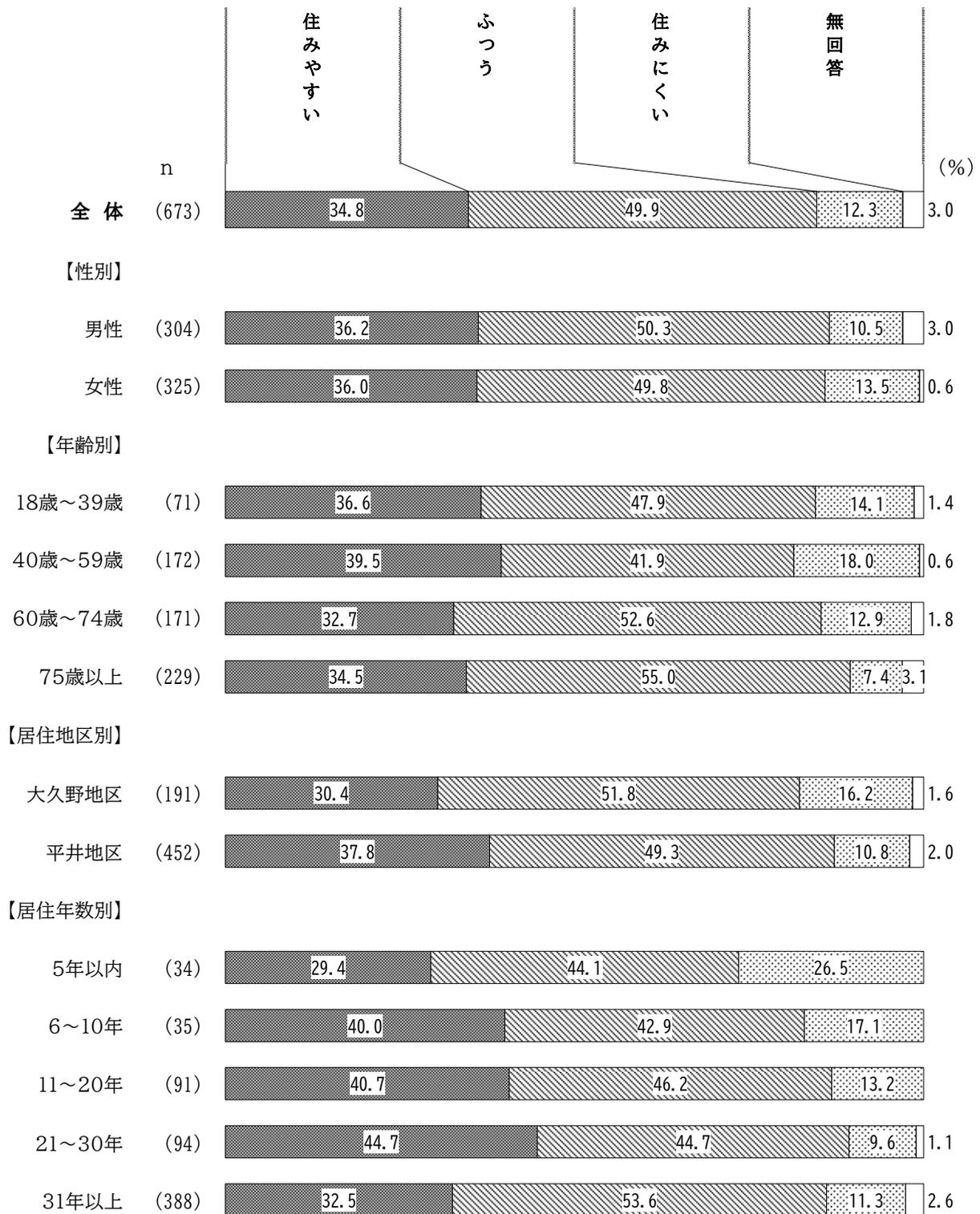
性別でみると、男女の間に大きな差は見られなかった。

年齢別でみると、「住みやすい」は40歳～59歳で39.5%と最も高くなっている。

居住地区別でみると、「住みやすい」は平井地区(37.8%)が大久野地区(30.4%)より7.4ポイント高くなっている。

居住年数別でみると、「住みやすい」は6～10年、11～20年、21～30年で4割以上と高くなっている。

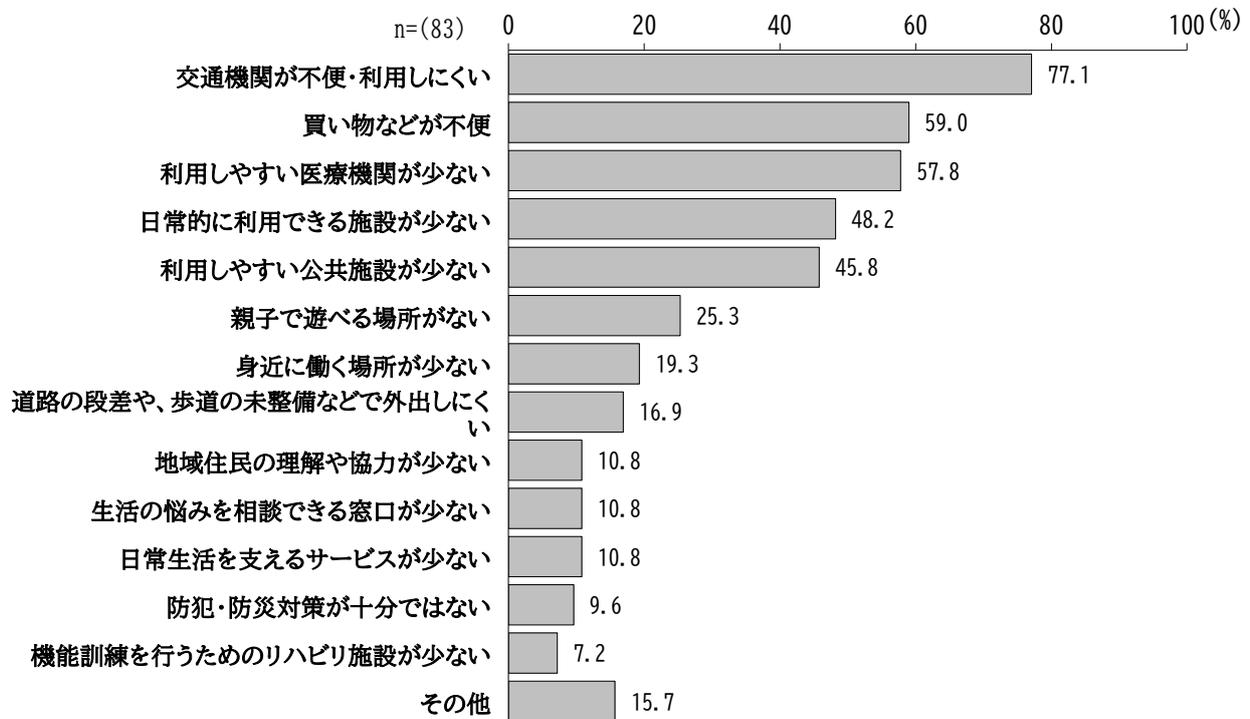
まちの住みやすさへの考え（性別、年齢別、居住地区別）



(9) 住みにくいと思う理由

《問21で「3. 住みにくい」とお答えの方におたずねします》

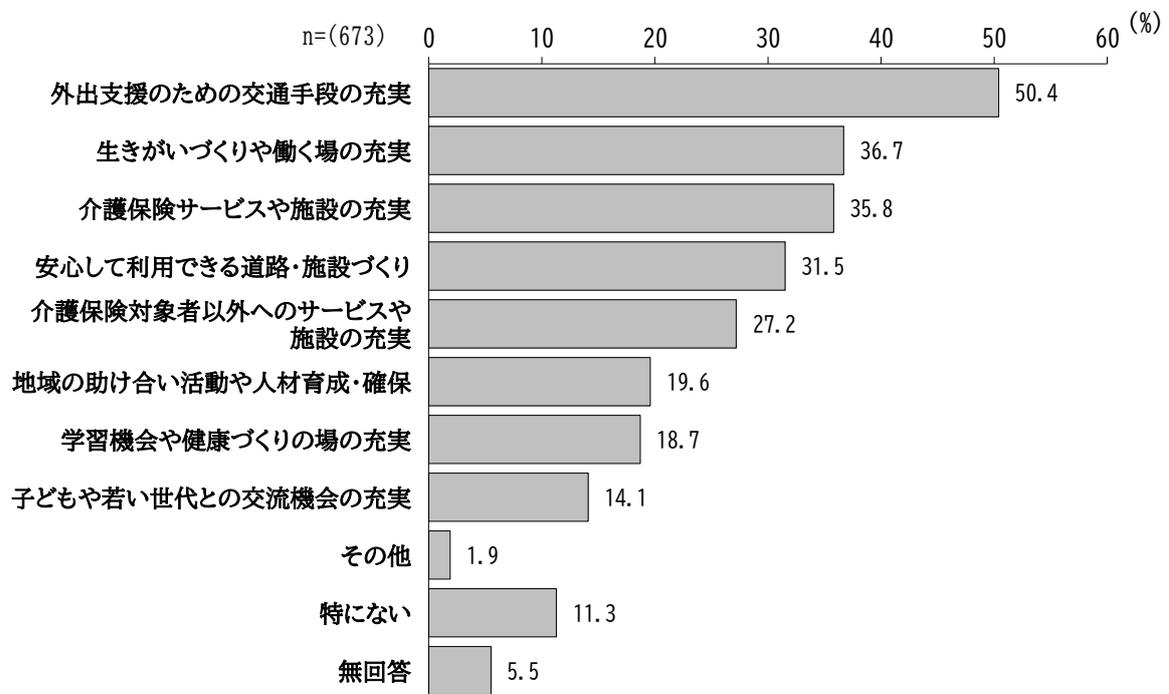
問21-1 あなたが住みにくいと思う理由は何ですか。(あてはまるもの全てに○)



住みにくいと思う理由では、「交通機関が不便・利用しにくい」が77.1%で最も高く、以下、「買い物などが不便」(59.0%)、「利用しやすい医療機関が少ない」(57.8%)、「日常的に利用できる施設が少ない」(48.2%)となっている。

## (10) 高齢者がいきいきと暮らせるようにするため、より充実すべきこと

問22 高齢者がいきいきと暮らせるようにするため、より充実すべきこと（現在足りていないこと）は何だと思いますか。（あてはまるもの全てに○）



高齢者がいきいきと暮らせるようにするため、より充実すべきことでは、「外出支援のための交通手段の充実」が50.4%で最も高く、以下、「生きがいづくりや働く場の充実」(36.7%)、「介護保険サービスや施設の充実」(35.8%)、「安心して利用できる道路・施設づくり」(31.5%)となっている。

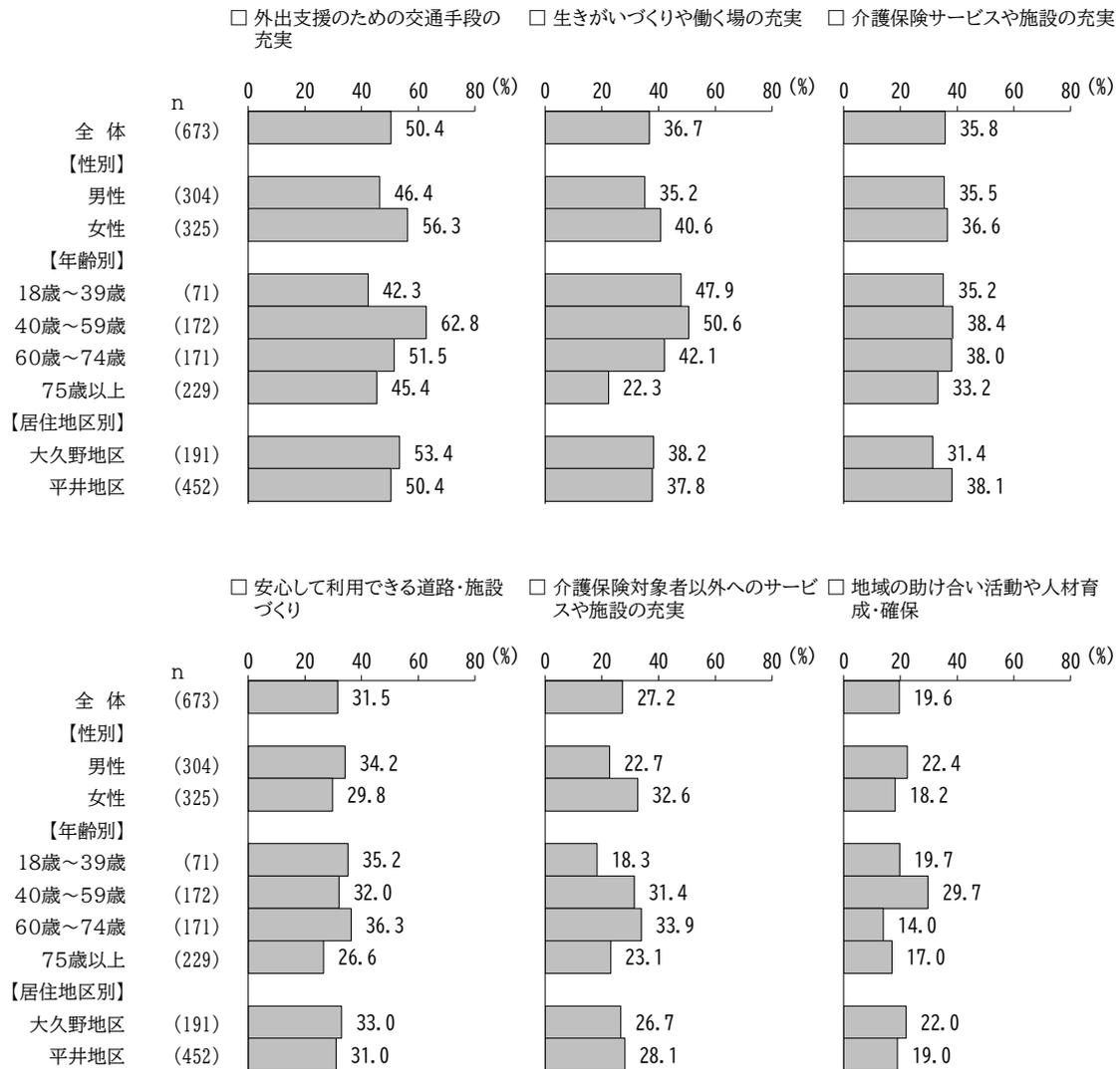
性別でみると、「外出支援のための交通手段の充実」(男性：46.4%、女性：56.3%)は9.9ポイント、「介護保険対象者以外へのサービスや施設の充実」(男性：22.7%、女性：32.6%)は9.9ポイント、女性が男性よりも高くなっている。

年齢別でみると、「外出支援のための交通手段の充実」は40歳～59歳で62.8%と高くなっている。また、「生きがいづくりや働く場の充実」は75歳以上を除く全ての年齢で4割を超えており、「介護保険対象者以外へのサービスや施設の充実」は40歳～59歳、60～74歳で3割を超えている。

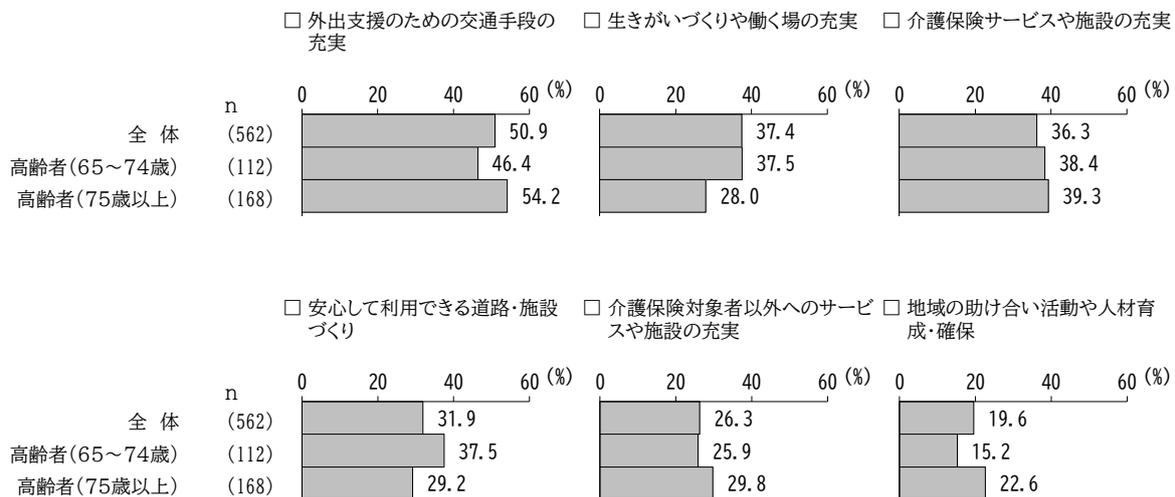
居住地区別でみると、「介護保険サービスや施設の充実」は平井地区(38.1%)が大久野地区(31.4%)より6.7ポイント高くなっている。

同居家族の年代別でみると、「外出支援のための交通手段の充実」は高齢者(75歳以上)(54.2%)が高齢者(65～74歳)(46.4%)より7.8ポイント高くなっている。また、「生きがいづくりや働く場の充実」(65～74歳：37.5%、75歳以上：28.0%)は9.5ポイント、「安心して利用できる道路・施設づくり」(65～74歳：37.5%、75歳以上：29.2%)は8.3ポイント、高齢者(65～74歳)が高齢者(75歳以上)より高くなっている。

高齢者がいきいきと暮らせるようにするため、より充実すべきこと  
(性別、年齢別、居住地区別) (上位6項目)

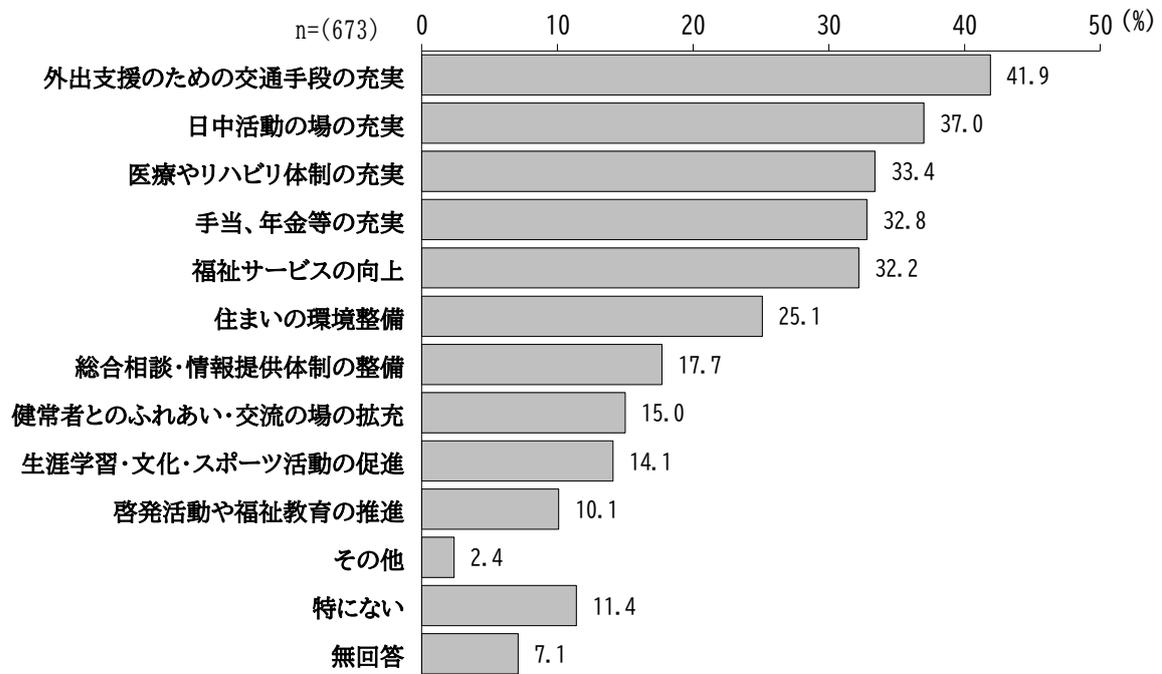


高齢者がいきいきと暮らせるようにするため、より充実すべきこと (同居家族の年代別)  
(上位6項目)



## (11) 障がい者がいきいきと暮らせるようにするため、より充実すべきこと

問23 障がい者がいきいきと暮らせるようにするため、より充実すべきこと（現在足りていないこと）は何だと思えますか（あてはまるもの全てに○）



障がい者がいきいきと暮らせるようにするため、より充実すべきことでは、「外出支援のための交通手段の充実」が41.9%で最も高く、以下、「日中活動の場の充実」(37.0%)、「医療やリハビリ体制の充実」(33.4%)、「手当、年金等の充実」(32.8%)となっている。

性別でみると、「外出支援のための交通手段の充実」は女性(46.2%)が男性(39.5%)より6.7ポイント高くなっている。

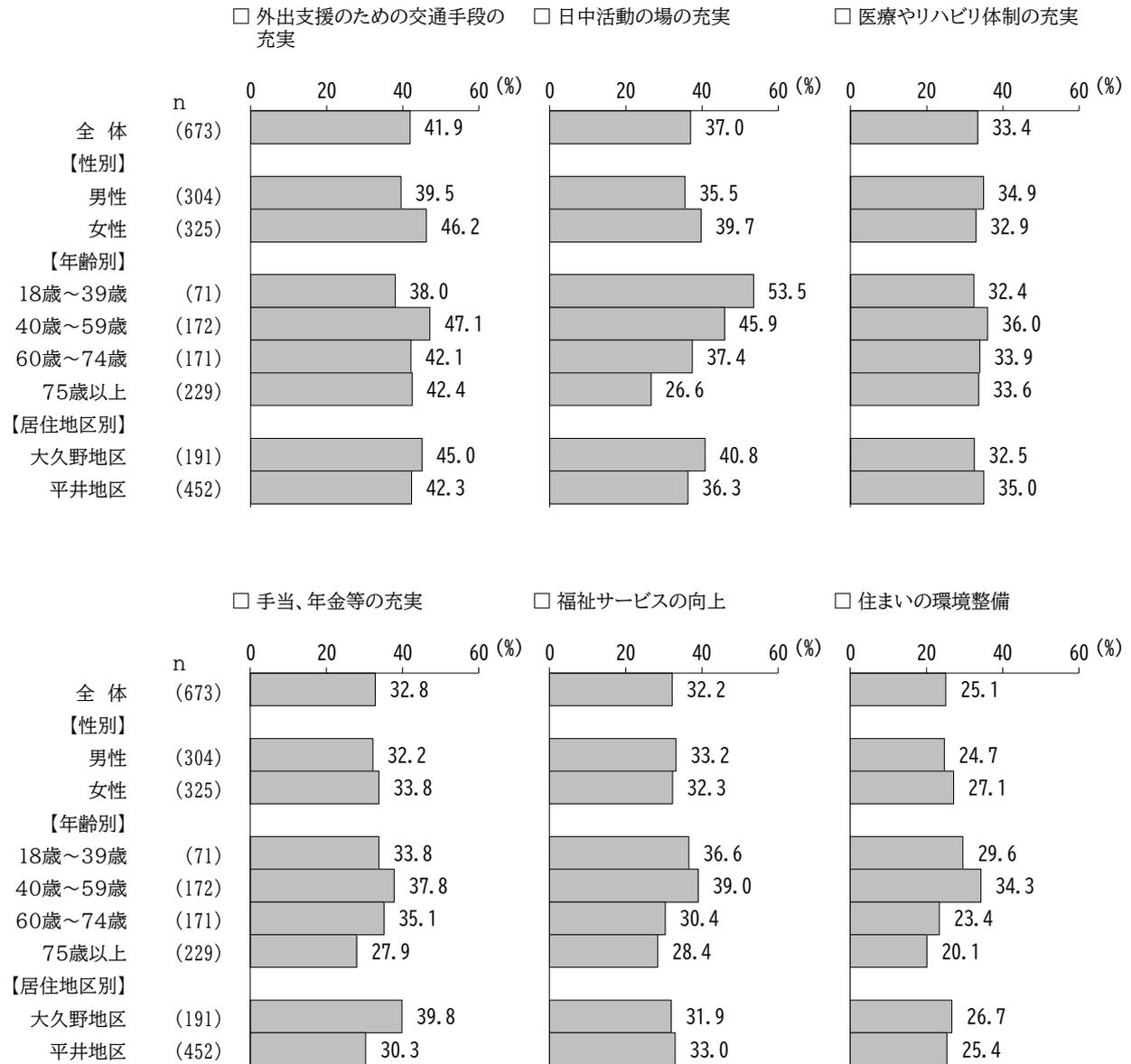
年齢別でみると、「外出支援のための交通手段の充実」は40歳～59歳で47.1%と高くなっている。また、「日中活動の場の充実」は年齢が下がるほどその割合は高くなっている。

居住地区別でみると、「手当、年金等の充実」は大久野地区(39.8%)が平井地区(30.3%)よりも9.5ポイント高くなっている。

## 第2章 調査結果の詳細

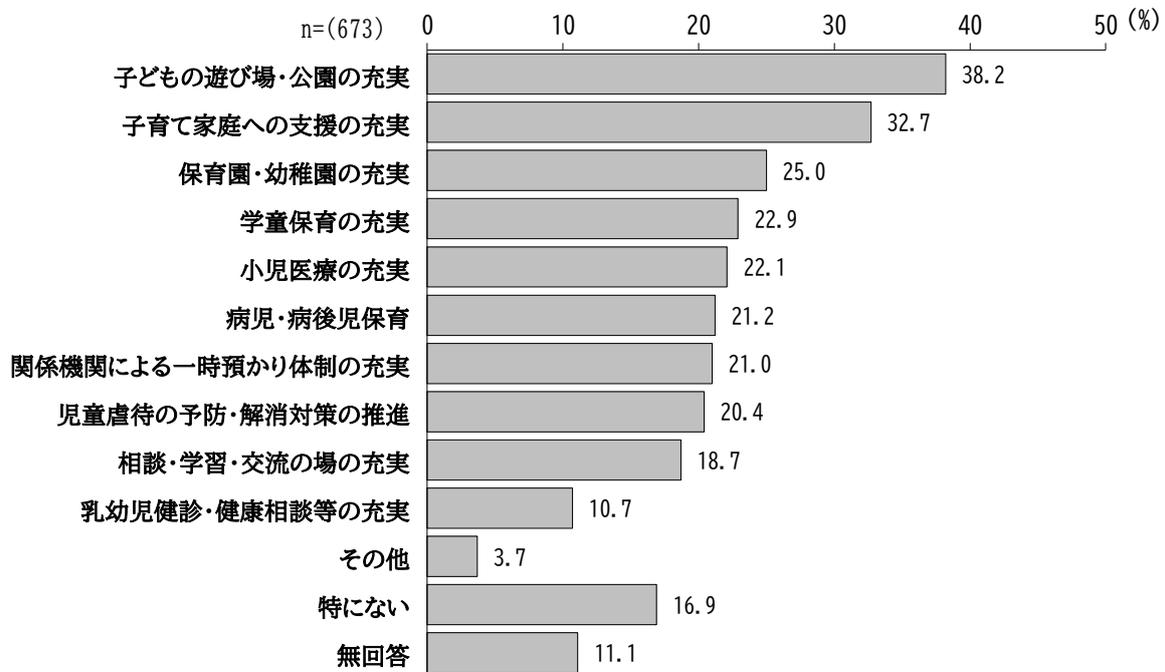
### 障がい者がいきいきと暮らせるようにするため、より充実すべきこと

(性別、年齢別、居住地区別) (上位6項目)



## (12) 子育てをしやすい環境づくりのため、より充実すべきこと

問24 子育てをしやすい環境づくりのため、より充実すべきこと（現在足りていないこと）は何だと思いますか（あてはまるもの全てに○）



子育てをしやすい環境づくりのため、より充実すべきことでは、「子どもの遊び場・公園の充実」が38.2%で最も高く、以下、「子育て家庭への支援の充実」（32.7%）、「保育園・幼稚園の充実」（25.0%）、「学童保育の充実」（22.9%）となっている。

性別でみると、男女の間に大きな差は見られなかった。

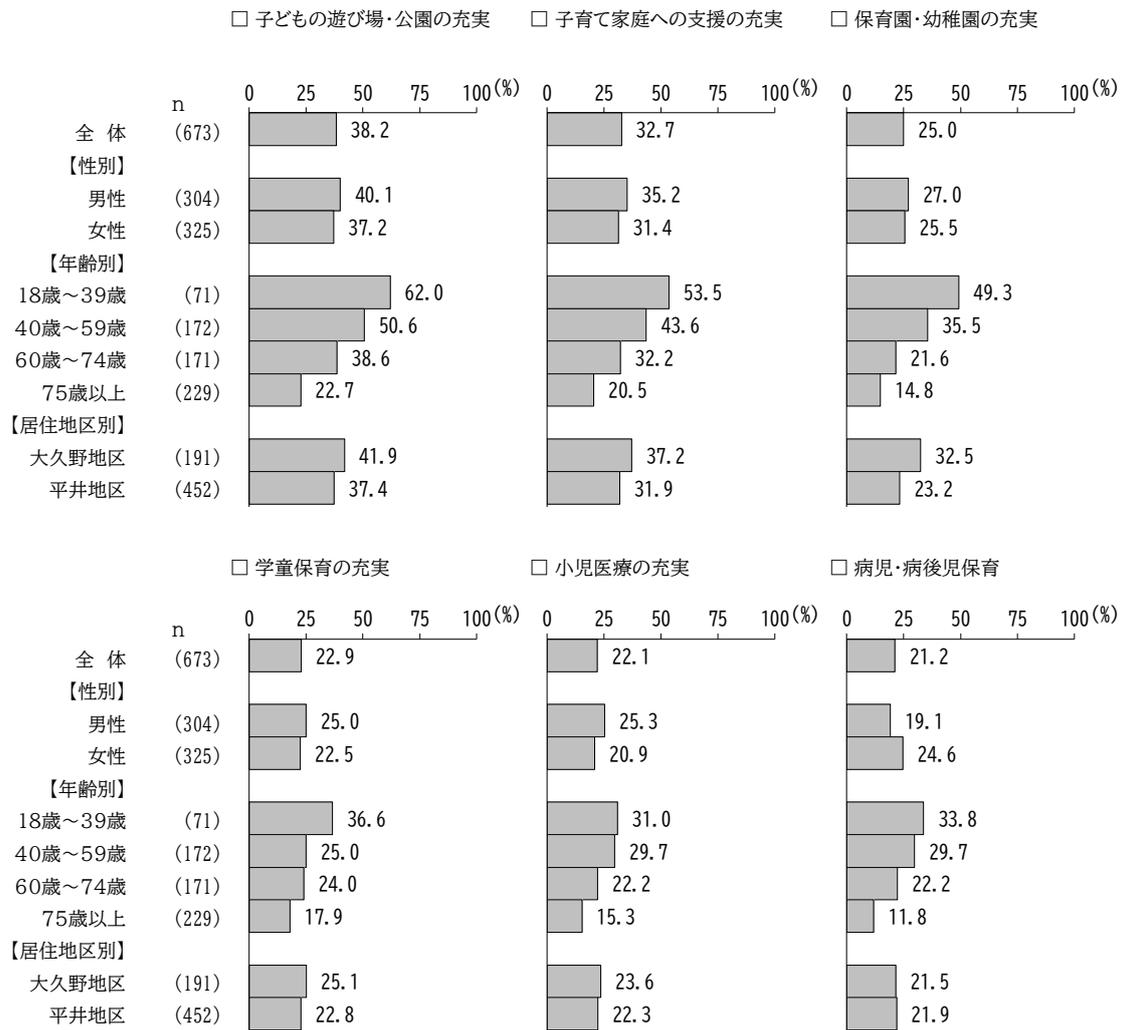
年齢別でみると、すべての項目で年齢が上がるほどその割合は低くなっている。「子どもの遊び場・公園の充実」は18歳～39歳と40歳～59歳、「子育て家庭への支援の充実」は18歳～39歳で5割を超えている。

居住地区別でみると、「子育て家庭への支援の充実」（大久野地区：37.2%、平井地区：31.9%）で5.3ポイント、「保育園・幼稚園の充実」（大久野地区：32.5%、平井地区：23.2%）で9.3ポイント、大久野地区が平井地区より高くなっている。

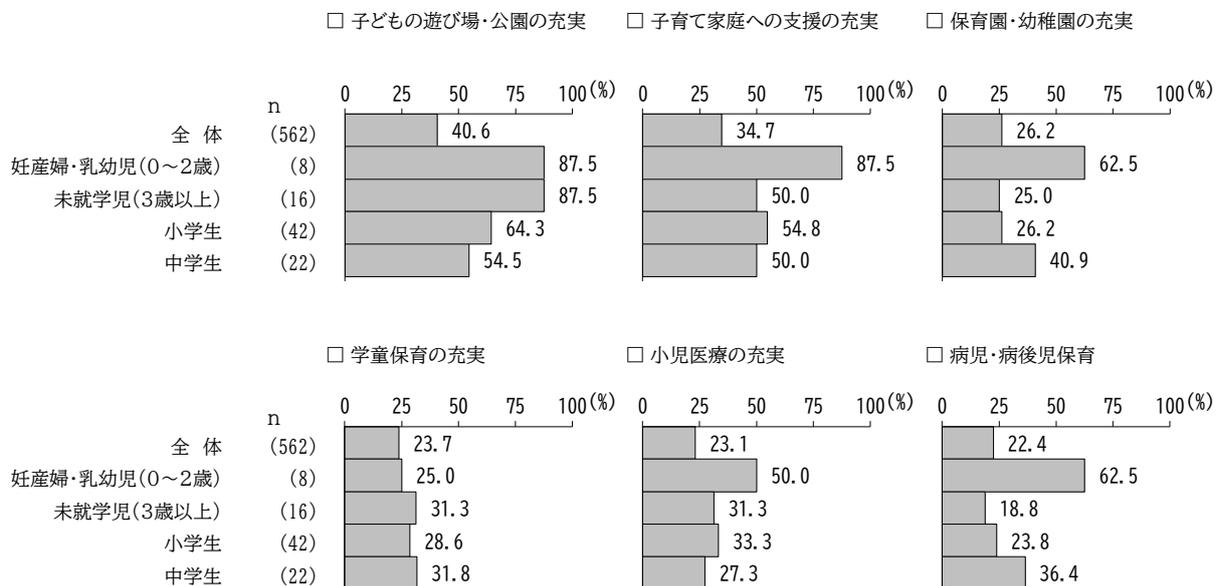
同居家族の年代別でみると、「子どもの遊び場・公園の充実」は、“妊産婦・乳幼児（0～2歳）”“未就学児（3歳以上）”のいる家族で、また「子育て家庭への支援の充実」は“妊産婦・乳幼児（0～2歳）”のいる家族で8割を超えている。

## 第2章 調査結果の詳細

### 子育てをしやすい環境づくりのため、より充実すべきこと（性別、年齢別、居住地区別） （上位6項目）

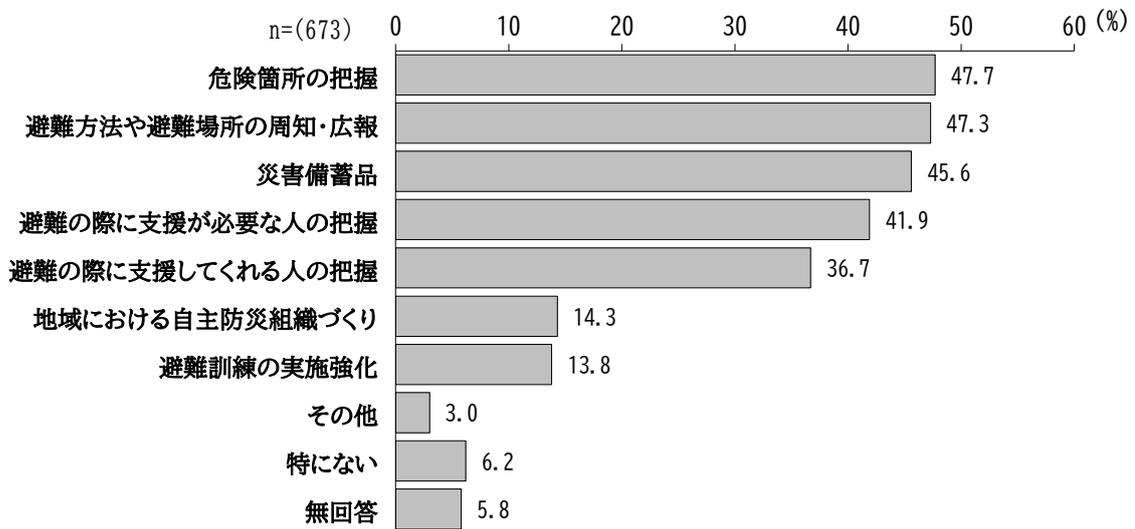


### 子育てをしやすい環境づくりのため、より充実すべきこと（同居家族の年代別） （上位6項目）



## (13) 災害時や緊急時に備えるため、より充実すべきこと

問25 災害時や緊急時に備えるため、より充実すべきこと（現在足りていないこと）は何だと思いますか（あてはまるもの全てに○）



災害時や緊急時に備えるため、より充実すべきことでは、「危険箇所の把握」が47.7%で最も高く、以下、「避難方法や避難場所の周知・広報」(47.3%)、「災害備蓄品」(45.6%)、「避難の際に支援が必要な人の把握」(41.9%)となっている。

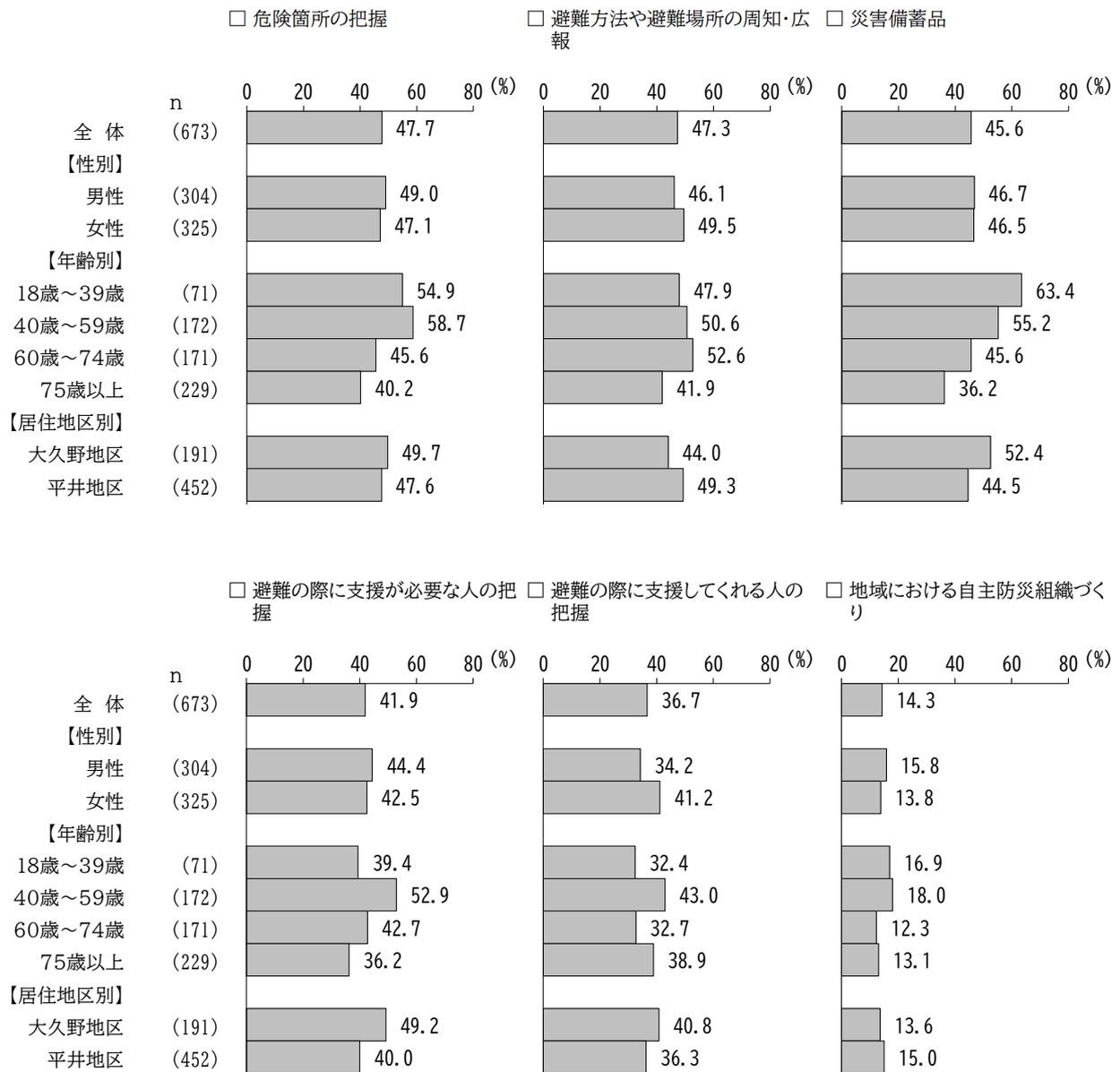
性別でみると、「避難の際に支援してくれる人の把握」は女性(41.2%)が男性(34.2%)より7.0ポイント高くなっている。

年齢別でみると、「危険箇所の把握」は40歳～59歳で58.7%と最も高く、次いで18歳～39歳(54.9%)となっている。また、「避難の際に支援が必要な人の把握」は40歳～59歳(52.9%)、「避難の際に支援してくれる人の把握」は40歳～59歳(43.0%)でそれぞれ高くなっている。「災害備蓄品」は年齢が上がるほどその割合は低くなっている。

居住地区別でみると、「災害備蓄品」(大久野地区：52.4%、平井地区：44.5%)は7.9ポイント、「避難の際に支援が必要な人の把握」(大久野地区：49.2%、平井地区：40.0%)は9.2ポイント、大久野地区が平井地区より高くなっている。また、「避難方法や避難場所の周知・広報」は平井地区(49.3%)が大久野地区(44.0%)より5.3ポイント高くなっている。

## 第2章 調査結果の詳細

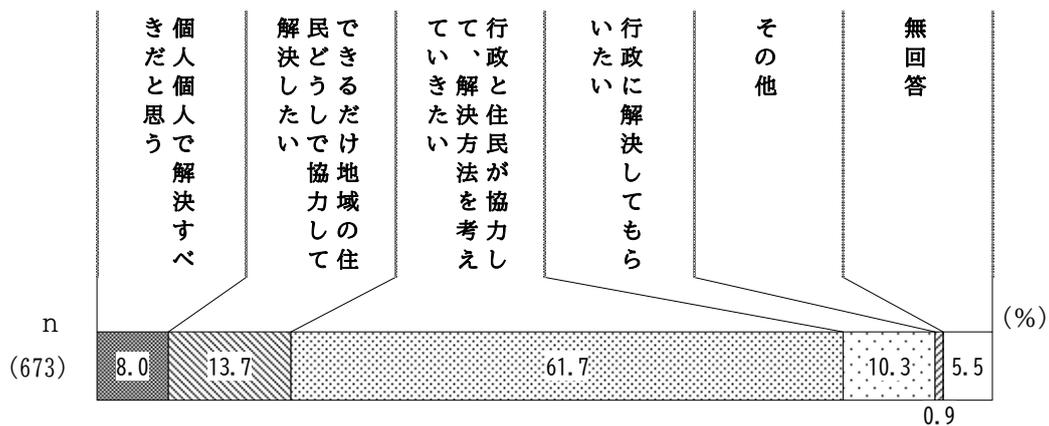
### 災害時や緊急時に備えるため、より充実すべきこと（性別、年齢別、居住地区別）（上位6項目）



## 5. 今後について

## (1) 地域の中で起こる困りごとや心配なことの解決法

問26 今後、地域の中で起こる困りごとや心配なことに対して、どのような方法で解決するのが良いと思いますか。(○は1つ)



地域の中で起こる困りごとや心配なことの解決法では、「行政と住民が協力して、解決方法を考えていきたい」が61.7%で最も高く、以下、「できるだけ地域の住民どうして協力して解決したい」(13.7%)、「行政に解決してもらいたい」(10.3%)、「個人個人で解決すべきだと思う」(8.0%)となっている。

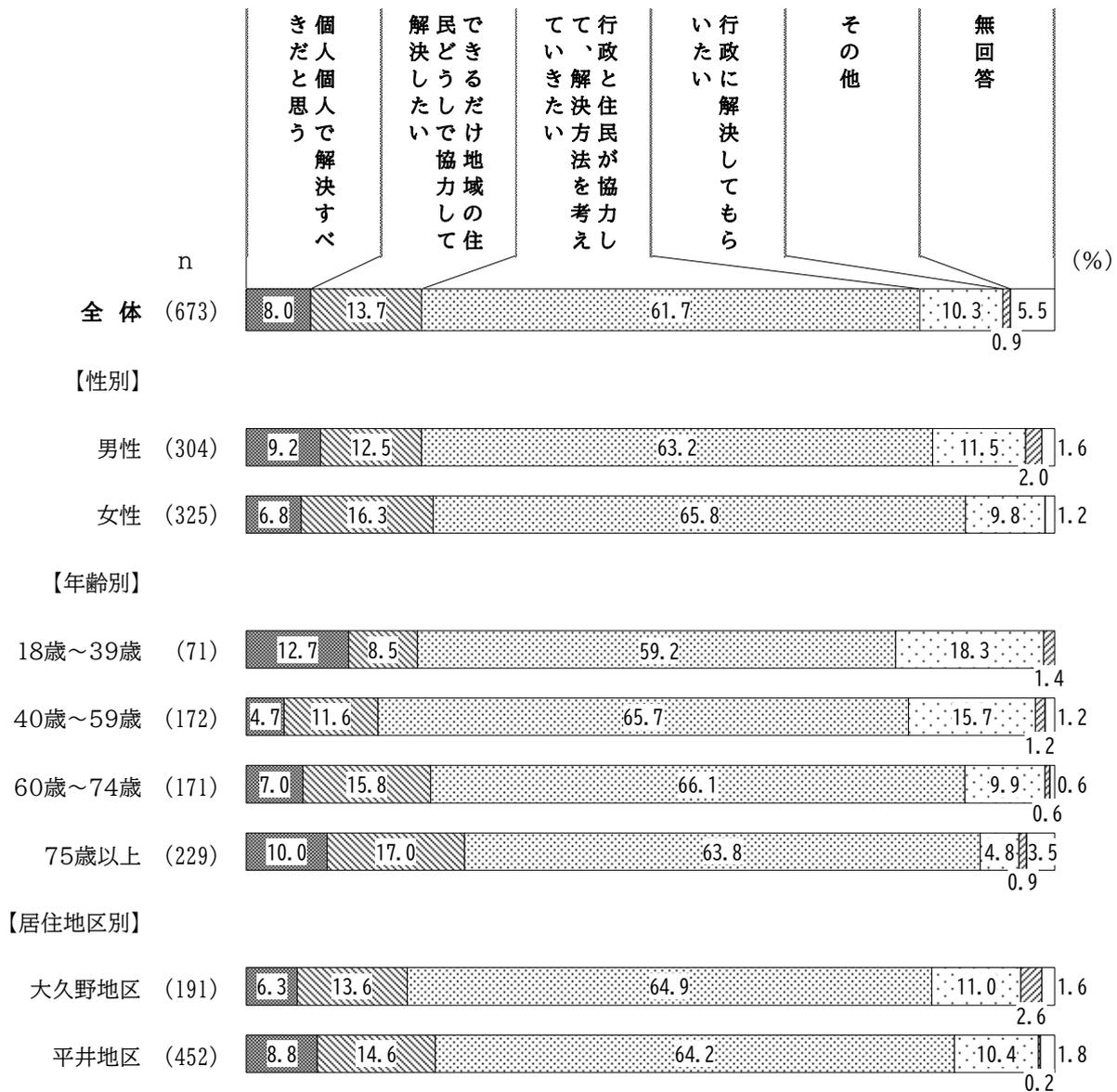
性別でみると、男女の間に大きな差は見られなかった。

年齢別でみると、すべての年齢で「行政と住民が協力して、解決方法を考えていきたい」が最も高くなっている。また、「行政に解決してもらいたい」は年齢が下がるほどその割合は高くなっている。

居住地区別でみると、地域の間には大きな差は見られなかった。

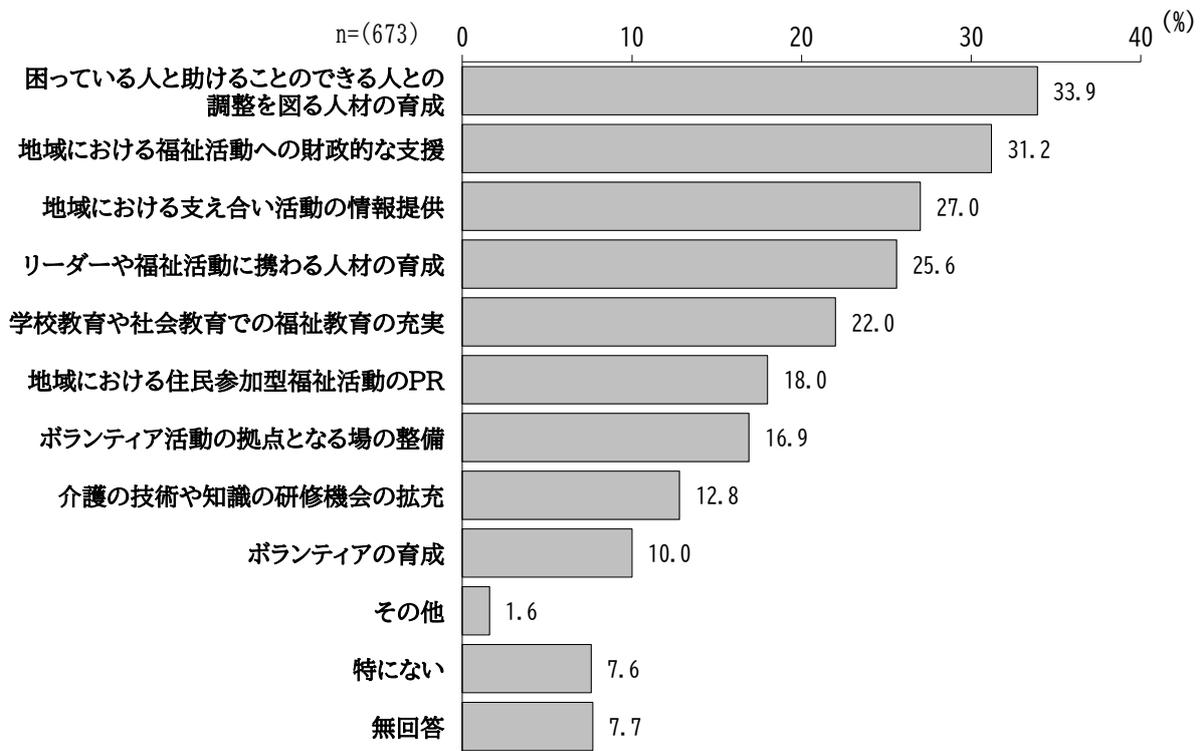
## 第2章 調査結果の詳細

地域の中で起こる困りごとや心配なことの解決法（性別、年齢別、居住地区別、居住年数別）  
（上位6項目）



## (2) 地域における助け合いを活発にするために必要と思われること

問27 あなたは、地域における助け合いを活発にするために必要と思われることはどのようなことだとお考えですか。(〇は3つまで)



地域における助け合いを活発にするために必要と思われることでは、「困っている人と助けることのできる人との調整を図る人材の育成」が33.9%で最も高く、以下、「地域における福祉活動への財政的な支援」(31.2%)、「地域における支え合い活動の情報提供」(27.0%)、「リーダーや福祉活動に携わる人材の育成」(25.6%)となっている。

性別で見ると、「困っている人と助けることのできる人との調整を図る人材の育成」(男性：30.3%、女性：40.0%)で9.7ポイント、「地域における支え合い活動の情報提供」(男性：22.7%、女性：33.5%)で10.8ポイント、女性が男性より高くなっている。

年齢別にみると、「困っている人と助けることのできる人との調整を図る人材の育成」は60歳～74歳で41.5%と最も高くなっており、「リーダーや福祉活動に携わる人材の育成」は75歳以上(34.1%)で最も高くなっている。

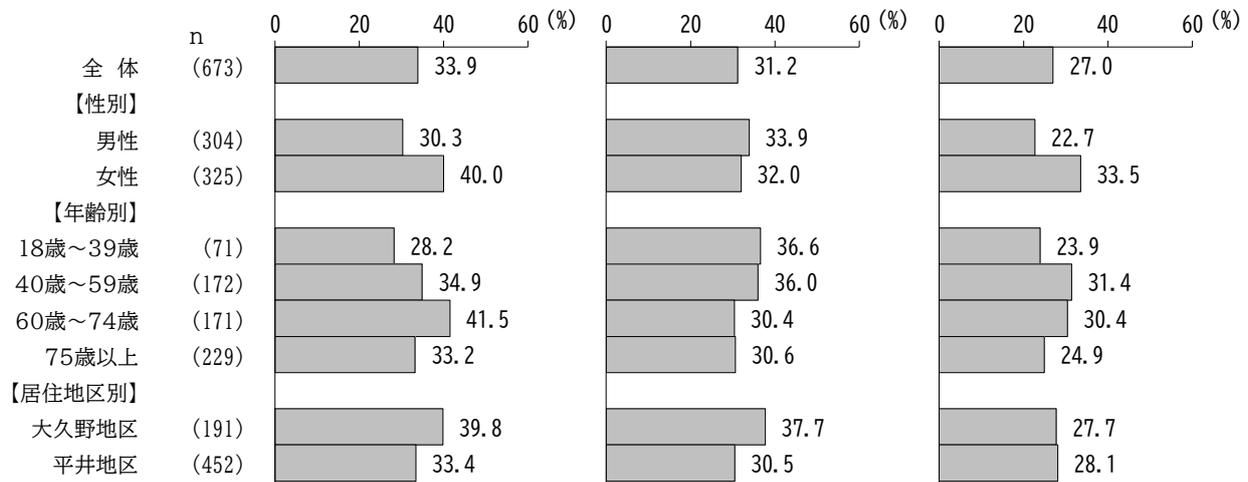
居住地区別にみると、「困っている人と助けることのできる人との調整を図る人材の育成」(大久野地区：39.8%、平井地区：33.4%)は6.4ポイント、「地域における福祉活動への財政的な支援」(大久野地区：37.7%、平井地区：30.5%)は7.2ポイント、大久野地区が平井地区より高くなっている。

## 第2章 調査結果の詳細

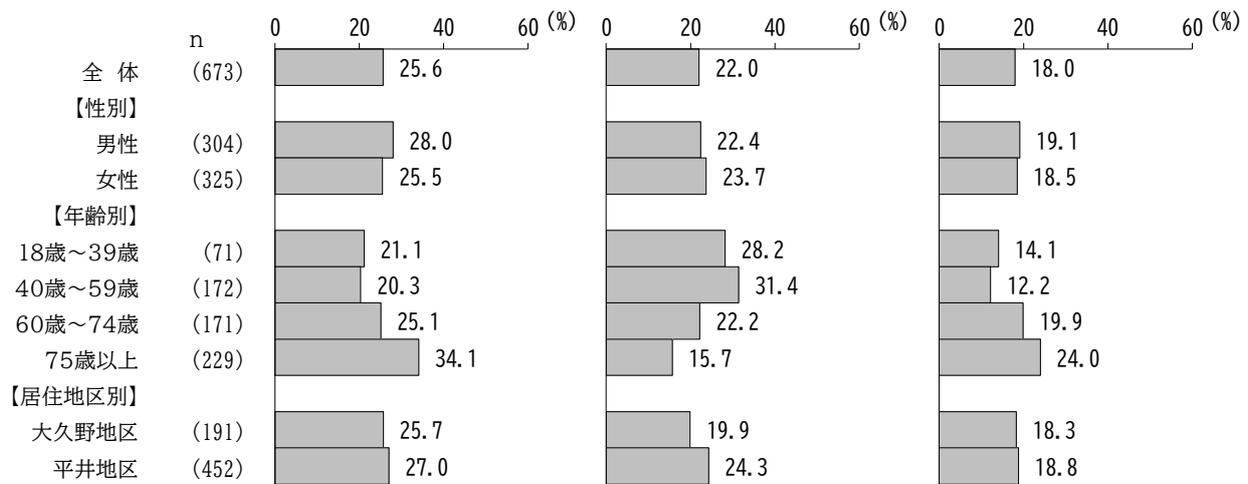
### 地域における助け合いを活発にするために必要と思われること（性別、年齢別、居住地区別）

（上位6項目）

- 困っている人と助けることのできる人との調整を図る人材の育成 □ 地域における福祉活動への財政的支援 □ 地域における支え合い活動の情報提供

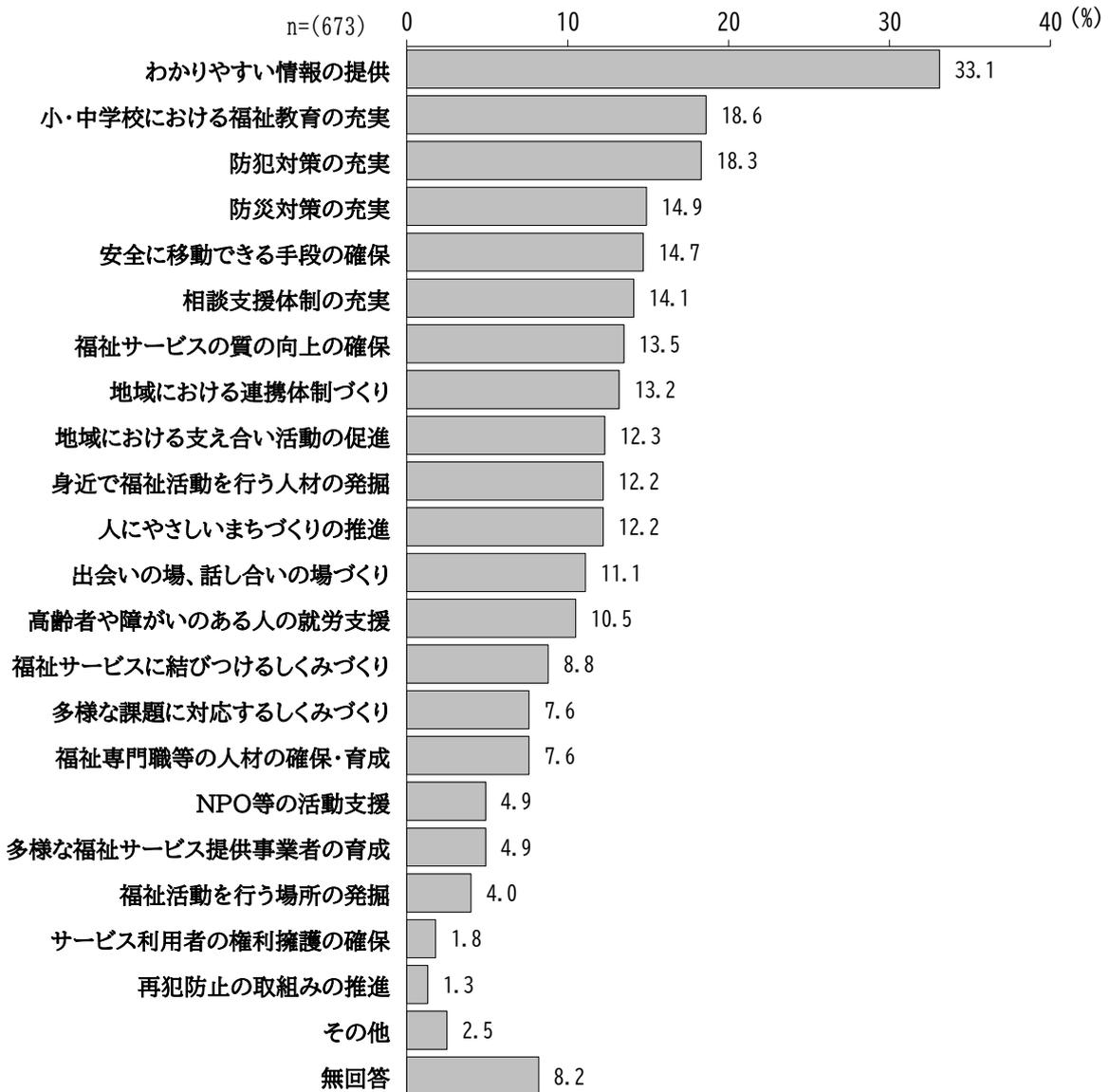


- リーダーや福祉活動に携わる人材の育成 □ 学校教育や社会教育での福祉教育の充実 □ 地域における住民参加型福祉活動のPR



## (3) 地域福祉推進のために町が優先的に取り組むべきだと考える施策

問28 地域福祉推進のために町が優先的に取り組むべきだと考える施策はどれですか。(○は3つまで)



地域福祉推進のために町が優先的に取り組むべきだと考える施策では、「わかりやすい情報の提供」が33.1%で最も高く、以下、「小・中学校における福祉教育の充実」(18.6%)、「防犯対策の充実」(18.3%)、「防災対策の充実」(14.9%)となっている。

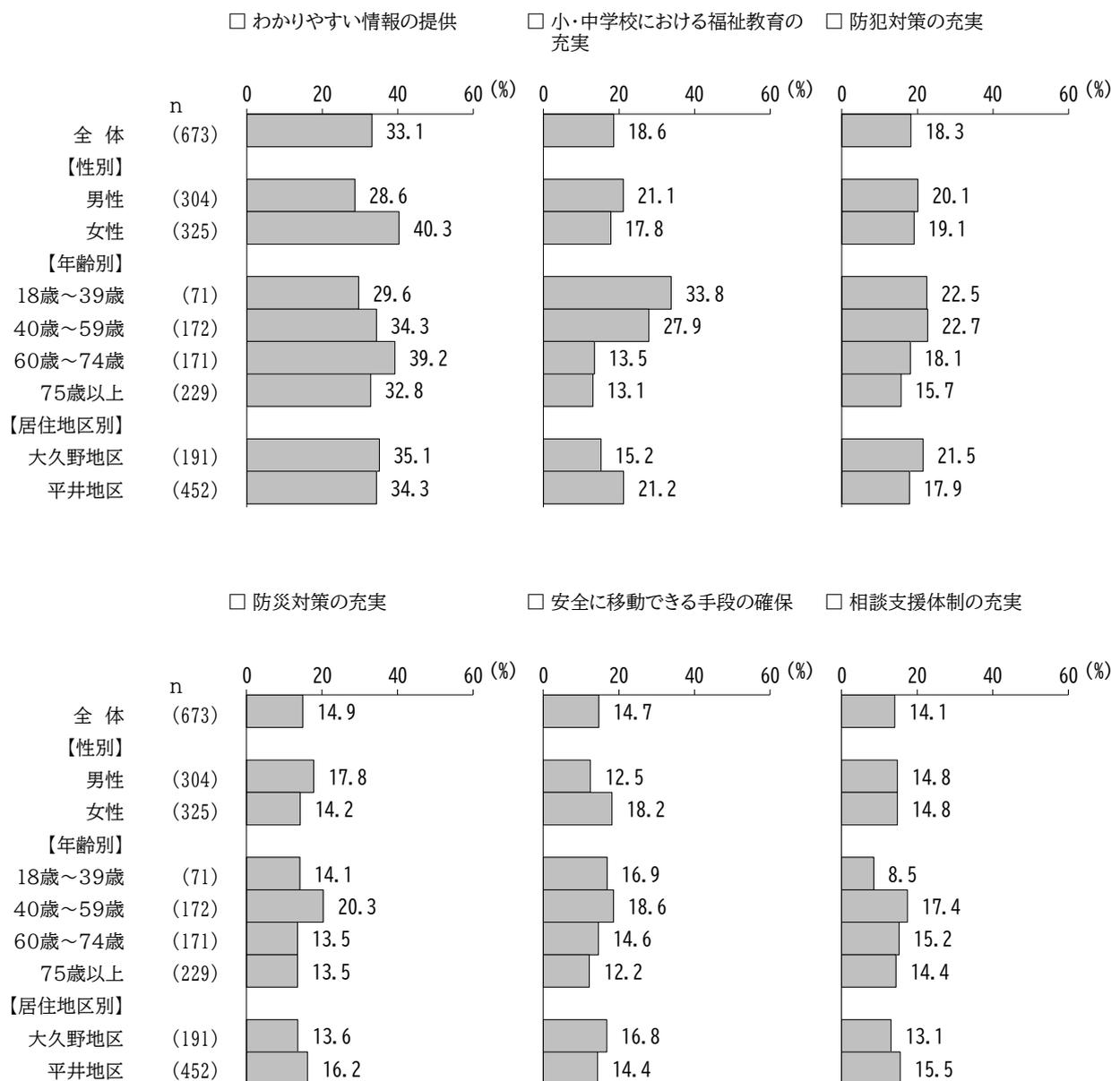
## 第2章 調査結果の詳細

性別でみると、「わかりやすい情報の提供」（男性：28.6%、女性：40.3%）は11.7ポイント、「安全に移動できる手段の確保」（男性：12.5%、女性：18.2%）では5.7ポイント、女性が男性より高くなっている。

年齢別にみると、「わかりやすい情報の提供」は60歳～74歳(39.2%)、「防災対策の充実」は40歳～59歳（20.3%）で高くなっている。また、「小・中学校における福祉教育の充実」は18歳～39歳（33.8%）と40歳～59歳（27.9%）で高くなっている。

居住地区別にみると、「小・中学校における福祉教育の充実」は平井地区（21.2%）が大久野地区（15.2%）より6.0ポイント高くなっている。

### 地域福祉推進のために町が優先的に取り組むべきだと考える施策（性別、年齢別、居住地区別） （上位6項目）



## 6. 自由回答

### (1) 地域福祉の充実に向けたご意見

問40 地域福祉の充実に向けて、ご意見等ございましたらご自由にお書きください。

地域福祉の充実に関連して、129名の方から計193件の意見が寄せられた。それらの意見を分類すると、「道路・施設・交通について」(36件)が最も多く、次いで「行政・まちづくりについて」(26件)、「高齢者福祉について」(21件)、「地域福祉について」(20件)となっている。

分類	件数
道路整備・施設・交通について	36
行政・まちづくりについて	26
高齢者福祉について	21
地域福祉について	20
子育て・教育について	19
交流・居場所作りについて	11
情報提供・相談について	10
自治会について	9
ボランティア活動・地域活動について	8
医療・保健について	7
近所付き合い・助け合いについて	6
アンケートについて	6
防災・防犯について	5
人材確保・育成について	4
その他	5
合計	193

※複数の分類記載もあるため、分類別件数の合計は回答者数と一致しない

#### 主な意見（「その他」以外の抜粋）

##### ■道路整備・施設・交通について

- ・町内に鉄道がなく、移動手段が限られているため、コミュニティバスの本数を増やしてほしい。
- ・高齢者にとって“支援バス”は非常に助かっている。
- ・地域の人々の結びつきを深めるために助け合いや交流活動を盛んにすること、道路、公園、商店などを誰もが利用しやすいものとするなどが、とても大切である。
- ・歩きやすい、走りやすいなど、道路環境の拡張整備を望む。

### ■行政・まちづくりについて

- ・子どもがいないので、両親が他界し1人になり、自分が高齢になった時のことを思うと不安で怖くなる。そういった不安が日の出町に住んでいたら薄れるような、やさしい町づくりを目指してもらえたらと思う。
- ・町の活性化が急務であると思う。交通の便が悪い事で、人口激減する結果が生まれる。
- ・若い人を増やすことが重要である。高齢者ばかりでは何もできなくなる。市街化調整区域や農業振興地域の見直しを早期に行ない、人口を増やしてほしい。

### ■高齢者福祉について

- ・高齢夫婦2人暮らしや独居老人が増えているのでこうした人々の安心安全が地域の大きな課題になっていく。若い者や子供が増えないと解決は難しい。
- ・日の出は福祉というと高齢者ばかりに手厚い。ぐるりん日の出に高齢者が乗らないのは、高齢者外出支援バス（無料）があるからだと思う。高齢者支援バスを有料（100円）にするとか、だれでも（子ども、障がい者）も乗れるようにするとか、福祉の枠の中でも高齢者だけ優遇するのは不公平だと思う。
- ・人生100年時代といわれる今元気で長生きする秘訣は、適度な運動とおいしい食事、楽しい会話と思っている。

### ■地域福祉について

- ・本アンケートを通じて、地域全体の課題を共有し、より良い町づくりを目指す一助となれば幸いである。
- ・福祉、防災、防犯等への取り組みは地域毎、自治会毎の事情に合わせた取り組みが必要であり、それに対応できる行政の体制が必要である。
- ・地域の住民が地域福祉そのものを知らない。もっと広くPRしないとわからないと思う。
- ・地域福祉についてはその必要な立場にならないとよく理解できないと思う。

### ■子育て・教育について

- ・土日など地域で子どもを見守れる環境づくりや見守りの勉強会などがあれば、こちらも手助けしやすくなるので、そういったものの拡充をお願いしたい。
- ・子育て支援をもっと充実させてほしい。

- ・日の出町は高齢者のみ、子どものみと分かれてのサービスという印象。赤ちゃんから高齢者までが一緒に集える場があってよいと思う。高齢者に対しての支給、子どもだけの支給があるとお互いに不満を言い合うのではなく、互いに支え合える社会を築けるとよいと思う。

### ■交流・居場所作りについて

- ・子育て世代の集える安心した場所の充実。
- ・地域の人々の結びつきを深めるために助け合いや交流活動を盛んにすること、道路、公園、商店などを誰もが利用しやすいものとするなどがとても大切である。
- ・「年齢」で生きるのではなく、「生きがい、楽しみ」で生きるような、退職した後でも活躍できる環境整備。人材の活用、交流の場などの整備。

### ■情報提供・相談について

- ・活動や制度があっても知る機会がない。いつどんな時に利用できるかなど。高齢者だけでなく、全世帯に地域の活動や制度を知る機会を作ってほしい。
- ・地域の人達との色々なつながりは必要であり、大切な事だと思う。特に有益で新規性の高い情報は必要だと思うが、ネガティブ情報も流れる可能性も多いにあり得る。福祉に携わっている方の質の向上を望む。
- ・せっかくの支援、救済の情報をすべての住民に行き渡るよう、さらなる情報発信への工夫をお願いする。

### ■自治会について

- ・自治会にみんな入らないので、お祭りなどの継承など時々心配になる。
- ・自治加入率が低いので、なるべく加入していただきたい。加入されていない方でも、防災訓練や地域清掃など共通的な業事に参加してほしい。又、各種協力金などへの協力もお願いしたい。
- ・成人の子どもが出ていき、高齢者のみの家が多くなり、10年先は自治会の組も見直しが必要と考えている。

### ■ボランティア活動・地域活動について

- ・仕事をリタイアした人々に生き甲斐を与えるため、ボランティア活動に勧誘してあげるとよいと思う。
- ・今は子育て真っ只中の為、子どもが高校生以上（7～8年後）になったら、自分の時間（フ

## 第2章 調査結果の詳細

リータイム)の中で地域に係わるボランティアや高齢者とのふれあいなど、少しずつやってみたいと思う。

### ■医療・保健について

- ・高齢者に対する医療費補助の充実。
- ・健康診断の予約方法をもっと分かりやすく、予約期間をもっと長くしていただきたい。

### ■近所付き合い・助け合いについて

- ・日の出町に住んで5年になる。小学生たちの明るい挨拶にほっとする。
- ・人口がふえた分、いろいろな人が住み、日の出村からも町に変わり、コロナ、病気もいろいろな変化が起こり、住む人も変わり、近所つきあいも少なく、自治会も入っている人も少なく、あいさつする人も少なく、さびしい。自分の事だけで大変なのか、もうすこし、あいさつぐらいするように心がけている。

### ■アンケートについて

- ・本アンケートを通じて、地域全体の課題を共有し、より良い町づくりを目指す一助となれば幸いである。
- ・アンケートの内容が重た過ぎる。意見を求めるのに欲張りすぎ感がある。読み込まないと答えられない内容も多く、回答するのに疲れた。

### ■防災・防犯について

- ・物騒な世の中となった今、町に防犯カメラを多数設置し犯罪への抑止力につなげてほしい。子どもたちが安全に暮らせる町でいてほしい。

### ■人材確保・育成について

- ・専門職を配置し、相談体制の充実を図る努力を望む。
- ・福祉に係わる人の育成を充実して頂ければと思う。

日の出町  
地域福祉に関する  
アンケート調査報告書

発行 令和7年3月 日の出町

企画・編集 日の出町福祉課

〒190-0192 東京都西多摩郡日の出町大字平井2780番地

TEL：(042) 597-0511 (代)

FAX：(042) 597-4369